



実践団体情報

記入日	2019年12月15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
代表者名	校長 若松 悠紀子
プラン全体のタイトル	わくわく防災減災—毎日, 学校で防災について考えてみた。1から分かる! 学校の日常に防災教育を入れるコツと, 生徒が活躍できる地域連携のススメ
電話番号	(03) 3416-1150
メールアドレス	
実践団体の説明	中高一貫の私立女子校で所在地は世田谷区(併設小学校は目黒区)。「被災地ボランティア研修」(2012年~@宮城)での学びがきっかけとなり, 2015年から学校内及び地域での防災教育・防災活動に取り組み始めた。防災教育を学校の特色の一つと位置づけ, 様々な活動を展開している。特に「東京の私立女子校」という特性を活かした実践と災害時のトイレ問題の取り組みが特徴的である。防災を軸とした地域との連携も広げており, 区と乳幼児と妊産婦を受け入れる「福祉避難所(母子)」の協定を結んでいる。
所属メンバー	校長 若松 悠紀子
活動地域	東京都内(世田谷区を中心とした都内各地), 宮城県(石巻市・塩釜市・仙台市・東松島市・山元町・亘理町), 熊本県(熊本市)
活動開始時期・結成時期	2012年(被災地研修開始) / 2015年(防災教育開始)
過去の活動履歴・受賞歴	2015年度・2016年度学校防災力向上事業参加(日本トイレ研究所・世田谷区のプロジェクトに協力), 国土交通省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」に事例として掲載(2015年度版 p.49, 2018年度版 p.50), 2017年度防災甲子園 フロンティア賞受賞, 2017年度ボランティア・スピリット・アワード コミュニティ賞受賞, 2018年度防災教育チャレンジプラン 防災教育特別賞受賞



プラン全体の概要

防災教育が浸透しない理由として「多忙を極める学校現場で、教員の知識や技能が不十分」であることが、しばしば指摘されるが、なぜ本校では防災教育が実現できているのか。理由はとてもシンプルで、教員も生徒も「やりたいから」である。ただし、生徒がやる気を出す仕掛けや、教員がやる気を維持する工夫が必要となる。生徒が防災の主役になる実践を通じて、防災教育の魅力を高めたい。

◎**隙あらば防災**「どうすれば防災に繋がられるか」を常に考えながら、学校生活を送っていると、色々なチャンスが見つかる。「防災を教える」だけでなく「防災『で』教える」が必要だ。防災教育をすれば、簡単に生徒が変わる訳ではない。本校の生徒の意識や行動を変えたのは「ちょっとした工夫」や「日常の小さな声かけ」の積み重ねも大きい。試行錯誤や小さな工夫も、報告・共有していきたい。

◎**防災意識を高めるから「防災あたり前感覚を育む」**

「中高時代は防災に対する『あたり前感覚』をつける時期」と捉えている。生徒は災害と同一視し、防災にネガティブな印象を持っているので、ポジティブに変えるには、「防災＝未来の命を救うボランティア」の位置付けが効果的だ。さらに一時、教員が張り切るあまり生徒に「防災依存心」が生まれるという矛盾が生じた。生徒に行う防災教育と、学校としてすべき災害対策は別、と認識を改め、教えるから「引き出す」防災教育へ転換を図ったところ、より効果的に主体的に行動する態度が育つようになった。

◎**直面した台風 19 号**

今年度の特筆すべき特色としては、水害に重点を置いたプランを展開していたところ、台風 19 号に直面した。

▽**「実践したプランの内容と成果の報告」の内容**

情報整理術、授業実践（教科単独/教科横断）、他校との連携、地域との連携、校外・被災地での防災学習、防災講演会、災害時のトイレ問題、訓練、教職員研修、日常の工夫



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	年間の授業構想を練る・ 7月被災地研修企画開始	授業づくり及び連携先(学 外)との打ち合わせ ⇒ 年間 を通じコンスタントに継続	授業実践 ⇒ 年間を通じて実施 (社会・ 理科・国語・家庭科など)
5月	防災訓練の企画開始	被災地研修下見@宮城	調理実習・言語カウイク・ 修学旅行@熊本県
6月	社会科見学の企画開始	防災訓練リハーサル	地域連携授業・訓練・アンケ ート実施・青少年赤十字研修
7月	教職員研修の企画開始	被災地研修事前学習・ 社会科見学の打ち合わせ	第16回被災地ボランティア 研修@宮城県
8月	3月被災地研修企画開始	被災地研修下見@宮城	教職員対象研修・ポスター
9月	社会科見学の授業構想	水害についての情報収集	ミニ避難訓練
10月	教科横断型授業の担当者 打ち合わせ	地域イベント打ち合わせ・ 台風19号対応	講演会・ワークショップ・ 「避難」について考える
11月	教職員研修の調整	イベント打ち合わせ・ 資料作成・プレゼン準備	携帯トイレ作成・講演会・ 社会科見学@防災科研
12月	被災地研修の企画再開	被災地研修下見	教科横断型授業・私学教職員 対象研修会・地域イベント
1月	復興支援イベントの生徒 プロジェクトチーム結成	年間活動のまとめ作成・ 追悼イベント書道作品作成	留学生授業・炊き出し・ 被災地研修校内報告会
2月	携帯用防災グッズの検討	被災地研修下見	母子避難所訓練への参加
3月	来年度に向けての立案	イベント開催準備・ 被災地研修事前準備	復興支援イベント@池袋・ 第17回被災地研修@宮城県

プラン全体の反省点・課題・感想	生徒が成長する防災教育の魅力にワクワクしながら、さら に実践を重ね、校内外での取り組みや連携が広がった。一 方で新しい取り組みの準備に時間がかかり、プラン実施に 追われていたので、計画性・効率性も意識していきたい。
今後の活動予定	学校現場で活用しやすい実践事例・クロスカリキュラムを 楽しく開発すると共に、防災教育の魅力を広めたい。



記入日	2019年12月27日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	01(情報整理術)
タイトル	学校現場で、毎日防災について考えてみた。 (実践の中で発見した課題や疑問を追究し、防災教育に取り組みやすくするための情報整理術)
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	毎日/2019年5月・9月・12月頃にふり返りと整理
実践の所要時間	—
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	教職員
防災教育の対象者の人数	約1人→気づいたことを職員室で共有
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 職員室など

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>①日々、学校現場で防災教育に取り組む中で、課題や疑問を発見し、定期的にそれらの解決策を考えたり、原因を追究したりすることで、より良い防災教育の在り方を模索する。</p> <p>②本校で起きたことは、他校でも起こり得ることだと思うので、事例として共有することで、防災教育の浸透・継続に貢献できると良いと考える。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>これまでの約5年間の防災教育の実践の中で、様々な課題、疑問、矛盾、誤解、壁、思わぬ結果が表れる不思議な現象などが次々と生じた。そのことで悩んだり、防災教育へのモチベーションが下がったりもしたが、それらを1つ1つクリアすることで、また新しい手法やより良い防災教育の在り方を見つけられることに気づいた。また、経験上の1つの見方ではあるが、これらの困難が、教員が「時間がない・</p>
------	--



	<p>知識がない」と言って、防災教育に一步踏み出せない状況の背景にあるのはいかとも感じる。</p> <p>↓</p> <p>今年度、意識して、定期的にそれらのことを分析・整理したことで、モヤモヤしていたことがすっきりし、防災教育に対する教員の心理的負担が減ることに気づいた。次の項目でいくつか具体例を挙げる。</p>
実践内容・方法	<p>①【課題】 実践の中で生じた課題等を挙げる。</p> <p>②【追究】 課題解決に向けた工夫や課題を追究した結果、見えてきたことをまとめる。</p> <p>③【解決】 どのように課題解決を図ったか、特に今年度の取り組みや工夫を報告する。</p> <p>そもそもの防災教育の第一歩の踏み出し方で悩む</p> <p>【課題】 防災教育を始める段階で、そもそも、どうすれば防災教育が学校で受け入れられるか悩んだ。真面目に一生懸命防災の大切さを訴えても、なかなか生徒の関心は高まらない。</p> <p>↓</p> <p>【追究】 逆転の発想で、「にこにこしながら、楽しそうに防災減災と言いつづけたら、どうなるか」試してみることにした。</p> <p>↓</p> <p>【解決】 学校全体に、前向きに防災が浸透するようになった。「防災は楽しい」という感情は、教員の防災教育に対するモチベーションの維持にも繋がっている。今年度も日々、防災は楽しいという姿勢で取り組んだ。</p> <p>防災を頑張っていたら「先生は災害が好き」という謎の誤解が広がる</p> <p>【課題】 防災に楽しく取り組んでいるうちに、「先生は災害が起こるのを喜んでいる」と生徒が誤解し、地震が起こると「嬉しかった？」と聞いてくるようになった。一方で、中1で防災教育を始めようとする「怖いからヤダ」という声が上がることが度々あった。</p> <p>↓</p> <p>【追究】 生徒は災害と防災を同一視して、防災に対してもネガティブ</p>



な感情を抱いていることが、防災教育の妨げになっているのではないかと考えるようになった。実際に中1の最初の防災教育の授業で、「防災という言葉聞いて思い浮かぶ気持ち」を書いてもらったところ、「災害をイメージして、辛い気持ち」といった回答が見られた。



【解決】 災害と防災は別物（間逆）であることを、教員自身が、しっかりと認識・理解した上で、生徒が感覚として理解できるように教育する。特に今年度は、教員は災害と防災に関する単語や情報を敢えて書き出し、自分なりの言葉で説明する作業を行った。その上で、繰り返し、生徒に「災害と防災は違います」と言い続けて、防災に対してポジティブな気持ちを持てるように工夫した。

▼【例】教員なりの言葉で説明をまとめてみる。

災害	防災
大きな災害が起こると深刻な被害を受け、つらい経験をすることもある。自然災害の発生を止めることはできないし、日本では様々な災害が頻発している。	これから起こる災害に備えて、やればやるほど、救われる命が増える、未来志向の取り組み。過去に起きた災害の教訓からも学ぶことができる。

教員が張り切って防災に取り組んだ結果、却って生徒の防災依存心を高めるといふ矛盾が生じた。

【課題】 初期の頃、教員主導で防災を進めていたところ、授業中に地震が発生した際に「先生が何とかしてくれる」と言って、生徒が身を守る行動を取らないということが発生した。夜や休日に地震が起きた後に、学校にいる時間帯に起きた訳でもないのに、「この学校の生徒で良かった。先生がいるから良かった」という発言がしばしば生徒から聞かれるようになった。



【追究】 教員が張り切って防災に取り組む姿を見せることは、生徒の関心を惹く上でも効果的だが、「先生が守ってくれる」という安心感をむやみに育てるのは、却って、生徒を危険に晒すのではないか。この



ような思いが中高時代までに固定化されることが、防災を行政任せにするなど、なかなか自助意識が高まらない背景にあるのではないか。

↓

【解決】まず、教員は、「教員が学校として取り組むべき『防災・災害対策』と、生徒に対して行うべき『防災教育』は別物として捉えるべき」と認識する。

…⇒生徒には、「どこにいても何をしても助かってほしい」という思いを真剣に伝えると共に、**【教員「先生は皆さんを守りま…」生徒「せん！」】**というやり取りを通じて、自分の身は自分で守るという生徒の自助意識を高める。このやり取りが恒例になった結果、地震発生時の生徒の行動が素早くなった。また、学校外で地震が起きた際も、「自分で考えて行動した」という報告をしてくるようになった。ただし、全校朝礼で初めて、宣言をしたときは、生徒はざわついた。やり取りの本質的目的を説明して、理解を得ることが必要。

「防災」って、実は曖昧かも？

【課題】災害や防災について考えていると、教員に果てしなく、呆然とする気持ちが生じる。一方で、地震の対応も水害の対応も、混同して「結局、防災って何をすればいいの？」と思う生徒も出てくる。

↓

【追究】「防災」と「災害」と一言でまとめるのではなく、もっと1つ1つ分けて、一步一步取り組んでいった方が良いのではないか。

↓

【解決】今年度から始めた工夫として、「防災について学ぶ」という表現ではなく、今日はどの災害についての学びなのかを、最初にはっきり宣言してから授業を始めるようにしている。(例：「今日は台風による水害について学びます」「今日は首都直下地震のことを考えます」)

「楽しく防災に取り組むのは不謹慎」という意見を聞く

【課題】学校外で、「防災に楽しく取り組むなんて言うのは、不謹慎かもしれません…」という発言をしばしば聞くことがあった。



	<p>↓</p> <p>【追究】 実践担当者は、東日本大震災発生後、何もできなかったと無力感を感じていた。その中で、「今から防災に取り組み、将来的に生徒の命を救うことに繋がるのではないか」と気づき、希望を見出した。そのため、「防災＝希望」であり、ワクワクする気持ちで取り組んでいるので、「防災に楽しむことが不謹慎」という感覚を不思議に感じた。防災と災害を生徒が同一視しているのは、大人の影響ではないかと気づいた。</p> <p>↓</p> <p>【解決】 まずは、教員に対して、「防災と災害は別物で、防災は楽しく取り組む方が、生徒の教育上も望ましい」ということを説明している。「防災に取り組む＝未来への希望」という視点で、防災教育自体の魅力を、教員視点でアピールしている。防災は、生徒の活躍のチャンスが大きい、課題がたくさんある分、生徒が解決策を考えるいわゆるアクティブラーニング型の授業を作りやすい、色々な教科と親和性が高く、授業内での学習が可能である。今年度は、2教科で連携した防災教育の授業実践を増やすことができた。</p>
得られた成果	<p>実際の実践の中で現れた課題を考察したり、整理したりすることで、その理由が見えて、防災教育がやりやすくなった。防災教育に取り組むことへの心理的負担が減った。</p>
課題・苦労・工夫	<p>課題を客観視して、理由や解決策を考えるのは大変であり、面白くもありません。</p>

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

伝えたい相手	<p>防災教育に取り組みたいと思っている先生方</p>
伝えたい内容	<p>防災教育を始めると、思っていなかった課題が発生することはよくあります。そこで諦めずに、課題解決を目指す、より良い取り組みが見えてきます。何よりも生徒が成長します。学校現場にどうやって防災を入れ込むか（時間を確保するか）、は課題の1つですが、「防災を教える」の視点だけではなく、「防災『で』教える」の視点で日常を見直すとチャンスがたくさん見つかります。</p>



記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	02(授業実践①)	
タイトル	【理科×社会×防災《理科編》】 火山の噴火実験～かたまる小麦粉で火山を再現	
実践担当者のお名前	田中(理科科)・京(社会科)	
実践にかかった金額	5000円未満	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年11月25日～29日	
実践の所要時間	50分授業2コマを3クラスで実施。	
実践の運営側で動いた人の人数	2人	
防災教育の対象者の属性	中学生	
防災教育の対象者の人数	約70人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校化学室・普通教室	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	理科教員, 小麦粉, アクリル板, ドリル, 無水エタノール, 白衣, シリコンチューブ, 注射器, 火山研究をする大学院生	

達成目標	教科書に載っていない実験方法で火山の噴火の様子を分析する。自分でマグマを配合し, 噴火させて固まることでマグマの粘度や火山砕屑物, 火山の形ででき方のイメージを具体的に持つ。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり



実践内容・方法

1 時限目 (@普通教室)

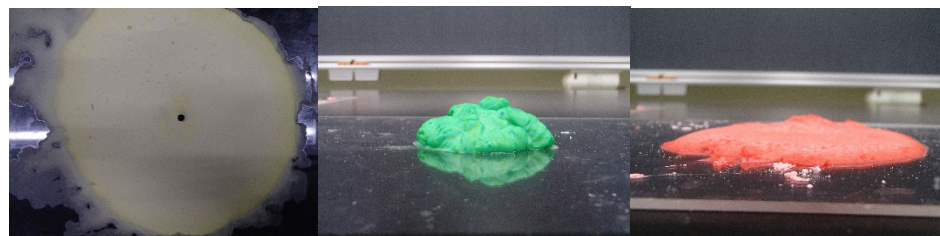
火山の導入を授業で行い、動画で溶岩ドームの形成をタイムラプスで記録した動画、成層火山の噴火動画、楕状火山の溶岩が市街地に流れる様子の記録動画を鑑賞。火山噴出物の説明や火山が形成される地域的特性の説明を行う。授業の終盤で最初に観た動画で出てきていたものが溶岩であることを確認し、次授業では動画で確認できた「流れない溶岩」と「流れる溶岩」の違いを確かめる噴火実験を行うことを予告した。

**2 時限目** (@化学室)

小麦粉と無水エタノールを混ぜてマグマの代替として用意する。この時、小麦粉と無水エタノールは配合の分量を変えて3段階の粘度になるように調節する。

穴の開いたアクリル板にシリコンチューブをつなげ、先端部分を紙粘土で固定する。シリコンチューブはできたマグマ液が詰められた注射器とつなげて、ゆっくりと押し出すようにする。各班は1種類のみマグマの押し出しを行い、自分以外の班の押し出しを観察させてもらい、自分たちの班のものと比較するように指示をした。

ゆっくりと押し出すことによって粘性が低いものでもアクリル板からこぼれ落ちることなく楕状火山を形成することができた。指示の解釈が不十分で急激な押し出しがあっても、シリコンチューブから火山碎屑物様の小麦粉が飛び出てきており、実感を持って火山碎屑物を理解できたようである。



実験後は、地理の教員から火山の特性などの解説やそれに伴う災害についての紹介をしていただいた。ついさっきまで実験で行っていたことが実際の火山のサイズで起こることで発生する被害について想像ができていた様子であった。



実験後の課題としては、マグマの違いがなぜ生じるか。なぜ無水エタノールを実験材料として採用したのかを考察課題とした。実験後の完成した火山については化学室後方の机に置き、自由に観察できるようにしたところ、自発的に比較観察を行っている様子が確認できた。



なお、都合が合ったクラスについては東京大学地震研究所で火山の研究をする大学院生に実験を見学してもらい、コメントなどを頂戴した。生徒の実験と、大学での火山研究の話を繋げてくださったことで、生徒は自分たちが楽しく取り組んでいた実験を再評価し、学びの意義が深まっていた様子だった。(▼下の写真右)



社会科の教員はTTとして、実験に参加し、理科科教員の実験の説明のサポートや、実験の間は机間巡視し、適宜、実験のサポートを行った。(社会の教員も白衣を着て授業に参加すると、普段見ない光景に生徒の関心が高まる。)



得られた成果	火山噴火の実験は教科書に記載のものよりも実際に固まった方が分かりやすい上、白衣などの衣服に飛び散って固まったもので溶岩のイメージを想起できる。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 工夫	小麦粉と無水エタノールの配分は、小麦粉の粒度などでも粘度が大きく異なるので自分で試作することが必要です。注射器は無水エタノールでゴム部分がかなり劣化するのでディスポのものが適しています。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	理科教員
伝えたい内容	噴火後に固まる材料選びを行うことで、生徒は火山のイメージが強くなります。



記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	3(授業実践②)
タイトル	【理科×社会×防災《社会編》】 逆転の発想!「地域の特性ではない」災害をどう教える?—理科&社会コラボ授業で提案する「火山が身近でない地域」における火山学習のアイデア
実践担当者のお名前	京(社会科)・田中(理科科)
実践にかかった金額	1万円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月25日~12月16日
実践の所要時間	50分(授業1コマ)+宿題→2クラス 100分(授業2コマ)→1クラス
実践の運営側で動いた人の人数	3人:教員(2), 授業ゲスト(1)
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 化学室・各HR教室
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パワーポイント, 新聞記事を使ったワークシート, 火山の噴火動画, 火山を研究する学生

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>①「地域の特性や実情に合わせた防災教育」の重要性は指摘されるが、では、逆に身近ではない災害に関する教育はどうしたら効果的に行えるだろうか。生徒は現在住んでいる身近な地域以外で災害に遭う可能性も十分ある。そこで、本実践では、教科横断的授業により、生徒が災害について「頭と心で学ぶ」ことを目指す。</p> <p>②具体的には、理科と社会のコラボ授業を行うことで、理科で火山の噴火のメカニズムを学び、同時に社会の視点からは、「ミッション学習」を通じて、火山災害に対する防災意識と知識を持たせることを目標とした。</p>
------	---



	<p>③生徒は将来的に居住や旅行，仕事などで様々な地域に行くことになる。その際に，自分が行く場所の自然特性や災害リスクをその都度，調べる意識と行動力を身につけてほしい。その際，「自分たちが安心して住むために地域を調べる」「楽しむためにリスクを調べる」という前向きな意識を持って行動してほしい。</p> <p>④火山の噴火に関しては，「運の問題」「噴火に直面したら助からない」という意識が，地震以上に強いように感じるものが，これまで何度かあった。この意識の転換を目指す。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>①本校は，富士山が学校から見えるものの，活火山が身近にある地域ではない。火山の学習に対して，生徒はなかなか実感を持たず，理科で実験を行っても単に「楽しかった」で終わりがちである。授業では「自分が一生の中で大きな地震に遭うと思う人？」という問いにはほぼ全員が手を挙げるが，「火山の噴火に遭うと思う人？」という問いに手を挙げるのは1～3割程度である。</p> <p>②学校現場では，地域の特性に応じた防災教育が行われている。これは裏返すと，その地域で身近ではない災害に対しては，教育や訓練があまり行われていないということである。この点に対して，「生徒がどこにいても，何をしていても助かること」を目標に防災教育に取り組んでいる立場から，課題意識と危機感を持った。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>1 時間目 = 《理科編》の2 時間目に該当【実践番号 02】</p> <p>※実験の手法と様子については《理科編》を参照</p> <p>↓</p> <p>2 時間目 = 社会の授業</p> <p>①前時のふりかえり</p> <p>実験の感想を聞いたり，大学院生のコメントを伝えたりした。</p> <p>②社会科としての火山学習（パワーポイント）</p>	



A 人生の中で、
自分はいつか
大きな地震に遭うと
思う人？

B 人生の中で、
自分はいつか
火山の噴火に遭うと
思う人？

《PART1》火山アンケート

C 火山に登ったことのある人？

D 火山の近くに
住んでいたことのある人？

(A)⇒ほぼ 100%の生徒が、迷いなく手を挙げる。

(B)⇒1～3 割程度の生徒が手を挙げる。

手を挙げるか戸惑う様子も見られる。

(C)⇒富士山に登ったことがある生徒が手を挙げることが多い。

(D)⇒静岡や鹿児島に住んでいたことのある生徒が手を挙げる。※火山について小学校などで学んだか、火山学習の聞いても良い。

《PART2》各地の火山を見てみよう

○九州の地名当てクイズ

→鹿児島では天気予報の一部で「降灰予報」が流れることを紹介する。ツイッターなどでも情報が出されていることを紹介する。

○各地の火山…三宅島の噴火を紹介する。

○各地の火山…昭和新山に関して、クイズを出題する。

Q. いつ誕生したでしょう？

①約 80 年前 ②約 800 年前 ③約 8000 年前 (正解：①)

名称で分かりそうだが、思い込みで多くの生徒は②③に挙手する。

つい最近できた火山、ということを知り、驚きの声上がる。

⇒地理の視点から「造山帯」の話をする。

戦時中のできごとであることから、歴史の授業とも関連させる。

(例：終戦を迎えた年を確認する)

《PART3》御嶽山の噴火から私たちは何を学ぶ？

亡くなった方のカメラに残っていた御嶽山の噴火の写真を紹介する。



生徒が災害に対して、無力感を感じていることを見越して、

(E)の問いを示す。教員「地震も火山も台風も、日本は災害大国です。こういう話を聞いて、『もう助からない』と諦める人がいるかもしれません。どうしたらいいのでしょうか??」

E 様々な災害、
私たちはどうすればいいの？



F
なぜ、つらいはずの体験を話して下さるのだろう？

ご遺族の方が写真を公開したこと、新聞等のインタビューに答えていることを伝える。(F)の問いを投げかける。

「備え」をして登山していたことで、噴火した御嶽山で一晩を明かして、助かった女性のことも紹介する。

▼参考にした新聞記事 (NIE 学習) →③の資料としても使用

「命かけた写真, 安全対策に」池田の野口さん妻が公開

信濃毎日新聞ニュース 2014/10/03

生還女性が初めて語る「あの時」「焼け死ぬのか、溶けるのかな…」

産経ニュース 2015/09/28

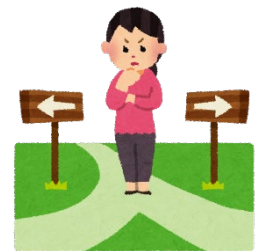


③資料プリントの配布→各自, 黙読

資料活用ワンポイント★資料をじっくり読ませるコツ

しっかりと読み取ってほしい新聞記事等の資料の場合は、「読み取ろう」の問いを設定し、1 回目は普通に黙読、2 回目は問いの答えを探しながら読むように指導する。

「どうせ災害が起きたら、自分は助からない」「だから準備しなくていいんだ」…こう思っている人、主張する人は結構います。でも、視点を変えて「災害が起きて助かる人の方が多い」という事実に目を向けましょう。そして、備えているかどうかで運命が左右されることがあります。



☆あなたは、自分が行動することで、

自分自身や周りの人が助かる確率を何%上げられますか？

④ポスターの作成

◎**社会の考察について** ★Today's ミッション★

「火山の登山をする噴火の危険性について知らない人たちに、気をつけてほしいこと (火山の噴火に関して)」について知らせるポスターを考えよう。

※2 時間目は授業時間数に余裕のあったクラスで実施した。1 コマで実施のクラスは、理科の実験の授業内に、社会の教員の解説・資料配布 (10 分) を入れて、資料の読み込みとポスターは宿題とした。

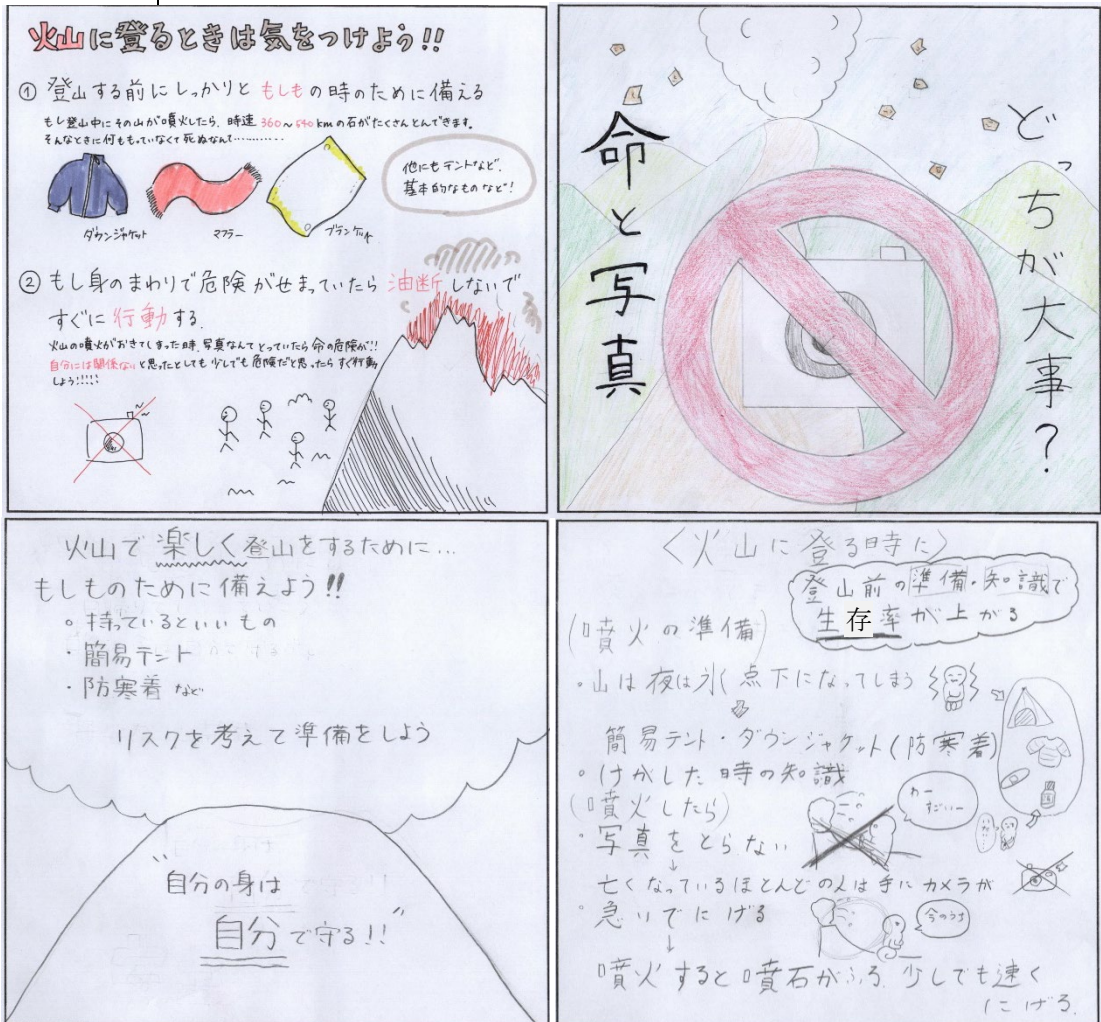


得られた成果

チャレンジ！身近ではない災害を「自分事」として捉えさせる！

- ・ポスターを描くために、理科の資料集を熱心に見たり、火山の知識をインターネットで調べる様子が見られた。

▼生徒の作成したポスター



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	災害学習を重ねる際には「日本に誇りが持てなくなる」「自然を恨む気持ちが出てくる」ことにも留意しなければならない。この課題に対しては、「火山があるからこそその恵み」についての資料を配布したり、調べたり考えさせたりする学習を併せて行うことが効果的である。多角的なものの見方も身に付くので、このようなメリットについての学習に定期的に取り組みたい。	

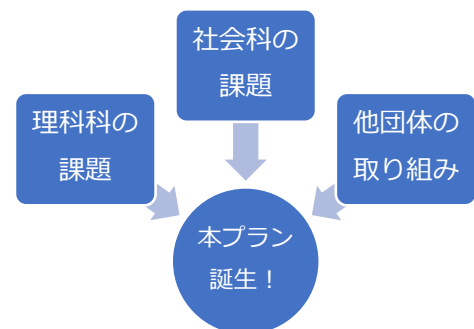
課題

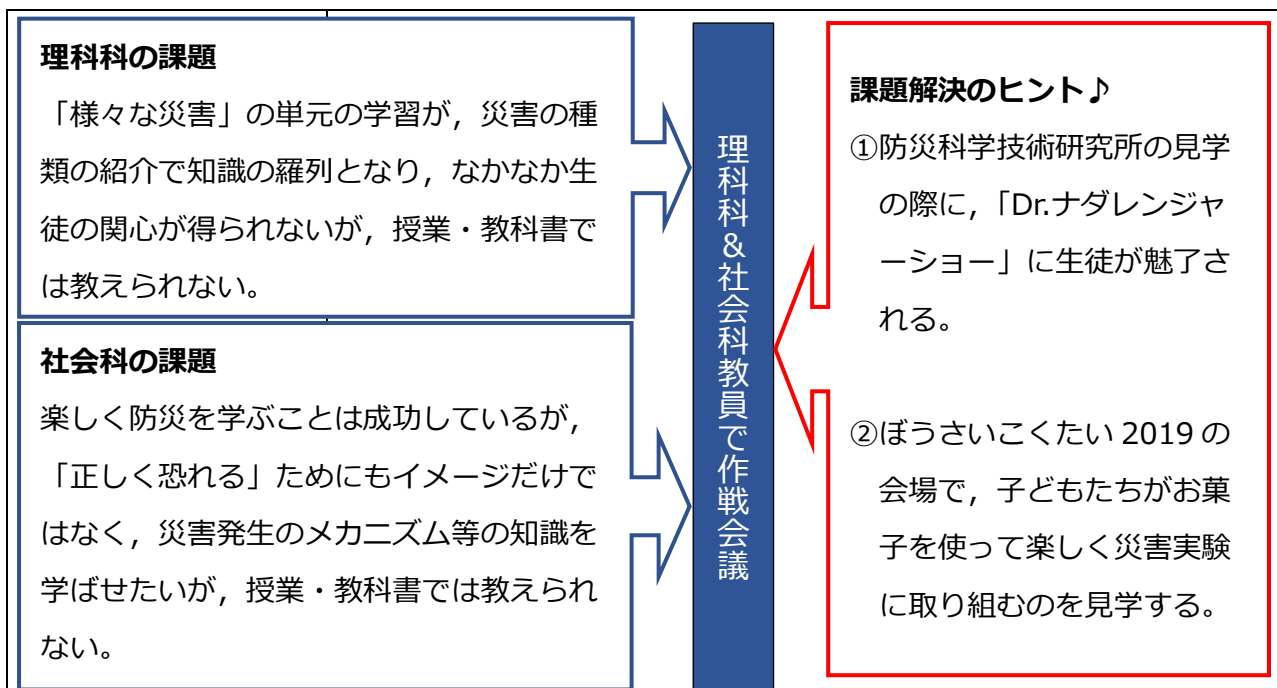
工夫



記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号	04(授業実践③)
タイトル	地震災害を分かりやすく。生徒が提案する実験授業。
実践担当者のお名前	田中(理科科)
実践にかかった金額	1000円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月11日～12月5日
実践の所要時間	2時間を3クラスで実施。
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校化学室・普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	理科教員, 園芸砂, わりばし, 発泡スチロール

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>地震の単元にある地震による災害のページでは各種の災害が文章中で述べられているだけで生徒に実感をもって学んでもらえない。そこで、生徒が自分たちで考案する実験を通じて原理や実際の被害の学習をねらいとした。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>①中学1年生の授業を担当する理科科と社会科の教員がそれぞれの教科において、防災教育上の課題を抱えていたことから、お互いの課題を出し合い、「楽しく主体的に生徒が学ぶ方法」を目標に解決策を考えた。</p> <p>②その際に学校外の取り組みに目を向けて、ヒントを得た。</p>
------	--





理科科の課題

「様々な災害」の単元の学習が、災害の種類で紹介で知識の羅列となり、なかなか生徒の関心を得られないが、授業・教科書では教えられない。

社会科の課題

楽しく防災を学ぶことは成功しているが、「正しく恐れる」ためにもイメージだけではなく、災害発生のメカニズム等の知識を学ばせたいが、授業・教科書では教えられない。

理科科 & 社会科教員で作戦会議

課題解決のヒント♪

- ①防災科学技術研究所の見学の際に、「Dr.ナダレンジャーショー」に生徒が魅了される。
- ②ぼうさいこくたい 2019 の会場で、子どもたちがお菓子を使って楽しく災害実験に取り組むのを見学する。

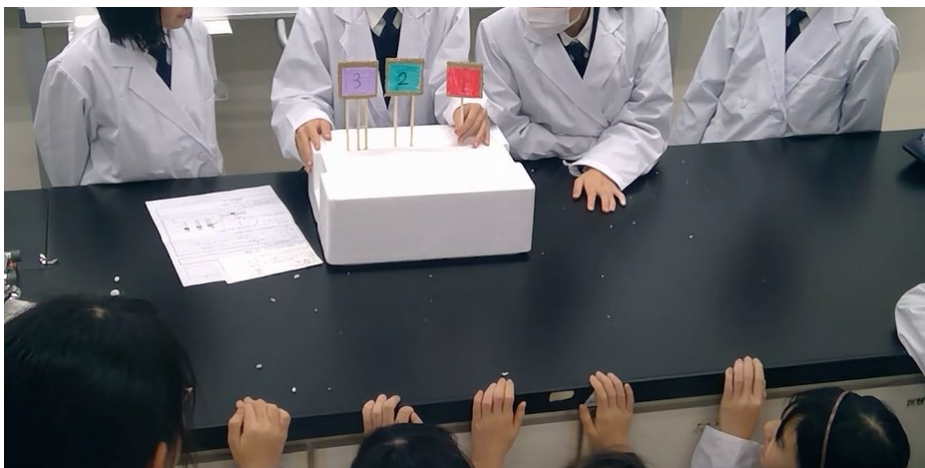
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>1 時限目 (普通教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震による災害を授業内で取り扱い、グループごとに注意する事項や条件などを話し合いさせてから発問した。本校が私立ということもあり、生徒たちが普段生活する地域ではなく、外出先や校外行事という限定で想定させた。 ・授業のまとめ時に、本時のような内容を効率よく伝えるための実験を班ごとに考案してもらうように伝え、グループのワークシートを配付した。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2 時限目 (生物室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にグループから提出された実験書の中から実践可能なものを選び、演示をお願いした。また、水槽や園芸砂などを使う必要があるため実験は生物室で行い、実験は授業の導入として実施した。 ・全クラスで異なる実験を行い、各グループに演示内容の原理説明をお願いした。採用された実験内容は液状化実験、共振実験、耐震強度実験となった。 	



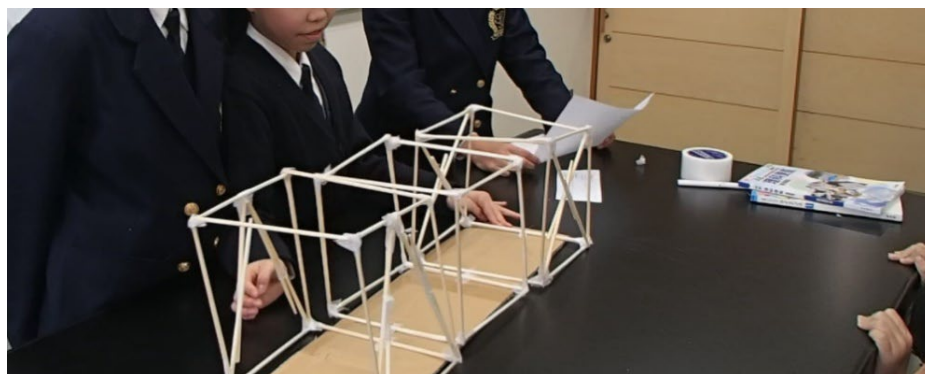
▼実験準備の様子



▼「共振実験」



▼「耐震強度実験」



得られた成果

生徒が自分たちで実験を構築し、学習につながる実験となるかどうかは不安ではあったものの、結果として非常に良い教材ができた。生徒は友人の発表を真剣に聞き、自然に質問することができていた。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">工夫</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の考案にあたっては学校にある設備，かつ購入する場合も金額の制限をかけて行ったため，再現性が高く，手軽に行える実験になった。次年度以降は発表できるグループ数を増やしていきたい。 ・11月16日に実施した防災社会科見学に向けての学習も兼ねて，理科の学習進度を合わせた。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	中学生
伝えたい内容	自分で実験を考えることで原理を自分でよく調べ，身に付けることができます。



記入日	2019年12月25日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	05(授業実践④)
タイトル	逆転の発想!!生徒「が」防災を教える防災教育 (中1防災社会科見学 生徒によるプレゼンテーション)
実践担当者のお名前	京・加嶋(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(主にプリント印刷・文房具)
実践の準備にかかった時間	1日(主に授業作り)
実践活動を実施した日時	準備:2019年9月下旬~11月15日 本番:11月16日13時00分~14時00分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	23人:防災科学技術研究所(15)・教員(9)
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	準備:目黒星美学園中学高等学校 各普通教室・パソコン室 本番:防災科学技術研究所 和達ホール
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パワーポイント, プリント, ワークシート, 付箋

<p>達成目標</p>	<p>【目的・目標】</p> <p>初めて防災の授業を受ける中1が、防災に関するアイデア・提案を自ら考え、社会科見学で専門家前で発表する。その中で、防災に対する生徒自身の抵抗感を無くすこと、及びコミュニケーション能力の向上を目指す。限られた授業時間数で実践を行い、効果を上げる。</p> <p>逆転の防災教育▶ 生徒の、防災に対する受け身意識の転換を図る。</p> <div style="text-align: center;"> <p>① 防災に対する抵抗感(心のバリア)を無くす ② 自助意識・主体性を育てる(“私が”意識)</p> <p>防災に対する開かれた心 学びに向かう姿勢の変化</p> </div>
-------------	---



生徒自身の防災への抵抗感を無くすには、最初に「考える」経験をさせることが有用である。特に効果的なのが、「生徒自身が防災について考え、大人に教える」という経験である。

○防災教育の初期の段階で、生徒の意識を転換することを目指した。

① 防災は「大人から教えてもらうもの」「誰かにやってもらうもの」でなく、「自分で考えるもの」「私自身が行動するもの」と捉える。

② 生徒が持つ防災に対するマイナスのイメージや抵抗感を取り払い、「プラスの感情」を持たせる。

③ 自らの考えを発信する面白さを経験し、学びの意義を見出す。

どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1) ワークショップの流れ

① 3～4名でチームを作る

② 「わくわくワークシート」…付箋にアイデアを書き出す

③ 「選択ミッション」…②で出したアイデアを土台にミッションAかBを選択し、3分間のプレゼンテーションにまとめる…⇒自由に出した付箋のアイデアを、「自信あり」「ちょっと良いかも」「ありきたり」に仕分けする（別のワークシート）

④ クラス内で発表し、各クラス2チームを代表として選出


(2) ミッション 2019

▼ワークショップ わくわくワークシート




Lost

外国から来た旅行者が日本で大きな地震に遭ったらどんなことに困るでしょうか。



あなた自身が言葉の通じない、文化も違う外国で災害に遭ったら…と想像してみるとアイデアが出てくるかも！

どうすれば皆、前向きに「自分のための防災」に取り組んでくれるようになるでしょうか。



どうすれば「自分が得するから備えよう！」と思ってもらえるでしょうか。

どうすれば、一人一人が「自分のために備えるのが当たり前」「災害ごとに自分で考えて行動することが当たり前」と思うようになるでしょうか？

どうすれば、防災のイメージアップができるでしょうか？



授業
プリント

★ミッションAーオリンピック目前！おもてなしプロジェクト

皆さんは、東京オリンピックに向けて、「おもてなしぼうさいプロジェクト」の担当になったとします。外国の人たちを迎えるにあたっての防災のためのアイデアを提案してください。

☆ポイント：ただし、日本の中でも防災意識が低かったり、備えは十分ではないので「外国から来る人たちのために私たちが全部準備します！」では実現可能性はないでしょう（涙）「外国から来る人たちにやってもらおうと良いこと」とそれを実現するアイデアも考えてみてください。また、迎える日本側では、どのようなことを準備しておくか、もしもオリンピック期間中に（またはそれ以外の期間もたくさんの外国人観光客が日本に来ています）、首都直下地震が発生したときに少しでもよい対応が取れるでしょうか。国や東京など大きな視点だけではなく、私たち一人一人にできることの視点が大事です！



★ミッションBー当たり前を変えよう！

防災イメージアップ大作戦

どうすれば、皆が普段から自分のために前向きに備えるようになるでしょうか。日本の多くの人々が持っている防災のイメージを変えるアイデアも含めて、アイデアを提案してください。

▲チーム活動の様子

☆ポイント：日本では「災害が起きたら避難する＝避難所に行く」というイメージができています。そのため「国や区・市が備蓄品を十分準備しているはずだ」と誤解している人も多くいます。防災に対してネガティブなイメージを持っている人が多く、普段はみんななるべく考えないようにしています。しかし、首都直下地震ではどう考えても避難所にみんなが入ることは不可能です。自宅で工夫して生活したり、避難所に行く以外の方法をとることが必要です。いつ来るかわからない地震にしっかり備えておけば、毎年のようにやってくる台風のときにも役立ちます。「備えたのに無駄になった」と思ってしまう人もいますが、実際は、防災すれば得をします！ただ「備えよう！」と言っても何をすればよいか分からない人もいます。防災のイメージを変えるアイデア、皆に「行動しよう！」と思ってもらえるようなアイデアを期待しています♪

- ↓ ミッションAかBを選び、プレゼンに向けてアイデアを出す
- ↓ 自由に出したアイデアを仕分けすることで、
- ↓ 安易なアイデアを除き、ユニークなアイデアを見出す

これは自信あり！！

ちょっと良いかも♪

ありきたり(普通)かな～



(4) 代表チームのテーマ：

▼おもてなしプロジェクト

A-1「不安から安心へ」 B-3「つながる変える防災」

C-5「『避難所に頼らないマーク』の提案」

▼イメージアップ大作戦

A-3「女子中学生が考える防災の世界」

B-1「世界への OMO TENASHI」 C-2「備えれば“得”しかない！」

(5) プレゼンテーション本番



▼防災科研の研究者・専門員から質問していただいたことも、貴重な経験になった。



得られた成果

チャレンジ！最初の防災教育で生徒の防災イメージを 180 度変える！

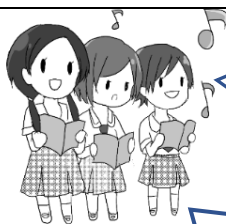
- ・ 防災に対する生徒のイメージをネガティブからポジティブへ、態度を受け身から主体的なものに転換を図ることができた。
- ・ 防災科研の研究者の方が温かい視点で、生徒のプレゼンテーションを聴いてくださったことで、大きな自信になった。またプレゼンに挑戦したいという気持ちを持った生徒も多く、次のステップに繋がる経験になった。

**▼生徒感想文より
(一部抜粋)**

私は、今回の社会科見学の前までは、災害なんて滅多にこないし防災なんかしなくても大丈夫だと思っていました。けれど、滅多にこない災害の恐ろしさと備える大切さを知りました。今私たちにできる事を想像して備えていきたいです。防災は、自分を大切にする事だと思いました。



社会科見学を通して考えたことは、防災を前向きに考え、みんなにも伝えるということです。災害時落ち着いて対応できるように、普段からコミュニケーション能力を授業内で鍛えて行きたいと思いました。災害は、いつ来るか分からず、とても怖いですが、防災はとても楽しくできます。



私は防災科学技術研究所に行ったことで改めて『防災』をすることの大切さを知りました。しかし、私だけが知るだけでは意味がありません。この機会を知り、学んだことをこれから色々な人に伝え、そして伝えた人からまた違う人に伝わり繋がってゆくサイクルが増え続ければよいなと思いました。

防災の考え方、見方が変わりました。それは、私の班がプレゼンテーションをする班に選ばれたので、もっと深く考えられたのだと思います。私の班は、「おもてなしプロジェクト」に決め、発表しました。私の班の意見は、「にこにこ大作戦」、「かわいいおみやげ防災グッズ」です。一つ目の「にこにこ大作戦」は、災害時、パニックになっている時に笑顔で対応されたら相手も自然と笑顔になり、安心出来るのではないかという考えです。二つ目の「かわいいおみやげ防災グッズ」は、日本風の柄で海外の方のおみやげとしても使えるようなグッズを私たちが考え、イラストとともに発表しました。懐中電灯として使える万華鏡ライト、助けを呼ぶための桜ブザー、自分オリジナルの布製リュックサックを作る企画を立てました。これらの意見に対し、良い評価を頂けて良かったです。

私は、防災を学ぶ前は、「防災は、怖いもの」と思っていました。しかし、「防災は、一人一人が心がけなければならない大事な事」だという事が社会科見学を通して分かりました。そして、私のように怖いと思っている方が多いと思います。だから、周りの人へ防災は大事なんだという事を伝えていこうと思います。東日本大震災が起こった頃、私は幼稚園生でした。このような話をお母さんにし、災害時のリュックサックをみたら、サイズが小さい下着類が出てきました。私は、この事から季節や体に合わせたものを入れ替える必要があると思い、実行しました。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミッションのレベル設定が課題。大きなミッションにするとプレゼンテーションの内容がまとまらなくなり、テーマを絞り過ぎると生徒の自由な発想が出て来なくなるので、良いバランスを見つけるのが試行錯誤。 ・ 今回、生徒たちが張り切った分、発表内容が広がり過ぎたため、本番直前に、プレゼンテーション指導に学年と社会科の教員総出で指導に当たることになった。 	



記入日	2019年12月25日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	06(授業実践⑤)
タイトル	生徒の心に「防災マジック」をかけよう！ —効果を飛躍的に高める「防災教育1時間目」のススメ
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年9月下旬
実践の所要時間	15分(授業の一部として, 3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 中1の各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント, パワーポイント

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>中1の防災教育1時間目。生徒たちは浮かない顔をしている。そこで、防災教育を始める時に、真っ先にすべきこととして「生徒の『心のバリア』を外す工夫」を行っている。そこには、生徒の防災に対する受け身の意識を「主体的に行動する態度」に転換するチャンスがある。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>以前、中1の授業で「防災」と言っただけで、生徒の表情が曇ったり、「怖いから止めて！」という声が上がったりしたことから、生徒の防災に対する「心のバリア」の存在に気づいた。また、生徒アンケートを通じて、生徒が災害と防災を同一視して、防災に対してネガティブな感情を抱いていることが分かった。</p>
------	--



	<p>▼生徒が 1 時間目に書き出した「防災と聞いて浮かぶ気持ち」</p>	
	<p>怖い, 興味がない, 日常が崩れることを想像して準備するのも怖い, やだなー, 亡くなった方に失礼だからイメージがあまりよくない, 防災の先生やゲストの人の話が長くて分からなくなる, 面倒くさい, 地震や災害を思い出したくない, 難しそう, 面倒で後回し, 悲しい気持ちになる, 災害のことを考えると本当に起きてしまいそうで怖い, 結局何をするか分からない, つまらなそう</p>	
	<p>※勿論, 大切なこと, しっかりやらなければ, 防災に興味がある, いくつか役立つといった意見もあったが, 上記のようなネガティブな意見が多くあった。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>防災に対して, 上記のようなネガティブな気持ちを持つ生徒たちを前に, 危機感を高める目的であっても, 「災害は怖い」というメッセージのみを送ることは, どのような効果を生むかは想像に難くない。知識・技能を教える前に, 生徒の「心のバリア」を外すことが防災教育の効果高めると考える。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか?</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>教員が, わくわくしている雰囲気でも明るく授業を始める。</p> <p>▼授業用スライド</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">社会科見学に向けて</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">わくわく♪防災減災</p> <p style="text-align: center;">～もしものために今, できること～</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>皆さん「防災」と聞いて、やる気モードはどのくらいでしょうか？</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">ぜひ、学びたい！</p> <p style="text-align: center;">★先生は もちろんココ♪</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <p>つまらなそう ←</p> <p>→ 楽しそう！</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> </div> <p style="text-align: center;">やる気…う～ん</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">わくわく!!</p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">どきどき♪</p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">きらきら★</p> <p>だから、実は困っています…</p> </div> </div>	



わくわく防災減災


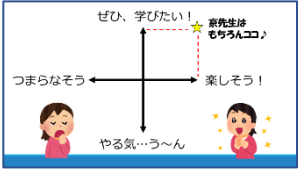
なぜ防災は**楽しくない**の？

①**防災**と聞いて…

- ・思い浮かぶもの
- ・感じる気持ち

②なぜ「防災」のイメージがあまり良くないのだろう？

皆わくわくしないの何で…!?

教員「皆さんの気持ちはどの辺りですか？」

生徒「左下」「つまらない」…

教員「先生はココです」（グラフ右上を指す）

生徒（笑）

教員「皆さんも、こんな気持ちになってくれるのを待っています！でも、だからこそちょっと困っていることがあるんです。」

わくわく!!
どきどき♪
きらきら★

だから、実は困っています…




生徒（？）

①**防災**と聞いて…

- ・思い浮かぶもの
- ・感じる気持ち

②なぜ「防災」のイメージがあまり良くないのだろう？

皆わくわくしないの何で…!?



教員「日本の社会の中に、防災意識が低いという課題があるんだけど、先生、防災が大好きだから、もはやその理由が分からなくて、困っています。だから、皆の本音を先生に教えて！」


生徒（周囲と相談して考える様子）

教員「皆の本音をどんどん書いてください。」



- ・最初の授業の出だしから「先生が防災を教える」というスタンスでなく、「全力で取り組んでいるけれど、先生だって困っている」「だから、皆と一緒に考えていきたい」という姿勢を前面に打ち出す。
- ・生徒の立場に立てば、「防災に詳しいはずの先生に、防災について頼まれて自由に意見を書き出す」という経験をする。
- ・「ネガティブな感情の理由」も正直に書いていい（むしろ書くと感謝される）という体験を通じて、「小さなアイデアでも、実は有用かもしれない」という印象を持たせる。また、「防災に興味を持っている」と書く生徒もたまにいますので、その意見も拾い上げる。




	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災とはどういうものだと思いますか？」という問いだと、「大事なこと」といった模範的な答えに偏る可能性があるため、上記のような問いで本音を書き出しやすい雰囲気づくりをする。 ・防災に対するネガティブな気持ちを明るい雰囲気の中で、書き出すことで、ネガティブな気持ちが経験の中で、いつの間にかできてきたものであることに気づく。外在化することで、あとで防災について関心のない人の意識を変えるアイデアを考える時に「自分だったらどうやったら動くか」といった思考になる。 	
<p>得られた成果</p> <p>▼ある日の 高校生の会話・・・</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>私たち、防災マジックにかかって、いくらでも防災について話しているよね～</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、防災に対して生徒のネガティブな気持ちを解消しないまま、防災教育を行ってきたことが、防災教育がなかなか効果的に行われない原因の1つだったのではないだろうか。将来的に大きな災害に繰り返し直面する可能性は誰しもが持つ。「未来に向けて考える」ために、開かれた心をつくることが大事である。 ・災害と防災をしっかり切り分けて、希望を持って防災に皆で取り組むという姿勢を貫くことで、生徒の「防災当たり前感覚」はポジティブなものになる。勿論、生徒によって取り組み・関心の度合いは違っているが、防災に対して、ネガティブな気持ちは払しょくできていると考える。知識は忘れやすいものであるが、卒業後も残るのは「イメージ」ではないか。(卒業生は、雑談はよく覚えている。) 知識と共に、そういった、「防災に対するポジティブイメージ」を育てる防災教育が大切だと考えている。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 5px; display: inline-block;">工夫</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象は大事であるので、教員が「これから防災について皆と考えるのがとても楽しみ！」と、わくわくしながら登場することが授業成功のコツ。 ・「生徒の防災に対する心のバリアを外そう」「防災教育を通じて生徒の成長を引き出そう」という心がまえで授業に臨んでいる。 	



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	07(授業実践⑥)
タイトル	「防災選択肢」を増やそうー東京では即パンク!? 「災害が起きたら避難所へ」を見直そう
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月上旬
実践の所要時間	15分(授業の一部として, 3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント, パワーポイント

<p>達成目標</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 10px auto; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;"> <p>育みたい 防災あたり前 感覚</p> </div>	<p>★育みたい『防災あたり前感覚』</p> <p>☑ 「地震が起きたら避難所に行く」のは、あくまでも災害時の選択肢の1つ。出来るだけたくさんの防災選択肢を考えておくこと・考えられることが大事。</p> <p>☑ 首都圏では、人口に対して圧倒的に避難所が足りない。避難所に入れない可能性がまず高い。入れたとしても、環境は劣悪になる可能性もある。運営するのは行政ではなく、自分たち。</p> <p>・「災害が起きたら避難所へ行く」を、“あたり前の常識”と思い込んでいる人が多い。2019年10月の台風19号でも、首都圏では台風に伴って開設された避難所がパンクするという事態が生じた。「行ってみて入れなくてびっくり」というケースが多発したのだ。</p>
---	---



	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は「福祉避難所（母子）」の協定を結んでいるため、福祉避難所を開設するためには、その場所を確保する必要がある。（また、私立学校は一般的には公的な避難所ではない。）その視点から考えると、命を守る快適な避難所を実現するためには、避難所の役割を住民が理解し、行くか行かないかを適切に判断することが必要になる。 ・「災害が起きたら避難所に」、そう人々が考えるようになる社会的背景があるはずだ。同時に、生徒に「災害が起きたら避難所に行きましょう」と教えることが、本当に災害に直面したときに生徒のためになるのか。この思いから、上記の「育みたい『防災あたり前感覚』」を設定した。 							
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>						
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>						
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>						
<p>実践内容・方法</p>	<p>パワーポイントとプリントを使って、以下の授業を展開した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="491 1077 948 1330"> <p style="text-align: center;">わくわく防災減災</p> <p style="text-align: center;">いつか必ず来る その日のために…</p> </div> <div data-bbox="960 1077 1417 1330"> <p style="text-align: center;">さて、</p> <p style="text-align: center;">あなたは首都直下地震が発生したら、すぐに避難しますか？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="491 1339 948 1592"> <p style="text-align: center;">地震発生！</p> <p style="text-align: center;">自宅のライフライン(電気・ガス・水道)が全部止まった！</p>  </div> <div data-bbox="960 1339 1417 1592"> <p style="text-align: center;">あなたはどこへ？ 並べてみよう</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>A: 家の前に停めている自家用車</td> <td>D: ライフラインの止まっている自宅</td> </tr> <tr> <td>B: 家から最寄りの避難所</td> <td>E: 被害が少なかった友だちの家</td> </tr> <tr> <td>C: 家の近くにある公園の広場</td> <td>F: 遠くに住んでいる親戚の家</td> </tr> </table> </div> </div> <p>※()内は、プリントの箇所。</p> <p>教員「ライフラインが止まったら、どこで生活する可能性が高いとイメージしますか？カードを並べ替えてみましょう(A)。ついでに地図帳を見て、都道府県のデータも埋めてください(B)。」</p> <p>生徒 (プリントに書き込む)</p>		A: 家の前に停めている自家用車	D: ライフラインの止まっている自宅	B: 家から最寄りの避難所	E: 被害が少なかった友だちの家	C: 家の近くにある公園の広場	F: 遠くに住んでいる親戚の家
A: 家の前に停めている自家用車	D: ライフラインの止まっている自宅							
B: 家から最寄りの避難所	E: 被害が少なかった友だちの家							
C: 家の近くにある公園の広場	F: 遠くに住んでいる親戚の家							



教員「1 位に選んだものはどれですか？手を挙げてください。」

▶1 回目のときは、どのクラスも 8 割以上の生徒が何の迷いもなく、「家から最寄りの避難所」に手を挙げる。この時点で、生徒は「災害が起きたら避難所」と思い込んでいることが分かる。…⇒思い込んでいる理由については、後日、ワークショップの中で書き出してもらった。



【人口密度】 世田谷区
 益城町 550人
 熊本市 1900人 **1万5000人**

【写真】テント村や車中泊など、避難所外の生活の様子

教員「では、写真やデータを見ながら、考えていきましょう。熊本地震では、多くの人が車中泊など避難所以外で生活しました。世田谷区の人口密度と比較してみましょう。東京では、避難所に入れる人はどれくらいでしょうか？」
 ※この他、最大避難者数が「東日本大震災 38 万人」「熊本地震 18 万人」等に対して、「首都直下地震 720 万人」と予想されていることもグラフを用いて、説明する。

防災あるある

避難すればいいの？
しない方がいいの？

もう…わかんない
備えなくていいか…

生徒「えっ…！そんなに…？」

大切なこと

たくさんの
防災選択肢
を考えられること

教員「ここで、考えるのが嫌になってパニックしてしまう、というのが防災あるあるなんですけど、今日は、皆で想像を止めずに考えていきましょう！」「大切な事は、たくさんの『防災選択肢』を考えられることです。避難所に入れなかったどうすればいいかも分からない、ではなく、他に選択肢を考えていけば、行動が変わってきますね。

おなたはどこへ？

2 回目：並べてみよう

A:家の前に停めている自家用車	D:ライフラインの止まっている自宅
B:家から最寄りの避難所	E:被害が少なかった友だちの家
C:家の近くにある公園の広場	F:遠くに住んでいる親戚の家

- ① 生活できる**可能性が高い**のはどこですか？
- ② できれば生活したい**安心な場所**はどこですか？

2 回目は、首都直下地震が発生したときに生活できる可能性や、できれば生活したい場所という基準でイメージしてもらおう。再度、手を挙げてもらおうと、意見は分散する。事前に様々な人と相談しておいたり、自分で備えておく大切さに気づく。



授業
プリント

いつか突然来るその日のために・・・

地震

Q. 地震が発生したら、あなたは家族と一緒に
どこで生活する予定（イメージ）ですか？



首都直下地震発生。あなたの自宅の建物は無事でしたが、ライフライン（電気・ガス・水道）が、全部止まっていて余震も続いているとします。次のカードを「災害時に生活する場所」として考えている優先順位に並べてみよう。

A:家の前に停めている自家用車 	D:ライフラインの止まっている自宅 
B:家から最寄りの避難所 	E:被害が少なかった友だちの家 
C:家の近くにある公園の広場 	F:遠くに住んでいる親戚の家 

優先順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
1回目						
2回目						

📄 地図帳 p.163 を見て、表を完成させよう

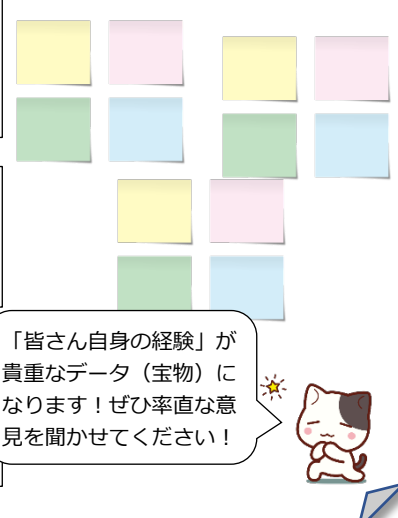
都道府県名	人口 単位に注意！	面積	人口密度 (人/km ²)
岩手県		15,275 km ²	
宮城県		7,282 km ²	
福島県		13,784 km ²	
熊本県		7,409 km ²	
東京都		km ²	
神奈川県		km ²	

東京では電気・ガス・水道がストップするような地震が起きた時、
どんなことが起きると思いますか？ 想像してみよう！

A

B



▼ワークショップ用 ミッションシート (後日)		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">なぜ、「災害が起きたら避難所に行くものだ」と思い込んでいる人が多いのでしょうか？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">しっかり自分のために備えておいた人は、実際の災害が近づいたり、発生した時にどんな「得」をするでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">東京で、「モノ」も「気持ち」も備えていない人が避難所に殺到したら、どんなことが起こるのでしょうか？</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>「皆さん自身の経験」が貴重なデータ（宝物）になります！ぜひ率直な意見を聞かせてください！</p> </div>	
得られた成果	短時間で、生徒の意識を転換できた。台風 19 号の後に、首都圏で「避難所が足りないという新しい問題が発生した」「災害が起きたら避難所へという常識が通じないかも」というニュースを紹介したところ、「東京で避難所が足りない問題があるのは私たちは、すでに知っていたよね」という反応だった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">課題</div> 地域の特性に合わせた教育が必要であるという観点からは、人口が他の地域と比べて、遥かに多い首都圏の特性に合わせた防災教育を考えるべきで、そこには避難所が足りないということをしっかり含めるべきではないかと考える。	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	08 (授業実践⑦)
タイトル	「My 日常備蓄」を調べよう！考えよう！ (パソコン室の使い方・調べ方学習×防災)
実践担当者のお名前	京 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満 (プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月下旬
実践の所要時間	30 分 (授業の一部に組み込む)
実践の運営側で動いた人の人数	1 人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 パソコン室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パソコン, プリント

<p>達成目標</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 20px auto;"> <p style="color: white; text-align: center;">育みたい 防災あたり前 感覚</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン室の使い方・インターネットでの調べ学習を学ぶ ついでに , 日常備蓄 (ローリングストック) について学ぶ。防災に関連する調べ学習を通じて, パソコン室の使い方とインターネットの使い方を練習する。 ・ 調べ学習の課題 (ミッション) には, 生徒が楽しく調べられるもの, 生徒の視点の転換を図るようなものを設定する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>★育みたい『防災あたり前感覚』</p> <p><input type="checkbox"/> 災害に備えて備蓄することは, 特別なことや面倒なことではなく, 日常生活の一部として, わくわく取り組むこと。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分の分は, 自分に合わせて自分で備えるのがあたり前。それがいざというとき, 一番自分のためになる！</p> </div>
---	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

(1) 授業の流れ

①中1は、パソコン室を使う経験が浅いので、パソコン使用のルール確認やパソコンの使い方の説明を行う。資料の調べ方など、今後の社会科の学習に必要な技能について説明・練習を行う。

②「通常の商品を防災の視点でPRしている」身近な具体例をいくつか紹介し、日常備蓄（ローリング・ストック）の考え方を説明する。

例) 今回の授業では、サンスターや無印良品の防災視点で作られたCMやHPを紹介した。

③生徒はインターネットを使って、身近な生活用品を検索して、具体的な商品名と選んだ理由をランキング形式でまとめる。

授業
プリント

地震に備えて特に**女性**におすすめしたい**日用品**ランキング

	具体的な商品名 (メーカー名)	おすすめの理由
1		
2		
3		
4		
5		

これまで「防災グッズ」と言えば、特別なグッズをわざわざ買う、というイメージがありました。そして、面倒くさい…と後回しにしがちの人が続出…(涙)

今、「日常備蓄（ローリング・ストック）」が注目されています！いざというときのために普段使っているものを少し多めに買って置くという方法です。皆さんにも「おなじみの商品」が、防災の視点からPRされています！



授業
プリント

- ・ に入る語句を変えることで、様々なバリエーションが可能。
- ・ 本校は女子校であることと、防災に女性の視点不足が指摘されてきたことから、「女性」向けランキングを設定している。
- ・ 「日用品」の部分には、具体的企業名を入れても効果的。本校では、被災地支援活動で繋がりのある日用品を製造している具体的企業名を入れて、その企業の HP を検索することもある。

(2) 別バージョン（女性をターゲットとした防災ボックスの提案）

別バージョンで次のような課題を宿題として出すこともある。

(今年度は、2月以降に実施予定)

もしものために今、できること自分目線&女性目線で備えよう！

「防災減災想像力」を働かせてビジネスアイデアを考えよう

設定：防災用品を扱う企業で働いているあなたは、社長からプロジェクトのリーダーに任命されました。プロジェクトは「女性がほしくなる防災グッズボックスをつくる」です。あなたは、スーパーや薬局などへ行き、女性向きの防災グッズになりそうなものを探ることになりました。ただ、「防災用品」は種類が限られていて、防災用品だけを詰めると値段も高くなってしまいます。そこで、防災用品にこだわらず、普段使っているものにも目を向けてみることにしました。

女性が避難生活※を送る上で必要だと思うものを詰め合わせた女性向けの防災グッズ（1週間分）を用意してください。また、その防災グッズはすてきなボックスに入れて販売します。そのデザインイメージと、「女性が買いたくなるようなネーミング」もつけてください。

※避難所で生活する可能性もありますが、収容人数は限られているので、水・電気・ガスが止まった自宅で生活を送る人も多くいます。



☑ 防災用品にこだわらず、広く商品を検討すること。(防災用品を入れても良いですが、身近にあるものの中にも備蓄品として準備しておくとも良いものたくさんあります。)

☑ インターネットで調べるのではなく、お店に行って考えてみること。

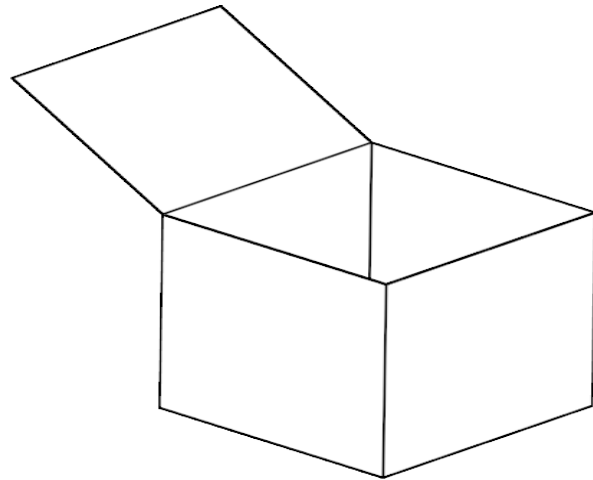


ボックスのデザイン

イラストを描いても、何か貼っても OK!!

ボックスの商品名 (ネーミング)

商品のアピールポイント



.....
.....
.....

具体的な商品名	作っている企業	いくつ入れたいか	およその価格 (合計)	なぜその商品を入れたいか・おすすめポイントなど
1				
2				
3				

得られた成果

チャレンジ！日常の学校生活に「防災要素」を入れる。

- ・生徒たちは時間いっぱい、夢中で調べる様子が見られた。教員からの指示がなくても、「季節はいつですか?」「水が節約できるものは…」など、様々な角度から考えて、ランキングを作成していた。
- ・防災ボックスに関しては、防災ボックスは好きなデザインができるため、生徒には「思ったより楽しかった」と好評であった。(未実施ではあるが、「美術の授業で実際にボックスを作る」という案が出たこともある。)

どのくらい身につきましたか?



知識・技能	かなり
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦勞・工夫

工夫

- ・パソコン室の使い方の練習を兼ねて、授業数に余裕のあるクラスで実施した。(2学期に未実施のクラスは3学期に実施予定)
- ・同じ作業をするにしても、楽しいミッションにすることで、防災行動のハードルを下げるきっかけとする。



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	09(授業実践⑧)
タイトル	動画を効果的に生徒に見せる工夫 —鹿児島市の「避難行動周知動画」を活用した事例
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間(主に動画教材探し)
実践活動を実施した日時	①2019年10月上旬 ②2019年11月9日10時30分～10時40分
実践の所要時間	①5分(授業の一部として視聴) ②10分
実践の運営側で動いた人の人数	5人:各クラス担任3人,社会科教員2人
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	<p>【動画】鹿児島市役所危機管理局 危機管理課 「市民の避難行動の周知動画」(動画90秒×4本)</p> <p>https://www.city.kagoshima.lg.jp/kikikanri/bosai/2019hinannkoudoudouga.html</p> <p> 令和元年6月末からの大雨に係る災害対応において、内閣府のガイドラインに沿って本市で初めて警戒レベル4「避難勧告」「避難指示」を発令し、「全員避難」を呼び掛けましたが、全員が避難所へ行くことなのかななどの意味と受け取られ、一部の市民において混乱が生じた面もありました。このことを踏まえ、台風など風水害に対し、市民が取るべき避難行動について周知を図るため、動画を作成しましたので、ぜひご覧ください。(鹿児島市HPより引用)</p> <p> 【動画】避難指示発令に伴う、森市長から市民の皆様へのメッセージ(鹿児島市youtubeチャンネル) https://www.youtube.com/watch?v=0nxyHHuRpKg</p> <p>【資料】内閣府「警戒レベルに関するチラシ」</p>



達成目標

育みたい
防災あたり前
感覚

【目的・目標】

- ①地震だけではなく、水害教育にも重点を置く。台風・大雨による水害被害が頻発する中で、警戒レベルと避難行動の関係について理解し、一人一人が適切な避難行動をとれるようになる。
- ②適切な避難行動のため、「避難」の感覚を変える。

★育みたい『防災あたり前感覚』

- ☑ 「避難＝どこかに行かなければ」という感覚から、「避難＝危険から逃れるための行動を考えて、行動すること」という感覚に変える。
- ☑ 自宅が安全であれば、自宅に留まる「自宅避難」も避難行動であることを感覚で理解する。
- ☑ 危険が近づいてから慌てて行動するのではなく、普段から、自分の住んでいる場所やいる場所の特性を知り、備えを進める意識を持たせる。

【背景・経緯】

- ①「2019年7月に鹿児島市で全域に避難指示が出され、混乱が生じた」というニュースを聞いた。
 - ②東京の防災関係者から、「水害と地震の対応を同じに考えている住民が多いのではないか」という課題を聞いた。
- ↓
- これまで、首都直下地震に重点を置いた防災教育を行ってきたが、この2つの話を聞いたことがきっかけで、「水害」に着目した教育を行うことにした。(中1 社会科見学の事前学習)

どの力を身につけようとしたか？

知識・技能	かなり
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

情報収集

鹿児島市が避難指示を出したニュース動画を探していたところ、偶然、鹿児島市役所のHPの情報を見つけた。

1 回目の視聴

- ①「市民の避難行動の周知動画」を視聴する。
- ・MBC 南日本放送（男性のナレーション・暗めの音楽）と



KYT 鹿児島読売テレビ（女性のナレーション・明るい音楽）が対照的だったため、2本を比較しながら視聴した。

・同じ内容であっても、印象が違う2本の動画を見て、どちらがより内容が受け入れやすいかを比較した。

②「避難指示発令に伴う、森市長から市民の皆様へのメッセージ」を視聴する。

⇒もし、自分が当時、鹿児島でニュースを見ている市民だったら、どう考えて、どう行動したかを考えた。

⇒「災害情報をキャッチする訓練」になると思った。



市民への避難の呼びかけ
「命を守る行動を！」

授業
プリント

なぜ防災が怖い!?…防災は命を守るボランティア(*'▽')

今日の授業は、大雨が降りそうなときと大雨が降っているときにどうするかを一緒に「考えます」。教えるのではなく、考える。実際の災害が近づいているとき、どこにいて何をしているか分かりません。いつも先生が側にいるわけではありません。皆さん一人一人が主役です！

授業
プリント

あなたならどうする？

「命を守る最高の行動」を考えよう！

▷ 右のメールは、2019年9月9日に目黒星美の先生の携帯に届いたメールです。あなたはこのとき何をしていましたか？

▷ 「大雨が降るとき」あなたにとって、「いると安全だと思う場所」を5か所挙げてみよう。

緊急速報メール

◀ メール ▶

横浜市【警戒レベル4】避難勧告

2019/09/09 4:46

9月9日04時45分、土砂災害警戒情報の発表に伴い、横浜市の一部地域に【警戒レベル4】避難勧告を発令とすべき行動：対象区域にお住いの方は避難してください。





	<p>2 回目の視聴</p> <p>「ぼうさいこくたい 2019」の会場で、鹿児島市危機管理課のブースがあり、職員の方に動画活用のご報告をした。</p> <p>このことがきっかけで、「鹿児島市の担当者の方に感想を送ろう」という企画にして、再度、4つの動画を見比べて、感想を書いた。</p> <div data-bbox="258 616 491 750"><p>授業 プリント</p></div> <div data-bbox="491 577 1422 1189"><p>動画の感想を送ろう！</p><p>①鹿児島市の避難行動周知の動画を見て、感想を書きましょう。 (理解しやすかったか、周囲の人におススメしたいか、どこが分かりにくかったか、など自由に書いてください。)</p><p>②一番、良いと思った動画(=今後、大雨が降ることが分かったときに、思い出して自分の避難行動につながりそうだと思う動画)に○をつけてください。</p><table border="1" data-bbox="544 1021 1342 1151"><tr><td>動画 1</td></tr><tr><td>動画 2</td></tr></table></div> <div data-bbox="258 1220 491 1355"><p>授業 プリント</p></div> <div data-bbox="491 1211 1422 1422"><p>③授業では、台風 19 号が来る前に動画を見ました。動画が役立った経験があればそれも教えてください。その他、自由に意見を書いてください。</p></div>	動画 1	動画 2
動画 1			
動画 2			
<p>得られた成果</p>	<p>チャレンジ！「避難」の意味を正しく理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・最近、起きた災害のニュース、特に、その台風等の災害が発生する前のニュースを用いることで、「災害情報をキャッチして、自分のこととして考えて行動することをイメージする訓練」ができた。・動画を見るタイミングと台風 19 号が来るタイミングが合ったので、実際に、学んだことを活かすことができた。 <p>▼上記③に対する生徒の回答</p> <p>どこかに行くことが避難ではなくて、難から逃れることが避難だということに気がつけた。／警戒レベルについて分かっていたから、メールが来た時すぐに分かった。／情報に注意することができた。</p>		



	<p>自宅にいるのも、避難していることでもあった。／避難の判断をするときに役立った。／台風が来る前に何もしていなかったけれど、動画を見てから色々準備しようと思えた。／台風が来そうな前日にベランダの物を片づけたり、食料を買い込んだりした。／怖い感じだったので、危機感を持つことができました。</p> <p>・動画を「見る意味」を増やしたことで、普通に流した時よりも、真剣に見て、その分、内容の理解が深まった。比較して、感想を書くということミッションにしたことで、類似の動画を繰り返し見る理由付けにもなった。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
<p>課題・苦労・工夫</p> <p style="text-align: center;">工夫</p>	<p>・生徒に「自分だったらどうするか？」を、リアリティを持って考えてもらうために、近い過去に起きた災害のニュース動画（特に、その災害が起きる前の呼びかけ）を使用している。本プランにおいては、市民の気持ちになって、鹿児島市長の会見を視聴した。</p> <p>・自分が住んでいる地域に危険が迫っていても、なかなか危機感を持って行動が起こせない課題に対する解決策になると考える。</p> <p>・類似の活動として、別の授業では、以下のように台風 15 号が来る前の気象庁の呼びかけのニュースを視聴した。</p> <p>あなたはあの日、何を考えた？</p> <p>☞このニュースを見て、あなたはどんなことを考えましたか？また、もしこの台風の影響で自分が住んでいる地域が千葉のような被害を受けると分かっていたら、どんな行動をとりましたか？</p>	




★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	鹿児島市役所 危機管理課 危機管理係
関係者の説明	「市民の避難行動の周知動画」の制作及びテレビ放送（実際の動画制作は、鹿児島のテレビ局 4 社が担当）と HP へのアップを行い、市民への避難行動の周知に努めている。
関係者の連絡先	099-224-1111（代表）



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	10(授業実践⑩)
タイトル	台風・大雨 命を救う「防災あたり前感覚」を磨く 「避難」という言葉への挑戦! 避難の誤解を感覚で解く —台風19号のとき、あなたはどんな避難をしましたか?
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	①授業 2019年10月上旬 ②宿題 10月11日配布
実践の所要時間	①10分(授業の一部として, 3クラスで実施) ②各自
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	①約70人(中1) ②約140人(中1・3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	授業用パワーポイント・授業用プリント・宿題用プリント・警戒レベルと避難行動の資料(図)

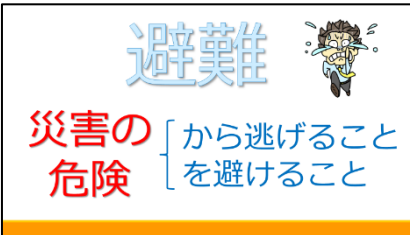
達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>①命を守るために危険から逃れる「避難(evacuation)」の意味を感覚で理解する。</p> <p>②台風19号に直面し、一人一人が考えて行動を選択する。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>①「避難=避難所に行くこと」「避難=どこかに行かなければ!」と思っ て入っている人が多い。また、防災用語に「避難」という言葉が多 用されており、紛らわし過ぎる現状がある。</p> <p>②私立学校である本校は、指定避難所ではなく、かつ福祉避難所の協 定を結び、その場所を確保しなければならない立場である。その視 点から社会を見ると、「学校=避難所」という思い込みが広がってい ることに危機感と疑問を抱いた。</p>
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり		
	思考力・判断力・表現力	大いに		
	学びに向かう力・人間性	かなり		
実践内容・方法	授業 ※【実践番号 07】を同じ時間内に実施した。 テーマ：未来の被災者として「命のための想像力」を伸ばそう(^^)/ ①スライドを使いながら、生徒に以下のメッセージを伝えた。 教員「今日は最初に『台風』や『水害』について考えます。ちょうど、社会科見学に向けての授業をしている期間に、私たちは台風 19 号と向き合っています。あなた自身と大切な人たちの『命を守る最高の行動』を考えましょう」			
	<table border="1"><tr><td>私たちは「未来の被災者」 </td><td>防災は 未来の命を守るボランティア</td></tr><tr><td>これから一人一人が 台風による被害に 直面します。</td><td>災害では、 助かる人の方が 多くいます。</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">・「防災」「災害」とひとまとめにするのではなく、災害の種類ごとに整理することが必要という気づきから、今年度より、地震の学習の前に台風・豪雨等による水害の学習を入れた。・災害ごとの被害や対応を考える思考をつくるために、最初に「台風や水害について学ぶ」ことを宣言・強調する。・今年度の工夫として、「希望的側面を強調する」という目標があるため、「災害では助かる人の方が多くいる」という点も強調する。 ②「避難」の意味を考えよう <ul style="list-style-type: none">・「避難」は読んで字のごとく、「難を避ける」つまり、災害の危険か	私たちは「未来の被災者」 	防災は 未来の命を守るボランティア	これから一人一人が 台風による被害に 直面します。
私たちは「未来の被災者」 	防災は 未来の命を守るボランティア			
これから一人一人が 台風による被害に 直面します。	災害では、 助かる人の方が 多くいます。			



	<p>ら逃げる・災害の危険を避けることを指すと、丁寧に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none">・避難の意味の説明としては、「危険を避けて安全な場所にいること」、「自宅が安全と判断して自宅に留まるのも避難」、「面倒だから自宅に留まるという判断はダメ」など、試行錯誤、表現を変えながら繰り返し説明した。 <p>宿題</p> <p>台風が接近するにつれて心配になり、急遽、台風 19 号が来る前日の 6 時間目にプリント（次ページ）を作成して、帰りの HR で中 1 と中 3 に配布した。週明けの授業で、プリントを回収した。</p> <p>テスト</p> <p>避難の感覚を変えて、それをあたり前にするために、テスト問題を作成した。</p> <p>【問題】 台風 19 号では、私たちの住む東京や神奈川も大きな被害を受けました。目黒星美では、台風 19 号の後に全員の無事が確認できたので、私たちは台風 19 号の際に、「一人一人が適切に全員避難した」と言えます。では、あなたはどのような避難をしましたか。必ず「避難」という言葉を用いて、報告してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・自宅避難した生徒もいれば、自宅以外に避難した生徒もいたが、概ね、避難の意味を理解して、自分のとった行動を報告していた。・「私は自宅が安全だったので、避難しませんでした。」という解答については、減点した。（設問で「全員避難したと言えます」と前置きしているので、問いに対応していない解答という評価。
得られた成果	<p>チャレンジ！避難の意味を感覚で理解できる教材と実践の提案</p> <p>「授業・宿題・テスト」と「台風 19 号の経験」を通じて、ある程度、生徒の避難に対する感覚を変えて、理解を深められたと考えている。次ページの宿題プリントは、臨時で 30 分程度で作成したので十分ではないが、生徒が自らの行動を考える教材として、比較的意味あるものになったと考えている。下校時に、宿題プリントを基に避難行動ついて、話し合っていた生徒がいたと他学年の生徒から報告があった。</p>





宿題
プリント



冷静に考えよう

命を守る最高の行動を

私が率先して選択します

台風
大雨

台風 19 号が来ます。この週末、以下のシートに記入して「命を守る最高の行動」をとりましよう。(次の授業で回収します。)

[Q1] 皆さんにとって「命を守る最高の行動」は何ですか？／何でしたか？

[Q2] 台風 19 号に備えて、事前にどのような準備をしましたか？また、備えが足りなかったことは何ですか？

[Q3] 「避難」とは、必ずしも「避難所（近くの公立学校）に行くこと」ではありません。「あなたの命を守れる場所を考えてその場所にいる」ということです。また、夏休みに取り組んだ、「東京防災マイタイムライン」では多くの人が避難する場所として「近くの小学校に行く」と挙げていましたが、人口の多い東京では1か所に人が集中してパンクすることも考えられます。あなたが、大型台風が来たときに安全を確保できる場所を5か所以上、考えておきましょう。「命を守れる選択肢」を考えておきましょう。

[Q4] 今回は、台風が目前に迫っていますが、首都直下地震をはじめ様々な災害が起こる可能性があります。「どの災害でも助かる人の方が多いこと」、「備えれば助かる人が増えること」を忘れずに、一人一人が考えて行動しましょう。自分に足りていない備えを考えて、近いうちに実行できそうなことを3つ挙げましょう。またその他、報告したいことなど自由に書いてください。

▽配布したプリントには、警戒レベルと避難行動の図（政府オンラインより）を掲載

皆さんへ 「命を守る最高の行動」は、目黒星美の合言葉です。普段でも、危険が迫っているときや発生するときでもいつでも心に留めておきましょう。

警戒レベル5にある「命を守るための最善の行動」は、いよいよ災害が発生していて安全確保が難しい場合でもその場でできる最善を尽くすということです。「警戒レベル5」の段階が来る前に「命を守る最高の行動」をとっておくことが、私たちの約束です。

西日本豪雨をはじめ、危険が迫っている場所から避難するように呼びかけられても「大丈夫」と行動を起こさなかった事例が多くあります。一方で、今年の7月に全域に避難指示の出した鹿児島市では「どこに行けばいいのか」と混乱して一部の避難所に大勢が集まるということも発生しました。できるだけたくさんの「命を守る選択肢」を考えることが大切です。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員こそ、長年の経験から「避難＝どこかに行くこと」という感覚がある。生徒に教えながら、同時に教員自身の感覚の変える努力を重ねた。ひたすら「自分自身に言い聞かせる」という手段で、感覚を変えていった。違和感が無くなるまで2週間くらいかかった。 ・ 教員自身が、「避難＝どこかに行くこと」と思っていたので、昨年度より、行事名を「避難訓練」から「防災訓練」に変更していた。来年度は、この行事名をまず「避難訓練」に戻して、避難の感覚をしっかりと育てていきたい。 ・ 正直、「避難」という言葉が多用されていること自体が、課題であり、「避難」を使った用語の言葉の違いを説明している時間があるなら、他の防災教育に時間を使いたい。とは言え、現状に対応するならば、用語を分かりやすく解説する「用語集づくり」をミッションにすると国語力がアップするかもしれない。 ・ 本校で「命を守る^{●●}最高の行動」というフレーズを数年前から使い、今年度から校内で大きく打ち出したところ、「命を守る^{●●}最善の行動」とやや被ってしまった。意味は違っているので、生徒の混乱を招くのではなく、繰り返し伝えることで、感覚で理解してもらえるように、工夫していきたい。 ・ 宿題プリントは臨時で作成したので、中1と中3に配布したが、他の学年にも配布すれば良かった。今年度からの取り組みであるので、来年度、全校に「避難教育」を広げていきたい。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	生徒の皆さん
伝えたい内容	普段は、「命を守る最高の行動」をいつも心に留めて、選択してください。いざというときは、「命を守る最善の行動」をとること。でも、「命を守る最善の行動」をとる状況になる前に、「命を守る最高の行動」をとっておきましょう。



記入日	2019年12月15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	11(授業実践⑩)
タイトル	普段の授業で防災力をつけよう!—学力の三要素を育む 「防災参画型授業」の提案(中3公民的分野内において、 地域・行政と連携し、社会参画までを実現する防災教育)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	5000円未満(プリント印刷・学年分の紙ファイル)
実践の準備にかかった時間	数日(主に複数の授業とワークショップ作成)
実践活動を実施した日時	2019年4月下旬～6月下旬
実践の所要時間	50分授業×8コマ プラン全体では、50分授業×17コマ(3クラス)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各教室
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント、パワーポイント、関連する動画、プリント用ファイル(生徒1人1冊)

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>本実践は、「防災教育をしたくても決められたカリキュラムがあり、時間がとれない」という教員の声に応え、教科書の単元に沿いながら、通常の社会科の学習を深める教材として、「防災」を活用した授業を提案するものである。同時に、実社会と乖離しがちな社会科の学習を実感を持って学ばせたり、社会に還元したりする授業づくりを目指す。</p> <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしても防災教育をしたい」と考えた実践担当者が、「自分の担当する授業を、防災の視点で展開してみよう!」と思いついた。 ・中3は中1の社会科見学で防災に関するプレゼンテーションを経験しているので、その経験を土台にステップアップする。
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに														
	思考力・判断力・表現力	かなり														
	学びに向かう力・人間性	大いに														
実践内容・方法	<p>(1) 「わくわく防災減災」プラン概要</p> <p>今年で3年目の取り組み。本報告では、プランの大きな流れを紹介し、別途、以下の通り、個別に実践の詳細を報告する形をとる。</p> <p>📖 本校使用教科書：東京書籍『新しい社会 公民』</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業時数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「防災化」授業</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>②災害対策課職員による講演会 実践番号【31】</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>③プレゼンテーション準備 【12】</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>④【国語】プレゼンテーション講座 【11】</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>⑤プレゼンテーション（クラス内及び地域） 【12】</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>プラン全体時間数</td> <td>計 17</td> </tr> </tbody> </table>			授業時数	①「防災化」授業	7	②災害対策課職員による講演会 実践番号【31】	1	③プレゼンテーション準備 【12】	6	④【国語】プレゼンテーション講座 【11】	1	⑤プレゼンテーション（クラス内及び地域） 【12】	2	プラン全体時間数	計 17
		授業時数														
①「防災化」授業	7															
②災害対策課職員による講演会 実践番号【31】	1															
③プレゼンテーション準備 【12】	6															
④【国語】プレゼンテーション講座 【11】	1															
⑤プレゼンテーション（クラス内及び地域） 【12】	2															
プラン全体時間数	計 17															
<p>★加えて、全体の流れは、以下の2点の発展学習と合致している。</p> <p>①「公民にチャレンジ 私たちの政治参加」（教科書 pp.110～111）</p> <table border="1"> <tr> <td>問題把握</td> <td>（地域を振り返り，課題・解決の取り組みを調べる）</td> </tr> <tr> <td>→ 問題分析</td> <td>（行政職員の話聞く，文献・ネット・統計調査）</td> </tr> <tr> <td>→ 意思決定</td> <td>（自分たちにできることを考え，考えを決定する）</td> </tr> <tr> <td>→ 提案・参加</td> <td>（実際に政治参加する = ①行政などに提案する・ ②実際にまちづくりに参加する）</td> </tr> </table> <p>②「深めよう 東日本大震災からの復興と防災」（pp.112～113）</p> <table border="1"> <tr> <td>トライ</td> <td>①防災・減災についての計画・取り組み・新たな課題を調べ，まとめる ②防災減災のために自分たちにできることはないか，グループで話し合う</td> </tr> </table> <p>(2) 「防災化」授業の展開</p> <p>社会科（公民的分野）の単元を防災の視点から学んだ。</p>		問題把握	（地域を振り返り，課題・解決の取り組みを調べる）	→ 問題分析	（行政職員の話聞く，文献・ネット・統計調査）	→ 意思決定	（自分たちにできることを考え，考えを決定する）	→ 提案・参加	（実際に政治参加する = ①行政などに提案する・ ②実際にまちづくりに参加する）	トライ	①防災・減災についての計画・取り組み・新たな課題を調べ，まとめる ②防災減災のために自分たちにできることはないか，グループで話し合う					
問題把握	（地域を振り返り，課題・解決の取り組みを調べる）															
→ 問題分析	（行政職員の話聞く，文献・ネット・統計調査）															
→ 意思決定	（自分たちにできることを考え，考えを決定する）															
→ 提案・参加	（実際に政治参加する = ①行政などに提案する・ ②実際にまちづくりに参加する）															
トライ	①防災・減災についての計画・取り組み・新たな課題を調べ，まとめる ②防災減災のために自分たちにできることはないか，グループで話し合う															



単元	防災視点からの授業内容・授業展開例
情報化 効率と公正	災害時のデマと情報モラルから災害時に誤解を招かない情報発信を考える。DISSANA など災害時の有効な情報収集方法を学び、情報リテラシーを身につける。支援物資のミスマッチを引き起こさない支援を議論する。
効率と公正▲	限られた食料の分配方法を議論する。実際に母子避難所として利用する予定の建物見取り図を使って「母子避難所の部屋割り」を考える。
少子高齢化	世田谷区の人口構成（乳幼児と妊産婦）を知る。地域の抱える高齢化の課題を知る。災害時の妊産婦の問題や体験談に関心を持つ。
グローバル化 多文化共生 異文化理解	災害時に外国人が直面する問題を資料を使って検討する。災害弱者への配慮と、自分自身も当事者（災害弱者）になる可能性があることに気づく。
決まり(ルール) を作る・見直す	区と本校の間で結ばれている「福祉避難所(母子)」の協定書を基に契約(書)について学ぶ。
人権	防災における人権や災害時の人権について考える。防災における女性の視点の欠如・不足の問題、災害弱者など。
メディア リテラシー	マスコミは、被害予想を大きく取り上げるが、記事を逆の視点から読むと違って見えてくる。
地方自治・行政	区役所の防災対策について知る。また区役所職員の防災講演会の中で、身近な行政の仕事内容や、仕事の魅力についてのお話も入れていただく。
需要と供給▲	需要と供給を学ぶ際に、携帯トイレの価格を具体例として取り上げる

※「▲」は、今年度の1学期（＝「わくわく防災減災」実施）の時点では、未実施または今年度は省略するもの。参考のために掲載。
※これ以外の単元を学習する際も、防災を意識して学習を進めることを心がける。



(3) 「防災化」授業の発展的展開

社会科（公民的分野）の単元として防災教育を行った場合、「防災」よりも「公民」の目標を達成することに重点が置かれる。そのため、本実践では「防災化」授業と連動して、防災講演会及び行政職員や地域の防災リーダーへの提案を行った。さらに、実際の防災イベントで生徒のアイディアを具現化した。これらの活動を通じて、社会参画や防災教育としての質を高める工夫をした。

「公民にチャレンジ 私たちの政治参加」（教科書 pp.110～111）

問題把握（地域を振り返り，課題・解決の取り組みを調べる）

社会科（公民）における「防災化」授業（4月下旬～5月下旬）



問題分析（行政職員の話聞く，文献・ネット・統計調査）



災害対策課講演会（5/14）

講師：世田谷区災害対策課職員

「熊本地震の避難所の状況と

世田谷区の災害対策について」

ゲスト（授業見学）：（公財）東京都公園協会

砧公園サービスセンター職員 1 名



意思決定（自分たちにできることを考え，考えを決定する）



「わくわくミッション！」（6コマ）

「ミッション」について，チームで話し合い，3分間のプレゼンテーションにまとめる。生徒のやる気を上げるため，くじ引きでチームを決めた。



提案・参加（実際に政治参加する＝①行政などに提案する・

②実際にまちづくりに参加する）

①プレゼンテーション（クラス内→全体）

①クラスでプレゼンテーションを行い，代表チームを選んだ。

②3クラス合同授業に，防災公園職員・災害対策課の職員・母子避難



	<p>所を担当する部署の職員・地域の防災リーダーを招いて、代表の6チームから地域プレゼンテーションを行った。(6/25)</p> <p>②12月に実施される「砦公園防災フェスタ」で生徒のアイデアを具現化したり、活用したりする。⇒実践番号【00】</p>	
得られた成果	<p>チャレンジ！通常の授業内で防災教育と社会参画を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが生き生きと主体的に取り組んでいた。 ・ 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">苦勞</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 5px 0;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 5px 0;">課題</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、同じ内容を繰り返すのではなく、生徒の取り組みが、年を追うごとに積み重ねになるように、内容を設定している。ただ、前の年度までのアイデアの共有が生徒に十分できていないので、これまでの成果を目に見える形でまとめることが、今後の課題である。 ・来年度は、10月の台風19号で地域、特に避難所で起きた事例を基にした授業を行いたい。そのために、現在、情報収集を始めている。生徒の提案で活動や繋がりが広がった、「ペットと防災」も取り上げたいと考えている。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	教員（特に、防災教育になかなか取り組めないと思っている先生）
伝えたい内容	<p>普段の授業を進めつつ、生徒が生き生きと話し合い、そして何より生徒自身の防災意識も上がり、活用した知識も定着する。「防災化」授業はお薦めです。また、学校外の大人に、生徒のアイデアを真剣に、しかも「良いアイデアは実際に取り入れよう」という姿勢で聞いてもらうのに「防災」ほど、最適なテーマはありません。防災教育は、生徒を成長させるチャンスです。「限られた時間数で防災教育ができない」「防災の知識が無いから防災教育ができない」と思わず、「わくわく防災視点」で見ると、たくさんのアイデアが浮かびます。希望を持って、防災と向き合うと不思議とアイデアが湧いてきます。わくわく取り組んでいきましょう！</p>



記入日	2019年12月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	12(授業実践⑩)
タイトル	【国語×社会×防災】「これで誰でもプレゼン上手！」 (中3国語・アルファ米など防災用品を, 具体例として用いたプレゼンテーション講座)
実践担当者のお名前	浅見(国語科)・京(社会科)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月30日～6月3日
実践の所要時間	授業1コマ50分(×3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	中学3年生 各普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	授業用パワーポイント, アルファ米

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>プレゼンテーション力と表現力を磨く国語の授業において, 防災用品や防災に関する用語を具体例として用いることで, 教科としての学習目標を達成しながら, ついでに防災への関心と知識もつけることを目指した。公民の「地域プレゼンテーション」【実践番号 11】に向けて, 同時期に授業を実施した。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>社会の授業での「防災化」授業の取り組みでは, 学校外へ向けてのプレゼンテーションに取り組んでいるが, プレゼン指導に十分時間が取れない課題があった。そこで, 同じくプレゼン力を高めたいと考える国語科の教員と協力して, 国語の授業内で本プランを実施することとなった。</p>
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	<p>(1) 授業準備</p> <p>①プレゼンテーション指導力の高い国語の教員が、効果的なパワーポイントのスライドの作り方と、情報のまとめ方について授業を作成した。その際、具体的な題材として、アルファ米等の防災用品を使えるように社会科兼防災係の教員からアドバイスをを行った。</p> <p>②良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションの見本になるように、リハーサルを行った。(特に、防災に関心のある教員のため、「防災についてつまらなそうにプレゼンする練習」を重ねた。)</p> <p>(2) 授業実践</p>
---------	---



①授業の最初で生徒をつかむ

効果的なプレゼンテーションについて学ぶ国語の授業に、社会科の教員がTTとして入った。

生徒にとっては、なかなか見られない光景なので、面白そうに授業に参加していた。教員は、楽しいことが始まるぞ、と予感させるように雰囲気作りを心がける。

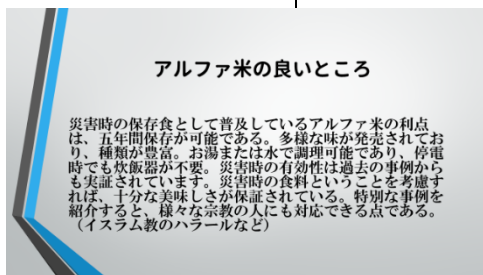


②スライドの良い例・悪い例×防災

良くないスライド例：

▲文字情報の多いスライド

社会科の教員が、スライドに書かれたアルファ米についての情報を淡々と読み上げる。



▲写真とアニメーションが多いスライド

アルファ米の写真が、しつこいアニメーションと共に次々に登場するスライドを見せる。



	<p>良いスライドの例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大事なポイントを抽出したスライド <p>国語科の教員から情報を絞ってスライドに書くと効果的であることを説明する。具体例として、アルファ米についての説明のスライドをしめす。</p> <p>他にもいくつか事例を挙げたり、プレゼンテーションのコツを説明したりする。</p>	
	<p>③授業の締め</p> <p>授業の最後に、社会科教員がアルファ米の実物を見せて、楽しそうに良いプレゼンテーションの見本を見せる。</p>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の授業で、地域プレゼンテーションの準備を始める前に、本プランを実施したので、その後のプレゼンづくりに大いに参考になっていた。 ・特に中学生は、パワーポイント作りはまだ慣れていないので、情報を詰め込んだり、アニメーションを多用したスライドを作りがちであるが、予め学習していたことで、効果的なスライド作りができていた。 ・アルファ米について、初めて知ったという生徒もいて、関心を持たせることができた。また、「選べるギフトでアルファ米セットを注文するように親を説得した」という報告も生徒から入った。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題</div>	<p>授業準備に時間がかかり、予定していたプリントの作成まで至らなかった。当日は、プリントが無くても十分授業はできたが、できれば、学習内容を残せるプリントがあると良い。</p>	



記入日	2019年1月14日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	13(授業実践⑫)
タイトル	地域プレゼンテーション「～未来の命のために、今できる行動を広げよう！～未来の子どもたちの命を救うために、住民の意識と行動を変えるアイデアを考えて実現しよう！」(行政・地域と連携した防災教育)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	①準備:2019年5月半ば～6月25日 ②当日:6月25日10時40分～11時30分
実践の所要時間	準備:50分×6コマ プレゼン:50分×2コマ (3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人(中3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 マリアホール
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	プリント, プライドに縛られずに生徒に対して「防災について課題を抱えて困っている」「だから皆のアイデアと行動が必要なんだ」と言える大人

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>12月に開催される地域の防災イベントで、地域住民の防災意識と行動を変える防災コーナーを考えて、行政職員や地域住民を招いてプレゼンテーションし、アイデアの実現を目指す。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>生徒に教えたことは、すべて生徒に教えてもらおう！</p> <p>本校の防災教育の特色の1つが、防災課題のミッション化である。「生徒に教えたこと・学んでほしいことを、敢えて生徒に『ミッショ</p>
------	--



	ン』として与えて、大人が教えてもらう」ことが、生徒の防災に対する主体的な態度を育て、防災に対する想像力を伸ばし、成長に繋がることから、教員がその方針を持ち、年間を通じて、実践に取り組む。女子中学生という立場からの提案だけではなく、生徒を様々な立場に立たせて考えさせることで、多角的な視点から捉える力を養う。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>3～4人のチームを作る。ミッションを提示し、チームごとに話し合いと発表用パワーポイントスライドの作成を行う。</p> <p>生徒が考えたくなるミッションを設定する。簡単過ぎても、難し過ぎても話し合いは活性化しない。また「どうせ大人は知っている」という印象を持つと、さらに活性化しない。「生徒のアイデアが本当に必要」と伝わるミッションの設定が、大事。今年度は、「教員の失敗」を前面に出した、実話を基にしたミッションを設定した。</p> <p>▼今年度のミッション-----</p> <p>◇Wakuwaku MISSION</p> <p>皆さんは、今年の12月に砧公園（都立の防災公園）で行なわれる防災訓練（防災フェスタ）で、オリジナルの防災コーナーを出展することになりました。砧公園を管理している砧公園サービスセンター（SC）や地域の防災リーダーの人たちも皆さんの企画・アイデアにとっても!!期待しています。</p> <p>昨年、先生が単独で参加した（生徒の皆さんはテスト期間でした…）訓練では、防災意識の低い赤ちゃん連れのお母さんがやってきて「全然準備していません！」と言っていたり、そもそも先生が出した防災コーナーの展示がしょぼくて、先生はその後、落ち込みました。また「災害時は、砧公園に行けば何とかなる」と誤解している住民も多くいます。</p>	



全然、備えていません！
私たちの避難所はこの公園
なんですよ～。地震が起き
たら、子どもたちと頑張っ
て、ここで生活します。

通りすがりの
親子



※実話です。
※公園は広域避難場所であって、
避難所ではありません!!!



とにかく展示が
しょぼかった。

せっかくのチャンス
だったのに・・・



そこで、皆さんの防災コーナーに立ち寄った人が、「よし、自分で備えよう！」と前向きに動きたくなる工夫を考えて、アイデアをプレゼンテーションしてください。お客さんとしては、たまたま公園に遊びに来ていたファミリー層（小さな子どもたちのいる親子）が多く来ます。その他、スポーツの練習に来ていた小学生や散歩に来ていたお年寄りもやって来ます。

多くの人は、防災は大事だと思っても動いていなかったり、防災に面倒といったマイナスイメージを持っていたりして、なかなか取り組もうとしません。みなさんの防災コーナーに来た人たちが、防災に「前向きに取り組もう！」と思って行動してくれるようなアイデアを考えて実現させよう！-----

▼「わくわくミッション アイデアシート」

★オリジナル防災コーナーのキャッチフレーズ

防災そのもののイメージアップ、これも大事です。

★防災コーナーのとっても具体的なアイデア

プレゼンを聞いた人に、「これならすぐ実現できる！やってみよう！」と思ってもらえるように、具体的なアイデアを書いてください。

★行動変容目標

皆さんの考えた防災ブースに来た人たちが、帰ってからどのような行動をとってくれると「成功した！」といえるでしょうか。目標とする行動や想定できる行動の変化を書いてみよう。



代表チームの題名


- 「命を守る 4,000 円～これであなたも生き残れます～」
- 「作って学ぼうわくわくスライム」(防災クイズに正解する毎に材料をもらえる)
- 「非常用リュック重くない? / 本当に避難所は安心できる?」
- 「防災カフェ」
- 「一千万人で手を繋ごう 誰かを助けられる存在に!」
- 「WELCOME TO 防災 LAND」
- 「備蓄しないとやばたにえん / リアル参勤交代」

▼プレゼンテーション用スライド


私たちが解決すべき問題は、「公園に来れば助かる」と思い込んでいる区民の意識を変えること。

**私たちの企画で
防災を身近なものに!**

防災カフェ!!



- ・コースター
⇒飲み物を頼むとついてくるコースターに防災についての豆知識が書いてある。
- ・非常食(アルファ米、カンパンなど...)
⇒作り方などを説明する。




映える非常食教室

大変です!!
↓
非常食はファストパス

- ・こんなに並んでも、もらえるのはほんの少し...
- ・必ずもらえるかわからない
- ・自分の口に合わないかもしれない...
- ・アレルギーがあったら? ...でも!

非常食があれば、並ばず自分の好みに合ったものを食べることができる!
ということをお客さんに伝えるために...!

ファミリー層に防災意識を高めてもらうには...

震災の怖さを伝える

↓

震災に遭った時の対策・解決策を教え、体験してもらう

避難所で確保できる スペースを実際に作る

3 × 3 (cm)

東京で皆が避難所に行こうとすると大変なことに、消しゴムくらいのスペースしかないかも...!?あなたは消しゴムの上で生活できますか?



得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・どのチームも積極的に話し合い，良いプレゼンテーションをつくり上げていた。面白いアイデアがたくさんあり，6月25日に世田谷区役所職員，砧公園職員，地域の防災リーダーの計7名をお招きして，プレゼンテーションを行い，高く評価していただいた。 ・12月に開催された砧公園防災フェスタで，実際にいくつかのアイデアを実現させた。今後もチャンスを見つけて，順次アイデアの実現を図りたいと考えている。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<p>○「先生，困っている」の一言が，素晴らしい防災教育の教材に</p> <p>ミッション化の手法は，偶然の気付きから生まれた。2015年9月に学外から「マンホールトイレ」についての実践依頼が来た。「1か月半の期間内にマンホールトイレのアイデアを生徒から引き出し，実際に組み立てて，11月半ばのシンポジウムで1時間発表する」というものであった。しかし，依頼時点で教員はマンホールトイレについて何も知らない状況であり，ピンチに陥った。そこで，切羽詰まって，「学校外から生徒のアイデアを聞きたいと依頼が来た」「先生は，アイデアが浮かばず途方に暮れている」という状況そのものを授業化し，生徒に正直に伝えたところ，生徒が目を輝かせ，アイデアが溢れ出した。この経験から，ミッション化の手法を確立した。現場での防災教育の実践が行われにくい原因として，「教員の知識・技能不足」が挙げられるが，それを逆手にとって，「生徒と一緒に考える防災教育」を推進していきたい。</p>	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育に取り組む先生方
伝えたい内容	<p>防災教育の主役は生徒です。そして，「防災で困っている大人」は，生徒のアイデアを刺激する最高の教材です。教える防災教育から，生徒から引き出す・生徒が考える防災教育へ。「防災について詳しくない」と遠慮せずに取り組んでみませんか。</p>



記入日	2019年12月18日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	14(授業実践⑬)	
タイトル	情報の宝★探しー首都直下地震の想定から「希望の情報」を読み取ろう(公民「メディアリテラシー」「行政」)	
実践担当者のお名前	京(社会科)	
実践にかかった金額	1000円未満(授業プリント印刷)	
実践の準備にかかった時間	数十分	
実践活動を実施した日時	2019年10月上旬	
実践の所要時間	15分(授業の一部で実施)×3クラス	
実践の運営側で動いた人の人数	1人	
防災教育の対象者の属性	中学生	
防災教育の対象者の人数	約70人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	<p>① 中央防災会議防災対策推進検討会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ 「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)」</p> <p>② 首都直下地震の被害想定対策のポイント (※授業では資料として pp.4,9,10,13,14,17 を使用)</p> <p>③ 2013年12月19日公表 中央防災会議「首都直下地震の被害想定と対策について」の解説-速報版(東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 ビジネスリスク事業部)</p> <p>④ 「①」の内容について報じた新聞記事</p>	

達成目標	防災化授業の一環として、メディアリテラシーを防災視点で学ぶ。防災の知識を深めながら、メディアリテラシーについても理解し、技能を身につける。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり



<p>実践内容・方法</p>	<p>「私たちにも、マスメディアから発信される情報をさまざまな角度から批判的に読み取る力であるメディアリテラシーが求められています。」(東京書籍「私たちの社会 公民的分野」p.83)に基づいて、政府発表の被害想定と対策の資料とそれが新聞記事ではどのように報じられているかを比較する。「悲惨な想定」がクローズアップされて、絶望的な気持ちになるが、よく資料を読むと、備えれば被害が減らせること、助かる可能性の方が高いことが読み取れる。</p> <p>▼授業プリント</p> <div data-bbox="496 757 1417 1429" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"><p>[Mission!!] 逆転の発想!</p><p>資料を参考に、違った視点から新聞記事を考えよう。</p><p>人々に絶望感ではなく、防災に前向きに取り組もうという希望を与えるような見出しと記事を考えよう!</p><div data-bbox="517 1003 1386 1077" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">見出し</div><p>.....</p><p>.....</p><p>.....</p><p>.....</p><p>.....</p></div>
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 防災と災害はまったくの別物という認識を当たり前の感覚にする必要がある。それと同時に、防災に取り組んでいると感じる絶望感を希望・未来志向に変えていきたい。本実践は、生徒たちの資料活用力を伸ばしながら、データに基づいて「正しく恐れる」ことに繋がると考えている。・ 本プランを実施した2学期の授業の位置づけとしては、「高齢者の事故が増えているは本当か？」をデータを元に読み解き、逆転の視点から記事を作成するという授業学習の応用として、宿題とした。宿題の個人作業となったため、どのくらい身についたかの評価は「かなり」とした。今後、3学期中に復習予定である。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 5px;">課題</div> </div>	<p>1 学期は、「防災化」授業を軸に置いて授業展開を行ったが、「生徒が飽きる・飽和する」線の見極めも必要となる。そこで、2 学期は、社会科のメインテーマを「交通教育」に置き、時々、防災について取り上げるといった方針をとった。教科書の単元を交通・防災視点で学習するものである。尚、「子どもの命を救う」という目標の下、これまで防災教育で確立してきた手法を交通教育に活かす実践を今年度から始めた。このことは、防災教育の効果を上げる上でも有効であった。どうしても災害ばかりを取り上げると、災害発生頻度は高いとは言え、生徒にとっては「非日常感」が出てしまう。そこに交通という日々関わるテーマを学習することで、交通を「日常での防災」と位置付けることで、日常での危機意識を高め、周囲の環境や社会の仕組みについて意識することにも役立つと考える。</p>	



記入日	2020年1月14日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	15(授業実践⑭)
タイトル	非常食のローリングストック調理実習
実践担当者のお名前	鳥井(家庭科)
実践にかかった金額	43,360円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年6月4日～6月28日
実践の所要時間	1クラス 50分(2コマ)×3日=5時間 3クラスで実施 計18コマ
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	高校生(女子)
防災教育の対象者の人数	約80人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所 例:〇〇小学校体育館	目黒星美学園中学高等学校 普通教室・調理室
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	家庭科教員, 期限の近い非常食(a米・焼き鳥缶・ヒートレスカレー等)

達成目標	<p>【目的・目標】 期限が迫った非常食のローリングストックの実行。日常食で美味しく食べることができるようアレンジレシピ開発。</p> <p>【背景・経緯】 私立学校は、独自で生徒・教職員の備蓄を準備することが必要である。本校でも定期的に非常食を入れ替える必要があり、期限が迫った食料の有効活用法を模索している。</p>	
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法

1 限目 ローリングストックを知る

<https://tokusuru-bosai.jp/index.html> の備蓄の心得を参考資料とし、備蓄のあり方について考えた。ローリングストックを家庭でも日常的に行っていくことの大切さを学んだ。しかし、備蓄食は日常でそのまま食べると美味しくないと感じてしまうものもある。家庭でローリングストックを行う際は、5年保存などの保存食でなくてもよいことを学んだ。普段食べなれているレトルト食品なども取り入れることで、美味しくローリングストックができることなどを知った。

2～4 限目 防災食アレンジレシピコンテスト

2020年に期限を迎える備蓄食が学校に多くあった。この備蓄食をそのまま普通の食事に取り入れることは美味しくないと感じる人も多い。(被災した際は別である)そこで、備蓄食を美味しく食べることができるよう、備蓄食品を使ったアレンジレシピコンテストを行った。

①まずは各自で、学校にある備蓄食(a米、ヒートレスカレー、保存用ビスケット、えいようかん)を使ったアレンジレシピを考える。

②5～6名程で1グループを作り、グループ内でプレゼンし、各グループ代表レシピを選出する。

③代表レシピのプレゼン資料を作成。

④クラスでプレゼンし、投票数の多かったレシピを採用。



5・6 限目 調理実習～学校の備蓄食でローリングストック～

まずは、a米にお湯を入れ作り方を実演。箱の中身などを全員で確認し、被災した際の実践方法をイメージする。そこから調理開始。

《採用されたアレンジレシピ》

【主菜】

- ・焼き鳥缶でチーズダッカルビ (やきとり缶使用)



【主食】

- ・a米カレードリア (a米, ヒートレスカレー使用)
- ・おこのめ焼き (a米使用)
- ・コロッケカレー (保存用ビスケット, 焼き鳥缶, ヒートレスカレー)

【デザート】

- ・ファールトン (保存用ビスケット使用)
- ・フルーツヨーグルト (保存用ビスケット使用)
- ・えいようかんあんみつ (えいようかん使用)

特に好評だったのは、えいようかんあんみつだ。材料は、えいようかん (さいの目切りにし、あんこの代用として使用)、粉寒天、きな粉、黒蜜、みかんの缶詰) ほとんどの材料が、乾物や缶詰のため保存期間が長い食品である。さらに、寒天は常温でも固まるため冷蔵庫を使わなくてもできる。ローリングストックだけでなく、実際に被災した際にもデザートとして作ることができるのではないかと考えた。



得られた成果

学校にどのような非常食があるのかを知ることができた。さらに、どのような工程でa米を作るのか、実際どのぐらいの量のご飯ができるのかなどイメージすることができた。学校で被災した際に、a米は利用頻度が高いと思われるため、積極的に生徒が食事班に入り教員の補助にまわることができるようになると思う。

備蓄食のアレンジレシピコンテストでは、限りある材料の中でレシピを考えるため、思考力や想像力を高めることができた。そして、プレ



	ゼンテーションの資料作りやクラス内発表では、グループで協力する姿勢やどのように伝えれば自分たちのレシピの魅力が伝わるか考え、工夫をこらしたプレゼンを見ることができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	アレンジレシピを考える際、料理の作り方がわからないということがあった。教室で準備をしたため、パソコンを使える環境がなかったため、すぐに調べることができなかった。教室で作業する場合には、家にあるレシピ集などを準備させておくとよい。もしくは、パソコン室で作業すると効率よくアレンジレシピを考えることができたと思う。 (今回あった例：保存用ビスケットを使ってチーズケーキを作りたい→チーズケーキってどうやってつくるの？分量とかもわからない等)	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全国の料理をつくる担当の方たちへ
伝えたい内容	家庭に眠っている非常食，期限が切れていませんか・・・？保存期間3年，5年といっても，あっという間に年月は過ぎていきます！1年に1度はローリングストックを行う習慣をつけ，キッチンの片付けついでに美味しい非常食を使ったごはんを作ってみましょう。
伝えたい相手	備蓄食を美味しくないと感じている方たちへ
伝えたい内容	a米って美味しくなさそう,,, 乾パンって食べ飽きちゃう,,, そんなイメージを持っていませんか？a米をぜひ食べてみてください。美味しいごはんです。パサパサしてるなあなんて感じた場合でも大丈夫！日常生活での食事では，カレードリアなどにアレンジして食べればパサパサ感も気になりません。乾パンも食べ飽きちゃった。そんな方は，砕いてチーズケーキのクッキー生地に！フードロスをなくすためにも，備蓄食をアレンジして美味しく食べてみてください。



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	16 (授業実践⑮)
タイトル	表現しよう。防災への思いとアイデアをカタチに (外部コンテスト・コンクールの活用)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)

実践にかかった金額	3000 円未満 (応募用の送料)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年夏休み
実践の所要時間	各自
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 110 人 (高 1・2, 中 3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	各自の自宅など
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	外部コンテスト, コンクールの情報

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内外での防災学習・活動や被災地ボランティア研修に参加した生徒たちが学んだことを表現し、アウトプットするために、外部コンクールやコンテストを積極的に活用する。 学校には毎年、多くのコンテストやコンクールの案内が来る。生徒が自らの関心に合わせて、表現できるように、複数のコンテスト・コンクールを選び、生徒に提示する。 <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒は、積極的に防災諸活動に参加し、非常に良いアイデアと行動力を見せる一方で、その経験を効果的に表現する表現力や学んだことを深める洞察力を伸ばすことが課題となっている。
------	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>①コンクール・コンテストについて，学校に届くチラシやインターネットからなどで情報を集めて，応募する候補を選定する。</p> <p>▼今年度活用したコンクール・コンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA エッセイコンテスト 〆切:9月上旬 ・ スピリット・オブ・コミュニティ（ボランティア賞）〆切:9月上旬 ・ お金の作文 〆切:9月下旬 ・ 内閣府主催「防災ポスターコンテスト」 〆切:10月末 ・ SYD きらめきメッセージコンテスト 〆切:11月末 <p>↓</p> <p>②各活動（授業・地域活動・被災地研修など）</p> <p>ワンポイント★教員は，活動の中で，単に活動するだけではなく，その中で自分なりの課題を見つけること，課題に対しての解決策を考えることの大切さを伝える。</p> <p>↓</p> <p>③夏休みの宿題（中3）や事後活動（被災地研修）として，コンクール・コンテストへの応募作品を選択課題として課す。</p> <p>↓</p> <p>④作品の回収と応募作業</p>	
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プランの一環で今年度，初めて内閣府「防災ポスターコンテスト」に応募した。中3の選択課題としたところ，3割の生徒が選択した。 ・ メッセージコンクールにおいては，被災地研修からの学びをまとめた高1の生徒の全国大会への進出が決まった。 ・ 2学期（9～11月）に防災教育を経験した中1に，学期のまとめとして，12月に即席の防災ポスター作成を課したところ，ポジティブで主体的な内容の作品が多く見られた。防災ポスターコンテストの応募期間は過ぎていたが，来年度以降にアイデアを持ちこして，応募に繋がれたら良い。 	



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: fit-content;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: fit-content;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: fit-content;">苦勞</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 2px 5px; width: fit-content;">課題</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ポスターを選択する生徒が多くいたので、来年は授業で案を考えてから作成するとより良いものができるかもしれないと思った。 ・「課題」と言うと義務感が出るので、「ミッション」という表現を意識して使っている。ただし、提出の自由度が高い印象になると、提出率が下がるので、提出が必須であることもしっかり伝える。 ・中3に関しては、「防災化授業」の経験を作文にしてほしいという思いもあったが、その旨を伝えなかったため、作文の題材にする生徒はいなかった。あまり限定し過ぎるのは、生徒の思考を止めるので避けたいが、「面白い視点に気づかせる」という意味では、ヒントとして伝えた方が良かったかもしれない。 ・外部のコンテスト・コンクールで受賞できる人数は限られているので、選考に漏れた中でも優れた作品はあるので、「学内コンテスト」として、表彰する仕組みを作れると良い。 	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	17 (授業実践⑩)
タイトル	言語力の向上を目指す活動を通じて、防災スキルアップも目指そう! (「朝の 15 分の活動」における教材として防災を活用する)
実践担当者のお名前	後藤 (探求推進)
実践にかかった金額	1000 円未満 (プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 5 月 31 日・9 月 26 日 8 時 15 分～8 時 30 分
実践の所要時間	15 分 (1 回あたり)
実践の運営側で動いた人の人数	人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 160 人 (高 1・2)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 中 1～高 2 の各普通教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	コーディネータ役の教員 (各クラス担任), プリント

達成目標	【目的・目標】 言語力向上を目指す朝の活動において、防災を題材にした教材を作成し、活用する。		
	【背景・経緯】 本校では言語力向上を目指して、月に一度のペースで、朝の活動の時間 (8:15～8:30) に「言語力ウィーク」を実施している。毎回、様々なテーマを扱い、言語活動を行っている。その一環で、防災を題材にした教材を開発・使用している。		
	どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
		思考力・判断力・表現力	大いに
		学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法

(1) 高1「話すトレーニング」(5月実施)

「1分で、うまく読めますか？」

準備

- ・「1分間で話す」訓練をするために、防災に関する300字程度の資料を準備する。
- ・今年度の取り組みでは、「首都直下地震の想定と公助任せではなく、自助・共助が減災を推し進めるカギになること」「時間は多く残されていないので、住民に大都市災害の実相を知ってもらうために、災害の歴史を学ぶ機会を提供することが博物館や資料館に求められていること」を指摘した資料を使用した。

実践

ステップ①1分間で話してみよう その1

隣の席の生徒とペアになって、相手が聞きやすい話し方を意識して、お互いに原稿を読み合う。



ステップ②話しやすくなる工夫をしよう

より良い話し方を目指して、原稿に発音や間などの工夫を書き込む。



ステップ③1分間で話してみよう その2

再度、隣の席の生徒とペアになり、工夫しながら原稿を読み合う。



最後に自分の読み方を評価する

「外部の方への電話、できますか？」

設定：ボランティアクラブが文化祭で、「防災を考える～もしものために私たちができること～」をテーマに発表会をすることになりました。〇〇さんのグループは、まず学校のある世田谷区の防災への取り組みについて取材をしたいと考えています。グループの代表として、区役所に取材依頼の電話をすることになった〇〇さんは、電話をするために取材計画をまとめました。



ステップ①原稿を考えよう

設定を読み、電話で話す際の原稿を考える



ステップ②実際に話してみよう

隣の席の生徒とペアになり、実際に電話で話すつもりで話してみる。
片方の生徒は、電話の受け手を演じる。



自分の話し方の評価をする。

(2) 高2「話すトレーニング」(9月実施)

①「災害伝言ダイヤル 171 に挑戦！」(実施)

ステップ①「伝言内容を考える」(3分)

自分の置かれている状況の設定を読み、30秒の伝言内容を考える。

《設定》※生徒の実情に応じて、場面設定する。

○月○日○時○分頃、友人と○○で遊んでいた時に震度○の地震に見舞われた。所持していた携帯電話で、災害伝言ダイヤルを使って家族に伝言を残すことにした。

- ・ ○時頃、帰宅予定であることを事前に家族に伝えていた。
- ・ 公共交通機関は、すべて止まっている状態。
- ・ 電話など通常の連絡手段は通じない。
- ・ 友人も一緒にいて、けがはしていない。
- ・ 所持金は○○円程度。

※家族内での災害発生時の約束が決まっている人は、その内容を入れても良い。

伝言内容は文章ではなく、話すポイントを箇条書きにする。



ステップ②「実際に話すーその1」(30秒)

考えた伝言を自分で声に出して言ってみる。



ステップ③「実際に話すーその2」

教員の「171の音声ガイダンス」に従って、番号を押すジェスチャー





	<p>を行い、隣の席の生徒とペアになって、お互いに伝言内容を話す。 資料として、「171の音声ガイダンス（伝言の録音手順）」を生徒に配布する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ステップ④「他の人の伝言を聞いてみる」（30秒×4） 教員が4名指名して、全体の前で伝言内容を発表させる。聞いている生徒は、自分の伝言内容との相違を比較する。</p>	
得られた成果	<p>チャレンジ！朝の活動のついでに防災スキルをアップする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語力向上の活動を通じて、171のかけ方など、防災の知識やスキルが身に付いた。 ・話す力を伸ばすために、防災に関する資料を繰り返しじっくり読むことで、防災についての知識理解も深まった。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫 工夫	<p>・各クラスのモニターを使って、実際に「171」にかけている動画を視聴した。</p>	



記入日	2019年1月7日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	18(他校との連携①)	
タイトル	生徒の活躍の場が広がる! ツールとしての「魔法の携帯トイレ」活用法(日本赤十字社東京都支部 青少年赤十字メンバー連絡協議会でのワークショップ)	
実践担当者のお名前	京・市橋(社会科)	
実践にかかった金額	1000円未満(資料印刷)	※材料等は赤十字が準備
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年6月22日14時30分~16時30分	
実践の所要時間	90分	
実践の運営側で動いた人の人数	18人:本校生徒(6)・青少年赤十字役員の生徒(12)	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・防災関係者	
防災教育の対象者の人数	約90人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都新宿区	
実践を行った具体的な場所	日本赤十字社東京都支部大会議室	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	携帯トイレの材料, 東北福祉大学考案の「エコノミークラス症候群予防体操(愛称:さんあい体操)」のプリント https://www.tfu.ac.jp/gensai/image/economi-taisou.pdf	

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>都内の青少年赤十字(JRC)加盟校の生徒が集まり, 携帯トイレを校内や地域で普及するために作り方をマスターする。災害時のトイレ問題の重要性を知り, 中高生視点でどのように地域に普及するか, アイディアを出し合う。これらの活動を通じ, 同世代の防災に取り組む仲間と出会い, それぞれの地域での防災活動へのモチベーションを高める。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>本校考案の「魔法の携帯トイレ作り」が, 日本赤十字社東京都支部の防災教育の取り組みとして採用され, 2018年度から3か年, 都内の青少年赤十字加盟校, 28の区・市の赤十字ボランティアが地域での普及活動に取り組んでいる。</p>
------	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	(1) 当日のワークショップについて ▼プログラム	
	令和元年度 東京都青少年赤十字メンバー連絡協議会 防災減災ワークショップ「災害時のトイレ問題」 災害時のトイレ問題を知り、携帯トイレの作成を体験しよう！ ① 目黒星美学園中学高等学校の取り組み発表 ② ワークショップ実施 (話し合い→携帯トイレの作成→話し合い→発表！) ③ 終了・まとめ	
	① 目黒星美学園中学高等学校の取り組み発表 ・6人の生徒がプレゼンテーションを行った。 ・2人1チームに分かれ、3つのテーマをそれぞれ分担した。 【プレゼンテーションテーマ】 ○「災害時のトイレ問題とは？」 ○「エコノミークラス症候群って何？」 ○「本校の被災地ボランティア研修と防災活動」	
		
	▲「さんあん体操」をレクチャー ※2019年3月の被災地ボランティア研修で、東北福祉大学の提供する減災・防災教育プログラムを受けた。その中で習った、「エコノミークラス症候群予防体操（愛称：さんあい体操）」を本校生徒の指導で、全員で体験した。	



配布
プリント

・他校のJRCメンバーから、文化祭で発表した「災害時のトイレ問題」の取り組みの報告も行われた。

(2) 配布資料

**Mission!! 「こころとからだを守るトイレ」をつくるために
災害時、例えば「天気の悪い夜」に
外にあるこのトイレ、行けますか？**

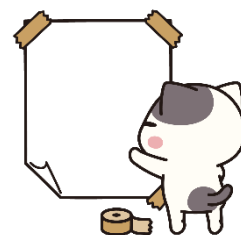


Q 1. できるだけ快適にするために、
どのようなものがあったら良いと思いますか？

Q 2. 災害は突然起こります。その結果、多くの人が集まった避難所
では、最初はルールもなくトイレを使ってしまい、あっという間に
汚れて汚物の山、ということも発生！

あらかじめ、どんなルールを広めておいて、守ってもらえば、きち
んとトイレを運用できるでしょうか。（「当たり前」のことも大事な
ルールです。）

Q 3. トイレに行く回数を減らすために、水分を
控えて体調を崩す人もいました。外に設置され
たトイレでは、残念ながら、危険なことや不便
なことも色々ありました。どのようなルールを
決めておけば、安心・安全に災害時にトイレを
使えるでしょうか。



▼熊本地震の際に、家族がエコノミークラス症候群になった方がイン
タビューで「知らなかった。行政に駐車場を回って知らせてほしかった。」と答えているのを目にした。それ以来、「あらかじめ知らせる」
「声かけをする」ことを生徒が活躍できる防災活動の1つだと考えて、以下のようなワークを作成した。



配布
プリント

Mission!! 「命を守る声かけをしよう」

災害が発生し、あなたの目の前に、トイレに行きたくないために水分を控えて元気のない人がいます。このままだと命の危険があります。

「水分をしっかりとって、トイレに行く勇気」が出るような声かけをしましょう！ 相手が「やっぱりしっかり水分をとろう！」と思えるようなセリフを考えてください。

Two empty speech bubble shapes for writing a script.



<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当日は、中学生 22 人・高校生 66 人・指導者 5 人の参加があり、充実した研修になった。同世代の他校の生徒との出会いを通じて、大いに刺激を受けた。 ・「魔法の携帯トイレ」の作成方法・指導方法のコツをそれぞれが身につけた。JRC メンバーが文化祭で来場者に教えたり、赤十字の地域奉仕団の方が中高生に教えたりと、各地で活動が展開されている。 ・本校の生徒にとっては、これまで取り組んでいた生徒達の達成感に繋がると同時に、低学年にとっては活動と災害時のトイレ問題のイメージアップに繋がっている。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 5px;">苦勞</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動を始めたばかりの 2014 年頃、教員が「本校の生徒に災害時のトイレ問題に関心を持ってほしい」と思いついたときには、まったく予想もしていなかった活動の広がりが生まれている。 ・この動きから教員が学んだことは、防災活動に「生徒の思いとアイディア」が加わると、大人が予想しているよりも、遥かに活動が広がることと、「生徒の思い」が社会を動かす可能性を持つということである。 	



工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会では、単に「携帯トイレの作り方を学ぶ」だけではなく、どうやって普及させるかのアイデアを考えたり、エコノミークラス症候群を予防する体操を練習したり、様々な視点からメニューを考えた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・暗くなりがち、避けられがちな災害時のトイレ問題について、明るい雰囲気の中で考えることで、活動のイメージアップにもなった。 ・携帯トイレに使っている吸水ポリマーシートの製造が既に終了しているため、代替の材料が必要な状況。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	日本赤十字社東京都支部事業部 青少年・ボランティア課青少年係
関係者の説明	青少年赤十字は、学校教育を通して、子どもたちに“いのちの大切さ”を伝えています。東京都支部は、学校現場での子どもたちの活動充実のために、さまざまな支援・プログラム提供をしています。世界192の赤十字姉妹社や国内約14,400校に同じ理想を掲げる青少年メンバーがいます。(東京都支部 HP より)
関係者の連絡先	TEL. 03-5273-6741 (代表)

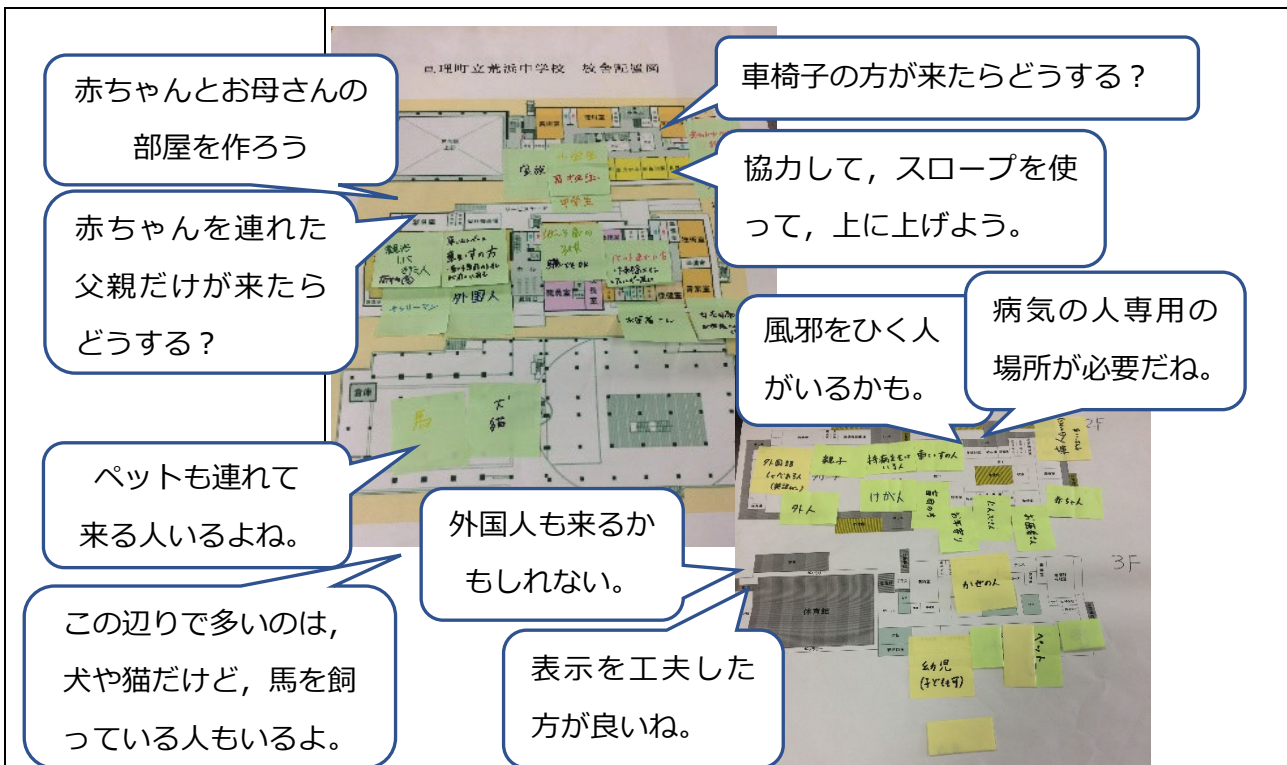


記入日	2019年1月8日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	19(他校との連携②)
タイトル	いつか来るその日のために。生徒が提案する防災交流会 —校舎見取り図をもとに避難所を想像しよう (宮城県亘理町立荒浜中学校との16回目の交流会)
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)
実践にかかった金額	1000円未満(文房具)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年7月24日10時分~12時00分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	20人:生徒(5)・荒浜中教員(10)・本校教員(5)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	75人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県亘理郡亘理町
実践を行った具体的な場所	亘理町立荒浜中学校 体育館および校舎
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	荒浜中学校の校舎見取り図(拡大コピー), 付箋

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2校の交流会の一環として、「楽しく話し合う中で、お互いに想像力を活かして、災害や防災について考えることにポジティブな気持ちを持つ」ことを目的とする防災ワークショップを開催する。 ・荒浜中学校の校舎見取り図を使って、「次に大きな災害が起きて、地域の人たちの避難所になったときにどのように校舎を活用するか」について、両校の生徒でアイデアを出し合う。 <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県亘理町立荒浜中学校と、2012年3月の第1回被災地ボランティア研修から欠かさずに交流会を続けている。近年の交流会では、両校の生徒が共に防災活動や防災学習に取り組みながら交流をすることが多くある。
------	--



	<p>・今回の企画は、交流会の企画担当の生徒が、「毎回、荒浜中学校の校舎見学をしているので、より意味のある見学になるのではないか」と提案したものである。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>(1) 交流会のプログラム (2 時間)</p> <p>①両校代表者からの挨拶 ②歌 (お互いの校歌などを披露)</p> <p>③チーム作り ④自己紹介アイスブレイキング ⑤校舎見学</p> <p>⑥防災ワークショップ (チーム活動・アイディア発表)</p> <p>⑦記念撮影…→終了</p> <p>(2) 防災ワークショップの流れ</p> <p>① チームづくり 10 名弱の両校合同チームを作る</p> <p>② 自己紹介 (アイスブレイキング) 雰囲気づくりのために大事!</p> <p>③ 荒浜中学校の生徒の案内による校舎見学</p> <p>どのチームもワイワイ盛り上がっていた。その後のワークショップに関わることから、楽しみながらもいつも以上に詳しく校舎内の間取りや工夫を確認していた。</p> <p>④ ワークショップ「避難所について考えよう」</p> <div data-bbox="188 1480 702 1863" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="735 1435 1362 1939" data-label="Complex-Block"> <p style="text-align: center;">《ディスカッションテーマ》</p> <p>①どのような人が、災害発生時に荒浜中学校にやって来るでしょう？</p> <p>②避難所として、どのように校舎を使ったらよいでしょう？誰をどこに割り当てるとよいでしょう？</p> </div> <p>↓付箋にどんどん出てきた意見を書いて貼っていった。</p>	



赤ちゃんとお母さんの
部屋を作ろう

赤ちゃんを連れて
父親だけが来たら
どうする？

ペットも連れて
来る人いるよね。

この辺りで多いのは、
犬や猫だけど、馬を飼
っている人もいるよ。

外国人も来るか
もしれない。

表示を工夫した
方が良いね。

車椅子の方が来たらどうする？

協力して、スロープを使
って、上に上げよう。

風邪をひく人
がいるかも。

病気の人専用の
場所が必要だね。

◎ 第一目的は、「想像力を伸ばす」こと（と仲良くなること）

この活動は「避難所について知ること・学ぶこと」を第一目的にしたものではなく、「楽しく話し合う中で、お互いに想像力を活かして、災害や防災について考えることにポジティブな気持ちを持つ」ことを目的としている。


◎ 一緒に考える効果

荒浜中学校の生徒は、校舎の特徴や地域の特性を把握していることから、積極的に意見を出してくれた。本校生徒も、「母子避難所」について考える授業を中3の公民で経験していたことから、その経験を活かして、意見を出していた。⇒両校の生徒の経験とアイデアが融合して、活気あるワークショップとなった。

◎ 教員の立ち位置

教員は、「防災を教える」役割ではなく、生徒の意見を褒めたり、意見がなかなか出てこないチームにヒントを出したり、視点を広げたりする役割に徹する。



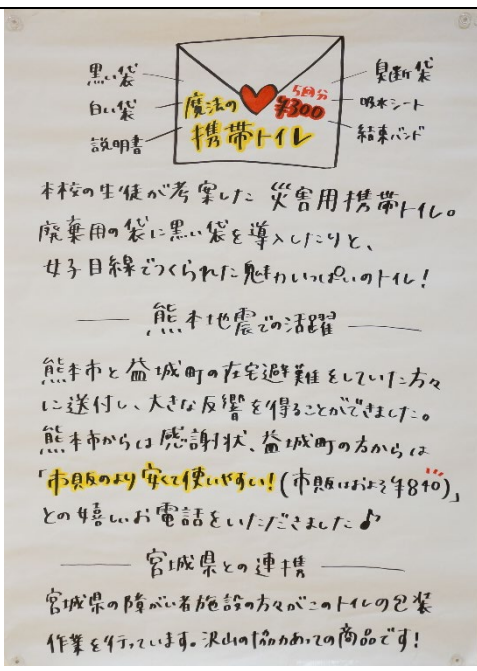

	<p>⑤ アイデア発表会 — 「一押しアイデア」を3つ発表しよう！</p> <p>自由に発表させると、単に出てきたアイデアを読み上げて、時間だけがかかる、というパターンに陥りがち。そこで、「一押しアイデア」を選んでもらい、絞って発表させる方法はおススメ。</p>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画担当の生徒の狙い通り、大いに盛り上がる交流会となった。 ・交流会の時間は、限られているため、今後の交流会の中で継続して取り組んでいくことを考えている。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <p style="text-align: center;">苦勞</p> <p style="text-align: center;">工夫</p> <p style="text-align: center;">工夫</p> <p style="text-align: center;">課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「1時間程度で盛り上がる内容」の設定を毎回、工夫している。テーマ設定が難しく、なかなか話が広がらなかったことも過去にはある。ただ、失敗も含めて経験なので、教員はアドバイスや提案をしつつ、できるだけ生徒のアイデアや思いを尊重する。また、最初のアイスブレイキングで雰囲気づくりをするのは、大事である。 ・教員はバックアップとサポートに徹して、全体への指示出しも含めて、できるだけ係の生徒に任せる。 ・ワークショップは盛り上がり過ぎて伸びる傾向にあることから、短めに制限時間を伝えておいたり、終了させたい10分前から「話し合いを終わらせてください」と言い始めると丁度狙った時間に終わる、といったコツがある。このような指示の出し方を、係の生徒にアドバイスする。 ・本校は世田谷区と福祉避難所（母子）の協定を結んでいることから、地域住民の受け入れを前提とした「学校を会場に地域住民を広く集めて、避難所運営訓練をする」というのは、「防災対策」上、実施しづらい現状がある。一方で、「防災教育」としては、意義あることである。……と、教員がぐるぐる思い悩んでいたところに、生徒が今回の企画を提案してきた。目からウロコであった。 	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	20 (他校との連携③)
タイトル	姉妹校に防災の輪を広げよう！ (姉妹校の文化祭での交流ツールとしての防災活動)
実践担当者のお名前	在田 (ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	3 万円未満 (携帯トイレ材料費・模造紙)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月 21 日～22 日
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	14 人:2 校計生徒(9)・教員(3)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・保護者・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県横浜市
実践を行った具体的な場所	サレジオ学院中学校高等学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	掲示用模造紙, 携帯トイレ

達成目標	【目的・目標】 他校（姉妹校）の文化祭に参加し、他校の生徒と協力して、防災活動の紹介や携帯トイレの普及を行う。防災をツールに、姉妹校との連携を深める。	
	【背景・経緯】 東京の女子中高生以外を対象とした防災教育の取り組みを、今年度の目標の 1 つにしていた。姉妹校から文化祭への参加の提案をいただき、本校からは、ボランティアグループ（アグネス会）メンバーを中心に高 2 の生徒が参加することになった。	
	どの力を身につけようと思いましたか？	知識・技能
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり



<p>実践内容・方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室にブースを設営し、携帯トイレの販売やパネルディスカッションを行った。 ・携帯トイレは、文化祭用の5回分の特別パックで、手作り品の一環として販売した。携帯トイレは、障害者施設に作業をお願いして作成した。販売額の300円のうち、材料・制作費用を除いた収益は、寄付とした。 ・模造紙は、携帯トイレや被災地ボランティア研修の紹介のものを作成した。 	 <p>黒い袋 白い袋 説明書</p> <p>魔法の携帯トイレ</p> <p>300円</p> <p>臭断袋 吸水シート 結束バンド</p> <p>本校の生徒が考案した「災害用携帯トイレ」。 廃棄用の袋に黒い袋を導入し、 母子目録でつくられた財布型のトイレ!</p> <p>—— 熊本地震への活躍 ——</p> <p>熊本市と益城町の在宅避難者としての方々に送付し、大きな反響を得ることができました。 熊本市からは感謝状、益城町の方からは「市販のものに使いやすさ! (市販のおよそ半額)」との嬉しいお電話をいただきました♪</p> <p>—— 宮城県との連携 ——</p> <p>宮城県の障害者施設の方々がトイレの包装作業を行っています。決定的な商品です!</p> 					
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一目的は、両校の生徒の交流と連携であり、その際に防災が役立った。 ・姉妹校の家庭への携帯トイレの普及や防災の啓発ができた。(80個400回分) ・あくまで手作り品の位置づけであり、収益は大きくはないが、活動をすることで「障害者施設への仕事の提供」、「防災用品の普及」といったことに繋がるという意味で、「ソーシャルビジネス」的な経験ができた。 						
<p>どのくらい身につきましたか?</p>	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>かなり</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>大いに</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力・人間性</td> <td>かなり</td> </tr> </table>	知識・技能	かなり	思考力・判断力・表現力	大いに	学びに向かう力・人間性	かなり
知識・技能	かなり						
思考力・判断力・表現力	大いに						
学びに向かう力・人間性	かなり						
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>前の週に開催した本校の学園祭での展示を、活かした。他校にも展示するという責任感から、より良いものを作成しようとしていた。</p>						



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	21 (他校との連携④)
タイトル	防災カルタづくりで地域(宮城)と地域(東京)をつなごう
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	1000 円未満 (カード印刷・ラミネート)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 4 月中旬～下旬 (及び 2019 年 3 月 25 日)
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人 : 生徒(4)・教員(1)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	—
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 ラウンジ (カルタの作成は巨理町立荒浜中学校 体育館)
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	画用紙, ペン, プロッキー, ラミネーターとフィルム

達成目標	<p>【目的・目標】 学校近隣の法人格砧町自治会が作成した「砧防災標語あかさたな」に合わせた, カルタの絵札を完成させる。</p> <p>【背景・経緯】 昨年度 3 月の荒浜中学校との交流会において, 両校の生徒が協力して, 防災カルタの絵札のデザインを描いた。</p>	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり



実践内容・方法

(2018 年度 3 月実施)

法人格砧町自治会の方を 3 名お招きして、自治会が取り組んでいる防災活動や標語を作成した思いについてお話を伺う。



交流会企画担当の生徒が、カルタづくりの方法を考える。

《ルール》両校の生徒がペアになり、割り当てられた読み札にふさわしい絵札を描く。ただし、言葉を発してはいけない。一筆ずつ描いて交代して、絵を完成させていく。



交流会当日に、両校の生徒混合のグループをつくり、絵札づくりに取り組む。生徒からルールの提案があったとき、教員はなかなかイメージが湧かなかったが、実際に



やってみたところ、とても楽しそうに取り組んでいた。体育館に設置してある消火器を観察しに行くチームもあった。出来上がったカルタで遊び、盛り上がっていた。

※昨年度の時点では、紙のまま絵札として完成できなかった。



- ・ 欠けている絵札の補充や色が薄いイラストの手直しを行った。
- ・ スキャナーでイラストと読み札を取り込み、枠をつけた。
- ・ ラミネート加工して、絵札として完成させた。



法人格砧町自治会に試作版をお届けした。今後、しっかりと完成させて、地域や荒浜中学校との交流会で活用していく予定である。





<p>得られた成果</p> <p style="text-align: center;">工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の第一目的が生徒同士の交流であり、短時間（30分程度）で即席で作成したイラストであったが、枠をつけてラミネート加工すると素敵な絵札になった。 ・『砧防災標語あかさたな』の絵札を作ってほしい」という地域の課題を生徒が引き受け、他校の生徒と力を合わせて解決するという良い経験ができた。また先方の先生からも良い標語がたくさんあるとおっしゃっていただいた。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>荒浜中学校の生徒とは、作成したときに実際に使って盛り上がったが、まだ地域の方と使う機会がつかれていないので、今後、その機会をつくりたい。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>法人格砧町自治会</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>「砧防災標語あかさたな」について http://www.houzinnkakukinuta.com/bousaihyogo%20.html ※団体については【実践番号 20】の「協力を求めた団体」参照。</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>HP: http://www.houzinnkakukinuta.com/index.html</p>



記入日	2019年 月 日 (2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	22 (地域との連携①)	
タイトル	生徒発信★ペットの命のためにできることを探そう！地域で活動しよう！(「ペットと防災」についての地域活動)	
実践担当者のお名前	京 (ボランティアクラブ顧問)	
実践にかかった金額	ほぼ0円 (学校負担として)	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	①2019年7月26日10時00分～12時00分 ②2019年11月3日10時00分～15時00分	
実践の所要時間	①2時間 ②5時間	
実践の運営側で動いた人の人数	①6人 (保健所職員・教員) ②10人 (保健所職員など・生徒ボランティア・教員)	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民	
防災教育の対象者の人数	①2人 (生徒) ②はイベント全体の来場者数が14,000人 (公表値)	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	①世田谷保健所 ②砧公園ねむの木広場	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	ペットと防災に関する資料	

達成目標	本プランは、昨年度、社会(公民)の授業の一環で、世田谷区の災害対策課職員から区の災害対策について話を聞いた生徒2名が、「ペットのための防災について自分たちなりに調べて、地域住民に呼びかけをしたい」と申し出てきたことがきっかけで始まった。生徒が自ら見つけた課題に対して、どのような解決策があるか考え、地域で行動を起こすことを目指し、教員はそれをサポートしたものである。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法

(1) 事前打ち合わせ@世田谷保健所 (7/18)

- ・生徒のヒアリング調査の前に、保健所職員と教員で約 1 時間の打ち合わせを行った。
- ・打ち合わせで生徒が考えた質問項目をお伝えして、7/26 当日は、質問に合わせた資料を準備していただくことになった。
- ・教員からは、区の取り組みに加えて、地域の課題や生徒に「お願いしたいことの提案」も含めてくださるようお願いした。

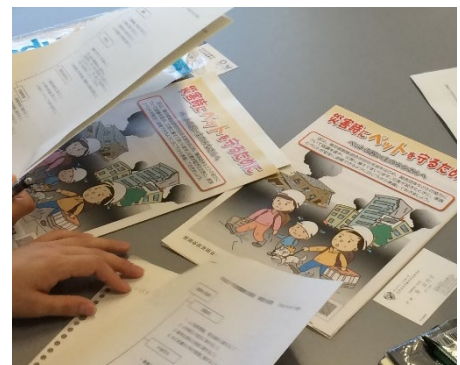


(2) 生徒による保健所へのヒアリング調査@保健所 (7/26)

当日は、4名の職員の方がご参加くださり、生徒の質問に丁寧にお答えくださった。事前に提出していた質問事項だけではなく、追加の質疑応答にもお答えくださった。

○生徒からの「事前の質問と取り組みたいこと」の一部

- ・保健所で行っている防災対策を知りたいです。
- ・災害が起きたときに考えられるトラブルはどんなものがありますか
- ・防災に限らず、保健所が抱えている課題を教えてください。
- ・過去の災害でペット・動物や飼い主に起きたことから学んで、東京で同じことが起こらないように活動したいです。
- ・ペットを飼っている人に、防災を呼びかけたいです。



《お話を伺った主な内容》

- ①保健所の仕事全般について
- ②ペットと防災について、世田谷区の取り組みや保健所が配布している資料について



- ③地域におけるペットと防災の課題とどのような備えが必要か
- ④生徒に期待していること

(3) 動物フェスティバルでのボランティア活動 (11/3)

- ・生徒 6 名が、ボランティアとして保健所のブースで活動した。保健所ブースでは、ペットのための備えについての展示と、防災クイズが行われ、生徒は呼び込みやクイズ対応、資料配布などを行った。
- ・ヒアリング調査に参加した生徒からは「保健所でもらった資料が詳しくて分かりやすかったので、イベントで配布する担当をしたい」という希望も出た。
- ・災害時の動物支援に取り組む団体のブースが複数あり、生徒は情報収集や交流ができた。



得られた成果

①当日の成果

- ・動物フェスティバルは天気にも恵まれ、多くのペットを連れて住民が来場した（イベント全体では 14,000 人が来場）。本校としては、初めて参加するイベントだったが、生徒自身も楽しみながら活動することができた。開催時間いっぱい、途切れることなく多くの人々がブースに立ち寄り、防災クイズや展示の見学をしてくださった。
- ・ヒアリング調査にご協力くださった職員の方や地域で動物のボランティア活動に取り組む方と一緒に、ブースを運営することで、「顔の見える関わり」を深めることができ、生徒は社会との繋がりを広げることができた。
- ・動物フェスティバルには、多くのブースが出ており、「ペットと防災」を軸に取り組む団体の展示も多くあった。生徒は他のブースを



見学することで、様々な情報や活動に触れて、知識を楽しく得ると共に、活動へのモチベーションを上げていた。教員も様々なブース展示を見ることで、12月に行われる防災フェスタのブース作りにも活かすことができた。

- ・台風 19 号の後ということもあり、「ペットと防災」への関心は高い一方で、「どこに避難すればよいのか」といった行政に頼った質問もあったので、自分のペットのために普段から自分で考えて備えておくことの重要性をお伝えした。

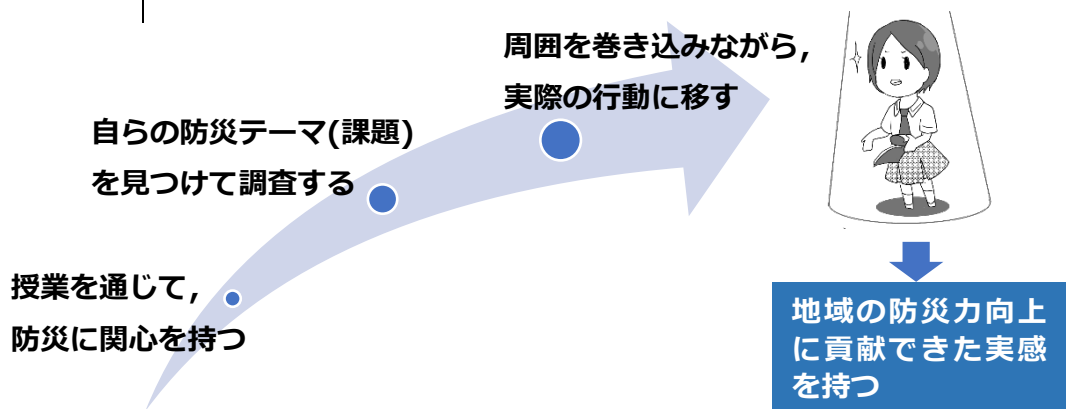
②活動全体を通じて

◎三人寄れば文殊の知恵！生徒から教員が学ぶ防災教育

- ・実践担当者は、防災に強い関心を持っているものの、ペットは飼っていないため、正直、「ペットと防災」にあまり着目していなかった。生徒の「思い」を受けて、今回の活動をマネージする中で、教員の関心も高まり、改めて、「教員が生徒を教える防災教育」ではなく、「教員と生徒が知恵を寄せ合いながら、アイデアを出し合いながら取り組む防災教育」の有効性・素晴らしさを実感した。

◎防災活動のよいサイクルモデル

今回は、中学時代に「防災参画型授業」を受けた生徒が、高校生になって、自らの課題意識を基に行動し、実際の地域活動まで実現できたという、よいサイクルモデルになった。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり



<p>課題・苦勞・工夫</p> <p>工夫</p> <p>工夫</p> <p>課題</p> <p>工夫</p> <p>課題</p> <p>苦勞</p> <p>課題</p>	<p>◎学外との連携における防災「教育」に対するコンセンサスは重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動の前に教員と協力してくださる職員の間で打ち合わせをしたことで、防災「教育」のコンセンサスができていたので、当日は、生徒たちがより効果的な学びが得られた。 ・学校側からは、「行政の対策」だけではなく、「地域の課題」についてのお話を希望した。 <p>⇒「地域にこういった課題がある」「解決方法を考えてみてほしい」と投げかけてもらうことにより、生徒は自助意識を高めるだけでなく、社会参画の意識と責任感を持つ。(逆に、「こんな対策をとっています」という情報提供だけであると、生徒は「行政が準備してくれる」と依存心を強める可能性がある。)</p> <p>⇒「地域と連携した防災教育」が推奨されているが、学外の協力者に防災「教育」の方針を説明して、一定のコンセンサスを得ておくことが必要である。教育の本質を説明して理解を得るために、事前打ち合わせが重要であると今年度のプランを通じ、改めて認識した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のヒアリング調査については、中学生の段階で教員に相談が来ていたが、教員が忙しかったこともあってなかなか行動に移せなかった。生徒が自らの課題を見つけた時に、スムーズに支援できる仕組み作りを考えていく必要がある。 ・今回は、11月のイベントまでに生徒がオリジナルのチラシを作成するところまでは至らなかった。今後、活動を継続する中で、チラシや掲示物の作成までできると良い。 <p>◎イベントと台風 19 号で、住民意識の変革の必要性を改めて認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校でもペットを飼っている生徒は多い。イベントで行政に頼る意識の質問を受けたこと、台風 19 号の際に地域でペットに関して混乱があったことから、来年度の防災教育の重点項目の 1 つにしたい。
<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>世田谷保健所生活保健課</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>動物担当の部署。</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>TEL 03-5432-1111（代表）</p>



記入日	2019年1月5日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	23(地域との連携②)
タイトル	授業から社会参画しよう「生徒のアイデア×地域のか」で臨む地域防災イベント(地域防災イベントへの参加)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	3万円未満(印刷代・携帯トイレ材料・展示用パネル)
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年12月7日10時00分～13時00分
実践の所要時間	3時間
実践の運営側で動いた人の人数	8人:生徒(1)・公園職員(2)・自治会(2)・他校生徒(2)・教員(1)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約50人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	砧公園ねむのき広場
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	携帯トイレづくりの材料, 災害時のトイレの展示, 展示物とパネル

達成目標	【目的・目標】 学校近隣で開催される地域住民を対象とした防災イベントにおいて、地域と協力して、生徒のアイデアを活用・具現化する。		
	【背景・経緯】 今回で3回目のイベントで、本校では昨年度から参加している。 【実践番号 10】 で報告した通り、イベントの実施時期と本校の試験期間が重なっていることから、昨年度は、教員のみでブースを出したところ、効果的に啓発活動ができずに大いに反省した。以上のような昨年度の「失敗」を今年度の教材とした。		
	どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	少し
		思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに	



実践内容・方法

(1) 準備・打ち合わせ**第1回打ち合わせ** (10/8) 16:00~17:30

防災フェスタの各ブースを回るときに使用する、スタンプラリー用のカードのデザインについて相談した。

★スタンプラリーの第1ターゲット=ファミリー層（たまたま公園に遊びに来た幼児～小学校低学年とその保護者）

▼生徒のアイデア

- ① スタンプラリーカードは、敢えて防災色をあまり強く出さずに、季節に合わせてクリスマスカードをイメージしたデザインにする。小さな子どもがスタンプを集めたいくなるようなデザインにする。
- ② スタンプラリー用カードには情報を詰め込まずに、別に防災啓発用のチラシを作成して、スタンプラリー用カードと一緒に渡して保護者に読んでもらう。チラシには、地域で防災に取り組む人たちから、前向きに備えに取り組んでもらえるようなメッセージや情報を集めて掲載する。⇒チラシ作成にあたっては、防災について学ぶ学生や、東日本大震災を経験した方などからメッセージを集めた。

**◀打ち合わせの様子**

スタンプラリーカードとチラシ作成に協力した生徒は、公園職員に対して、新しいアイデアを出し、しっかりと意見を述べていた。

第2回打ち合わせ (11/7) 15:00~17:30

- ① 本校の担当するブースの打ち合わせを行った。「どっきり一言カード」【実践番号 24】のメッセージ案をお渡しした。
- ② 生徒からスタンプラリー用カードのデザインを提案した。

※この他、メールでの打ち合わせを複数回、行った。

携帯トイレ作成 (11/9) 【実践番号 34】

中1が作成した携帯トイレを見本・配布用として使用する。



砧公園 防災フェスタ 2019

おうちで話しあおう!

あるとホッとするもの

今日、ライフラインがすべて止まったら、何日、生活できますか?

長い行列並ばはれ自分たちを構はろう

普段食べているもので、賞味期限が長いもの

自然にすぐにあるもので、災害時にも役立つもの

今日、準備できそうなもの

お風呂にしばらく入れないかも! どの湯がおすすめ?

お部屋で考えてみよう!

お部屋中に地震が起きたら一閃たり、構えできるものは?

災害を上回ることはできない。私たちにできるのは「備える」といこと。

2019年12月7日(土) 10:00~13:00

主催:公益財団法人東京都公園協会砧公園サービスセンター
チラシ作成:目黒星美学園中学高等学校

防災啓発用 チラシ

▽東日本大震災を経験した方や防災について学ぶ日本大学危機管理理学部の学生の皆さんに聞きました。

私はこれを読んでます! 災害時にも役立つ身近なグッズ

枕カバー
自分やペットのにおいがついていて気持ち悪い

プロテイン
栄養素として栄養があり、水だけで補給できます。サプリメントもおすすめです!

水・食料・トイレ!
この3つは、しっかり備えておきたい!! 311のときに、本当に本当に大事でした!!

モバイルバッテリー
災害時、情報はとても重要です。多くの人がスマートフォンを持って外出しますが、中には充電がなくなってしまうことがあります。大規模な災害時には、電気が止まることも予想されるため、モバイルバッテリーは必ず持ち歩きましょう。

Q. 防災を学ぶ思いを教えてください。
東日本大震災で家が被災し、津波に飲み込まれてしまいました。その時はまだ小学生だったので何もできなかったし、言葉にもできない思いでした。しかし、自分の目に確信に抱かされた記憶でした。成長しても、その記憶は心に刻まれます。大切な人や動物のためにできることを考えたととき東日本大震災のことから心に浮かびました。防災に関する知識や技術を学び、防災関係の仕事につきたいと考えています。防災を勉強する上でまずは「知る」ということが重要だと思います。
(東大出陣の学生)

Q. 備えについて、アドバイスをお願いします。
311のときは、ライフラインがすべて止まりましたが自宅に十分な備えがあったので、家族は自宅である程度、不自由なく生活できました。自分で備えておくことの大切さを、身を持って経験しました。災害が発生して、自宅以外で生活することになった場合も必要なものを準備しておくことが、自分自身の助けになります。どちらにせよ、避難から一人一人が自分で備えておくことが大切です。
そして、備えの大事なのは「心の備え」です。「大規模な災害がいつ来てもおかしくない」というのが現実。『この備え』をしておくことで、いざというときの行動が変わります。
(宮城県の花巻市)

防災啓発用 チラシ

スタンプラリーカード

なかのイラストではくまちゃん、あわてているよ。

もしも、地震がくるまえに、どうすれば、よかったかな? かんがえてみよう。

あつちでも、あふないばしょがないか、さがしてみよう!

主 催:公益財団法人東京都公園協会 砧公園サービスセンター
デザイン:目黒星美学園中学高等学校 主催

2019年12月7日(土)10:00~13:00

ぼうさいスタンプラリーのルール

かくるエリアをまわって、スタンプをあつめよう!
たいけん 体験するとスタンプが1つもらえるよ。

こ ぼうさいイラストはかせ 子ども防災公園博士をめぐろう!
スタンプがあついたら本部(ほんふ)にきてお!

いじょう スタンプを3つ以上あつめるとプレゼントがもらえるよ!

おたのしみプレゼント☆

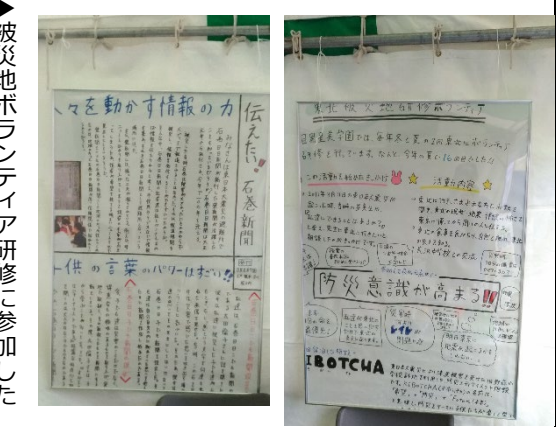
(2) 防災フェスタ当日

イベントに参加する前提として、本校生徒が防災フェスタ当日は、テスト期間で参加できなかったため、地域の皆さん(自治会と他校の中学生ボランティア)の協力を得て、ブース展示・運営を行った。

地域のご協力で実現した本校のブース



被災地ボランティア研修に参加した生徒が作成した壁新聞の展示





◀携帯トイレの吸水実験コーナー

法人格砧町自治会の方が様々なタイプの携帯トイレと尿に見立てた色水を使って、来場者に参加してもらった。来場者は、凝固剤が水を吸う様子を非常に興味深そうに試していた。平常時に使い方を確認しておくことは、抵抗感を無くすためにも有効である。



◀携帯トイレづくり

中学生ボランティアがすぐに指導方法をマスターして、動き出してくれた。明るく分かりやすく説明してくれたため、来場者も丁寧に作業を行っていた。来場者が作業しやすいように自分たちで考えて、材料を予め設置する工夫も素晴らしかった。

12/6の教員研修のために、宮城県からお招きした先生が、防災フェスタにもご参加くださった。設営段階から見学して、今後に向けてのアドバイスや地域住民に体験談をお話くださった。中学生にも、災害時に中学生の力は大きな助けとなるというお話もしてくださった。

得られた成果

- ・生徒のアイデアが実際の形になり、達成感があった。イベントに直接は参加できなくても、このような貢献の方法があることを知り、新たな社会参画の経験になった。
- ・中学生ボランティアは、防災の活動に参加するのは初めて
- ・雨天で人出は少なかったが、30名ほどに携帯トイレづくり体験にご参加いただいた。中1が作成した見本も10個ほど配布できた。
- ・自治会の皆さんの協力があって、非常に心強かった。携帯トイレの吸水実験の道具や展示物も用意してくださり、充実したブースになった。三人寄らば文殊の知恵と言うが、他団体との協力・連携してアイデアを出し合うとより良い活動が生まれると改めて実感した。

どのくらい身につきましたか？

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	かなり
学びに向かう力・人間性	かなり



<p>課題・苦労・工夫</p> <p>工夫</p> <p>工夫</p> <p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント主催者に、中学生には、防災イベントに一般参加者としての参加を呼び掛けるだけではなく、「ボランティア」として募集した方が、効果があることを学校視点から提案した。（本校の生徒の場合も、役割のあるボランティアの方が、集まりやすい傾向にある。） ・ 防災イベントに参加するときに、他校の生徒に当日、飛び入りで手伝ってもらおう場合がある。その祭、活動の説明の際に、『魔法の一言』を付け加えると、より責任感を持って取り組んでくれる。 <p>教員「皆さんは、首都直下地震が発生したら、何人の人を救えると思いますか？」</p> <p>生徒「1人くらい…?」「助けられるかな…?」</p> <p>教員「これまで大きな地震が起きるとトイレを我慢するために、食事や水分を控えて体調を崩したり、命を落とす人もいました。だから今日、皆さんが、地域の方たちに災害時のトイレ問題について説明することが、多くの人の命を救うことに繋がるかもしれません。だから、自分の言葉で考えて、伝えてみてください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携の場合、学校行事との兼ね合いで生徒の参加が叶わないことは、今後も出てくる。今回を好事例として、多様な参加方法を今後も模索していきたい。
<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>①法人格 砧町自治会 ②世田谷区砧まちづくりセンター ③（公財）東京都公園協会砧公園サービスセンター</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>①学校近隣の自治会で、積極的に防災活動に取り組んでいる。防災の素晴らしいアイデアをいくつも実践しており、本校でも参考にさせていただいている。また、2016年に本校の生徒が行った防災ワークショップをきっかけに、災害時のトイレの啓発活動にも取り組み、研修会の企画や携帯トイレの地域への普及活動等を行っている。</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>HP: http://www.houzinnkakukinuta.com/</p>
<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>ご協力くださった皆様</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>本校だけでは実現できなかった企画でした。様々なアイデアを出し合い、力を合わせると大きな力が生まれると思いました。</p>



記入日	2019年1月5日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	24(地域との連携③)
タイトル	あなたはそれでも準備しませんか? —「どっきり一言カード」大作戦! (炊き出し訓練の列に並ぶ人の自助意識を高める工夫)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(カード印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年11月22日作成→2019年12月7日配布
実践の所要時間	15分(1人あたりの作業時間)
実践の運営側で動いた人の人数	1人(カード作成に協力した生徒は23人)
防災教育の対象者の属性	中学生・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約100人(=カード配布枚数)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	都立砧公園 ねむのき広場
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	「どっきり一言カード」

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントでふるまわれる炊き出しカレーと共に、生徒の防災一言アドバイスを集めた「どっきり一言カード」を配布することで、地域住民の防災意識をちょっと高める。 ・炊き出し訓練に並んだ人が「災害が起きたら、同じようにここに並べばいいんだ」と勘違いすることを防ぎ、むしろ「今日の帰りに早速スーパーに寄って、必要なものを探してみよう」と思って行動してもらえることを目標とする。 <p>【背景・経緯】 ◆炊き出し訓練による「防災の誤謬」!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントにおいて「食べ物」は魅力的な出し物であり、防災イベントにおいても集客力を高める。しかし、以前、地域で行われた炊き出し訓練では、たまたま通りかかった人がどンドン列に並んでカレ
------	---



	<p>一だけを受け取る様子があった。「災害が起きたら、こうやって炊き出しを受けられる」という防災依存心を高めているように見えた。</p> <p>・1学期に実施した中3の防災化授業【実践番号 10】で、生徒が地域住民の自助意識を高める防災イベントの企画を提案した。その中に、「炊き出しの食べ物と一緒に、メッセージカードを付ける」というアイデアがあり、本プランとして採用した。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>(1) カード作成の流れ</p> <p>① 生徒による防災イベントのアイデアの提案 (1学期実施)</p> <p>↓</p> <p>② 一言カード案の作成 (授業時間数に余裕のあった1クラスが協力)</p> <p>※公民的分野の授業内での位置づけは、「行政権の拡大・行政改革」の単元において、防災の行政依存の問題に関連させて。</p>	
	<p>授業プリント</p> <p>いつか来るその日のために…</p> <p>普段から自分で備える意識を広めよう！</p> <p>12月7日の砧公園での防災フェスタでは、1学期に皆さんが提案したアイデアが色々と採用されることになりました！</p> <p>その中の1つが、去年はただカレーを配っただけの炊き出し訓練で、食べ物と一緒に「一言カード」を配るというもの。</p> <p>読んだ人が、「炊き出しの列に並べばいいや、と思い込んでいたけれど、そうではなく、自分や自分の大切な人のために自分で備えよう！」「今日の帰りに早速スーパーに行ってみようかな」と思うような「メッセージのアイデア」を提案してください。(いくつでも！) メッセージやデザインなどを提案してください。</p> <p>東京では電気・ガス・水道がストップするような地震が起きた時、どんなことが起きると思いますか？ 想像してみよう！</p>	



③ 砧公園の職員による投票

→得票数が多いフレーズをそれぞれの生徒に清書してもらった。

※生徒のメッセージは、割とストレートで遠慮のないものもあるので、配布して支障のないものを、イベントの主催者にも選んでもらった。防災活動において、言葉の選び方で誤解されるリスクは避けたい。



④ 「どっきり一言カード」の作成

生徒の手書きメッセージをスキャナーで取り込んで、カードを作成した。砧公園職員から、パソコンで打つよりも生徒の手書きの方が良いとアドバイスをいただいた。

(2) イベント当日

赤十字婦人部担当の炊き出しコーナーで、配布していただいた。





▼配布したカード

備えて食べて買って
ローリングストック

気軽に続けよう!
いつも食べているものや使っているものを多目に買って備える
日常備蓄 (ローリングストック)
がおススメです。

備えよう。未来の自分のために。

「一人一人が防災の主役に！」を合言葉に、中学生が防災の授業で考えた一言コメントです。

<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短い作業時間にも関わらず、ミッションの内容を掴み、ユニークな一言がたくさん出てきた。 ・生徒のアイデアが実際の形になり、達成感があった。イベントに直接は参加できなくても、このような貢献の方法があることを知り、新たな社会参画の経験になった。 ・初めての試みだったが、面白い取り組みになったと自負している。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">工夫</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">苦勞</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の手書きのメッセージをそのまま使ったので、親しみの持てるカードになったと思う。「子ども・若者には大人を動かす力がある」と感じているが、このような形でも子ども・若者ならではの良い影響を生むと思った。今後も、このような子どもたちの力を活かすアイデアを考えていきたい。 ・当日は、雨天のため、人出は少なかったが、今後も引き続き、機会を見つけて「どっきり一言カード」を作成・配布していきたい。 	



記入日	2019 年月日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	25 (地域との連携④)
タイトル	「私たちにできること」 忘れない思いをカタチに Vol.3 (書道部による 3.11 追悼イベントのための大型作品・竹 灯籠作り)
実践担当者のお名前	伊藤 (書道科主任)・須藤 (書道部顧問)
実践にかかった金額	3 万円未満 (材料・送料)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 12 月上旬～2020 年 2 月下旬
実践の所要時間	36 時間
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	10 人 (書道部部員)
実践を行った都道府県と市区町村	①東京都世田谷区 ②宮城県亶理郡亶理町
実践を行った具体的な場所	①目黒星美学園中学高等学校 書道室 ②山元みんなのとしよかん敷地 (追悼イベント会場)
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	大型作品：大型作品用書道用紙 (9.5M×2 本), 墨汁, イ ベントカラー/竹灯籠用イラスト：プラスチック障子紙, マジック, クレヨン

達成目標	<p>【目的・目標】 2020 年 3 月 11 日に宮城県の山元町で行われる追悼イベントの会場に 展示する大型の書道作品を作成する。書道部部員が言葉やデザインを 一から考えて、協力して完成させる。</p> <p>【背景・経緯】 被災地ボランティア研修で繋がりができた山元町の町民の方から、作 品の作成を依頼され、今回で 3 年目の取り組み。</p>	
どの力を身につけよ うとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法

依頼

山元町の追悼イベントの実行委員から作品の依頼を受ける



作成

①書道部員で話し合い、作品の構図と言葉を考える

★中心となる言葉：「光を灯す 心に灯す」

②学年ごとのメッセージを考える

学年ごとに懸命に言葉を選び、ふさわしい表現か先輩からアドバイスを受けながら推敲を重ねる。

③作品を作成する（2 作品作成）



④竹灯籠作り

プラスチック障子紙を使用して、竹灯籠用のイラストも、同時並行で作成した。



⑤校内報告（1/18）

学校行事の中で、全校生徒の前で作品と活動について紹介する。全校生徒が被災地に心を向け、関心を持つ機会にもなっている。



⑥現地へ送る→2020年3月11日に追悼行事の会場に展示される

◀参考：以前の様子

(2018年3月11日撮影)





<p>得られた成果</p>	<p>チャレンジ！書道部ならではのスキルを活かして被災地に貢献する</p> <p>①生徒各自が真剣に取り組み、書いて表現し、追悼イベントに作品を通じて参加できる経験は、指導者としては、この上ない教育活動であると考えている。やり直しのきかない大型作品なので、失敗できない緊張感とプレッシャーも書道の学びとなる。</p> <p>②生徒がオリジナルのメッセージを考え、心を込めて作品を作成した。書道部ならではの活動で貢献することで、自らのスキルを活かして社会に貢献する意識を持つことができた（＝プロボノの体験）。</p> <p>③被災地ボランティア研修に参加経験のある生徒から、参加経験のない生徒に経験を伝える機会になっている。書道部は、希望者制の「被災地ボランティア研修」への参加率が毎回、高い。部員が被災地研修に参加していたことから、この作品作りの依頼を受け、さらに作品作りを通じて下級生が関心を持ち、参加に繋がる良いサイクルが生まれている。活動を継続するのは簡単なことではないが、「思い」が先輩から後輩に受け継がれるのが、本校の防災教育・被災地支援活動の良い点であると自負している。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">工夫</div> <div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px;">課題</div> </div>	<p>本プランは、「時間が経ってから、現地のニーズに合わせて活動する」という方法があるという「防災『支援』教育」にも繋がる。今回の事例を授業でも、紹介していきたい。本校では、「支援する側」の防災教育の必要性にも着目している。災害発生直後に、闇雲に子どもたちの作品やメッセージを送ることは、「支援物資のミスマッチ」に繋がる可能性があり、課題と捉えている。</p>	



記入日	2019 年 月 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	26 (地域との連携⑤)
タイトル	「どうせ助からない」を減らすために (地域交流会での生徒によるミニ防災講座)
実践担当者のお名前	京 (ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	①2019 年 7 月 16 日 14 時 00 分～16 時 00 分 ②2019 年 12 月 17 日 14 時 00～16 時 00 分 ③2020 年 2 月 17 日 14 時 00～16 時 00 分 (予定)
実践の所要時間	5～10 分 (2 時間のイベントの一環として)
実践の運営側で動いた人の人数	指導した生徒数 ①4 人 ②1 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民
防災教育の対象者の人数	①約 50 人 ②約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	学校近隣の団地集会所
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	(知識) 東北福祉大学考案の「エコノミークラス症候群予防体操 (愛称: さんあい体操)」 https://www.tfu.ac.jp/gensai/image/economi-taisou.pdf

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に対して「諦めの意識」を持つ住民に対して、生徒が明るく防災について、呼びかけることで、少しでも前向きに防災に取り組んでもらえることを目指す。 ・この経験を通じて、生徒自身がエコノミークラス症候群予防の知識と技能を身につけ、主体的に行動する態度を養う。 <p>【背景・経緯】</p> <p>①宮城県の私立学校教員から、東日本大震災を経験して、分かったこととして、「地域との連携が無ければ、災害は乗り越えられない」というアドバイスを受ける。</p>
------	---



	<p>⇒現状としては、公立に比べて、私立学校は地域との関係が薄くなりがちであるため、校内の防災対策を進めるのと同時に地域との連携も模索してきた。その実践の中で、「災害時の連携」を目指すのであれば、「普段からの繋がり」が必要であることに気づき、防災以外にも地域との交流の機会を増やしている。</p> <p>②地域住民と交流する中で、生徒から「防災の話題を出したら、『災害が起きたら、私は助からないから諦めている』『備えても災害が来たらどうしようもないから…』と言われた」という報告があった。</p> <p>⇒被害想定が大きい沿岸部に限らず、学校の近隣でも「住民の諦め」意識が課題であることが浮かび上がった。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>定期的に本校の生徒が参加している地域住民との交流会の中で、生徒による「ミニ防災講座」の時間をとらせてもらっている。</p> <p>今年度の交流会では、エコノミークラス症候群を予防する「さんあい体操」を実践している。</p> <p>体操の前に、生徒がエコノミークラス症候群や備えることの大切さについて説明してから、実践している。</p>	
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい雰囲気の中で、参加者全員で楽しく明るく体操ができた。 ・初めて体験する生徒も多いが、「一緒に体験する」「自分たちが教える側になる」という経験を通じて、しっかりと身体を動かす様子が見られた。実践しながら、身につけることができた。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>・短い時間の取り組みなので、どの程度、住民の意識改革や行動変容につながっているかは分からないが、少なくとも明るい印象作りには貢献できていると思う。また、参加した生徒自身の意識向上と技能習得には確実につながっている。</p>	

課題



記入日	2019年1月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	27(被災地等校外での防災学習①)
タイトル	歩いて感じて考えよう! 修学旅行で行く熊本城復興ツアー (熊本での修学旅行における「災害スタディツアー」)
実践担当者のお名前	青木(キャリア教育)・雪城(高2主任)
実践にかかった金額	非公開(個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月11日13時00分~14時00分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	15人:教員(7)・旅行会社(2)・ガイド(6)
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約80人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	防災ツアーのガイド

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>本校では、5月上旬に九州での修学旅行を実施している。例年、最終日に熊本城と阿蘇山を見学する行程を取っていたが、2016年4月の熊本地震の影響で、熊本のコースを中断していた。昨年から熊本をコースに戻し、新たに「災害スタディツアー」として実施した。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>本校では、熊本地震発生直後、生徒が立ち上がり、1万7000回分の携帯トイレを作成して現地に送り、益城町の方から、「在宅避難で途方に暮れていたときに届いて、とても助かった」というご連絡を頂くという経験をした。多くの生徒が、早朝から作業を行い、修学旅行に行けなくなった当時の高校2年生も、修学旅行の事前研修に使うはずだった時間を使って、作業を行ったり、募金活動を行ったりした。修学旅行に行った現高校2年生は、当時中学2年生として一連の活動に携</p>
------	--



	<p>わった。</p> <p>以上のような背景があり、関わりを持った熊本市を実際に目で見る学習を行わせたいと考えた。送って終わりではなく、その地域を実際に訪れることで、活動に継続性を持たせる機会とした。また、「現地にお金を落とすという支援の形にもなる」というアドバイスも受け、昨年度より、熊本にルートを戻すことになった。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>(1) 企画</p> <p>修学旅行をコーディネートしている旅行代理店に、防災学習コースを含めたプランの提案を依頼した。</p> <p>↓</p> <p>観光ボランティアガイド「(一社) くまもとよかとか案内人の会」を紹介いただいた。</p> <p>(2) 当日</p> <p>①被災直後のドローン空撮映像とCGによる熊本城再現映像を視聴 (@城彩苑わくわく座)</p> <p>↓</p> <p>②復元途中の熊本城の見学 (ボランティアガイドの案内で、熊本城西側の外壁沿いを歩き、天守閣を遠目から見学するコース)</p>	
 		



<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空撮映像では、言葉が出ないほど衝撃を受けていた。 ・生徒たちは積極に関心を持って説明を受けたり、質問をしたりしていた。がれきを見て、当時を思い出している様子だった。 ・宮城県での「被災地ボランティア研修」は希望者制であるが、本実践では、学年全員が被災地を訪れて学ぶ経験を持つことができるのがメリットである。 ・災害スタディツアーを通じて、実際に現地を歩くことで、地震の爪痕を実感し、一人一人が防災意識を高めている。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦労・工夫</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; background-color: #cccccc;">苦労</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; background-color: #cccccc;">課題</div> </div>	<p>・災害スタディツアーは、昨年度からの企画のため、内容は、旅行代理店に相談しながら試行錯誤している。効果的な事前学習も併せて課題である。</p>	



記入日	2019年1月4日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	28[被災地等, 校外での防災学習②]
タイトル	生徒が「参加したくなる」被災地での防災学習の工夫 —第16回被災地ボランティア研修《概要編》 (生徒の多様なニーズと活動先の現状に沿う研修の工夫)
実践担当者のお名前	京(被災地研修企画担当)
実践にかかった金額	約150万円(バス借上・宿泊・食事・保険・印刷・謝礼・ その他活動にかかる費用)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	①宮城での研修:2019年7月22日~7月24日 ②事前事後活動:2019年5月~9月
実践の所要時間	①3日間 ②10時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38人(高1・2の希望者)
実践を行った都道府県と市区町村	①宮城県亶理町・仙台市・塩釜市・東松島市・名取市・石巻市 ②東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	①宮城県東松島市:東松島市役所・野蒜市民センター・防災体験型宿泊施設 KIBOTCHA ^{キボツチャ} /石巻市:南浜のビニールハウス(NPO ころの森)・カリタスジャパン石巻ベース・南浜つなぐ館・こどもセンターらいつ・石巻ニューゼ・パン工房パオ・いしのまき元気いちば/仙台市:元寺小路教会会議室/亶理町:荒浜中学校 体育館と校舎・鳥の海ふれあい市場 ②目黒星美学園中学高等学校 マリアホール, 砧公園
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	マンホールトイレの普及活動に取り組む東松島市役所職員 他, 宮城県内で様々な活動に取り組む個人や団体・移動手段(大型バス借り上げ)と宿泊場所



<p>達成目標</p>	<p>【目的・目標】</p> <p>試行錯誤しながら手作りで企画する中で、目標や目的を柔軟に変えながら、活動を継続している。現在の主な達成目標は以下の通り。</p> <p>(1)防災学習を通し、生徒自身の防災意識を高める機会とする。宮城での学びを自分たちの住む地域（首都圏）に還元する意識を育てる。</p> <p>(2)宮城での活動では、「知る」ことを重視し、その上で自分たちにできる活動を行う。その中で「自分に出来ることは何か」を考える。</p> <p>(3)復興の現状を直接知ること、自分たちが災害に直面し、当事者になったときに、長期的視点で復興に貢献できる視点を持つ。</p> <p>(4)一人一人が研修を作るという自覚を持ち、主体性を持って参加することで、より良い研修を作り上げる。その中で、失敗も糧にする。</p> <p>(5)学外の様々な人との出会いと関わりを通じて、生徒のコミュニケーション能力を高め、学びに向かう力を育てる。</p> <p>(6)宮城県の魅力を知ってもらい、交流人口を増やす。(実践担当者の出身地であり、この目標も企画継続のモチベーションになっている。)</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>東日本大震災発生後、生徒から「東北に行って、何かできることをしたい」という申し出があったことがきっかけで、2012年3月から年に2回、研修を実施している。</p>																													
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>																												
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>																												
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>																												
<p>実践内容・方法</p>	<p>企画の立て方</p> <p>イメージとしては、以下の表を埋めて、パズルを完成させる感覚。</p> <table border="1" data-bbox="501 1621 1410 2018"> <thead> <tr> <th></th> <th>1日目</th> <th>2日目</th> <th>3日目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝</td> <td></td> <td>朝食</td> <td>朝食</td> </tr> <tr> <td>午前</td> <td>—移動—</td> <td>活動 3</td> <td>活動 5</td> </tr> <tr> <td>昼</td> <td>昼食</td> <td>昼食</td> <td>昼食</td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td>活動 1</td> <td>活動 4</td> <td>—移動—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">夜</td> <td>活動 2</td> <td>ふり返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>夕食・宿泊</td> <td>夕食・宿泊</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				1日目	2日目	3日目	朝		朝食	朝食	午前	—移動—	活動 3	活動 5	昼	昼食	昼食	昼食	午後	活動 1	活動 4	—移動—	夜	活動 2	ふり返り		夕食・宿泊	夕食・宿泊	
	1日目	2日目	3日目																											
朝		朝食	朝食																											
午前	—移動—	活動 3	活動 5																											
昼	昼食	昼食	昼食																											
午後	活動 1	活動 4	—移動—																											
夜	活動 2	ふり返り																												
	夕食・宿泊	夕食・宿泊																												



	<p>○下見と打ち合わせ (4月末~5月GW中・6月末) 1回目は「活動探し」、2回目は「具体的打ち合わせ」を行った。</p> <p>募集~出発までの流れ</p> <p>①参加者募集 (4月下旬) …高1・2に募集要項を配布 過去最高の60人以上の応募があったため、初めて参加者の選抜を行った。(志望理由書とくじ引き)</p> <p>②オリエンテーション (5月~7月) お昼休み(15分)を使って、係決めや連絡等を行う。</p> <p>③事前研修 (7月中旬~下旬)</p> <p>(1)プレゼンテーション講座 (2)防災公園でのマンホールトイレ組み立て体験 (砧公園)</p>
 	<p>研修当日</p> <p>7月22日(月) マンホールトイレ組み立て体験と研修 (東松島市) 被災地取材を続ける新聞記者による研修 火災発生による避難訓練 防災教育体験宿泊施設キボッチャに宿泊</p> <p>7月23日(火) 東松島市長表敬訪問 (寄附を渡す) NPO 法人こころの森のビニールハウスでの作業 コース別研修 (地域住民との交流会・まちづくりに取り組む団体のワークショップ・新聞社訪問・語り部)</p> <p>7月24日(水) 巨理町立荒浜中学校との交流会</p>
<p>得られた成果</p>	<p>参加者が多く、試行錯誤して企画をしたが、全体的に満足度の高い研修になった。多い生徒では5回連続で参加し、卒業してからも続けて宮城を訪れる生徒もいる。多感な中高生が参加したくなるプログラム作りの経験をさらに一歩深めることができた。天候になかなか恵まれず、屋外の活動で苦労した場面もあったが、生徒たちは前向きに活動に取り組み、それぞれが防災意識を高めていた。</p>



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>○多様な関心・ニーズに応える工夫</p> <p>参加者が多い分、研修に期待するものもそれぞれであることから、活動への関心が高まるように、各コースにネーミングをつけた。</p> <p>ボランティアコース</p> <p>…カリタスジャパン石巻ベースでの地域住民との交流会</p> <p>新聞発信コース&復興支援ビジネスコース</p> <p>…石巻日日新聞が運営する石巻ニューゼの見学と震災講話 手作りパン工房パオの訪問</p> <p>まちあるき未来コース</p> <p>…公益社団法人 3.11 みらいサポートいしのみきの震災学習プログラム（語り部と歩く 3.11）を利用</p> <p>復興まちづくりコース</p> <p>…ISHINOMAKI 2.0 での研修 こどもセンターらいつでのまちづくりワークショップ</p> <p>○アンテナを張った情報収集が企画のカギ</p> <p>本校では、旅行代理店に頼らずに企画しているため、常に情報収集をしている。常にアンテナを張って情報収集をし、ニュースやインターネットなどで気になる情報を見つけたら、すぐに連絡してみるという行動力が、企画に結びつく。</p> <p>○「学習」と「活動」のバランスの苦労</p> <p>「目に見えて満足感の得られるボランティア活動をしたい」というニーズが生徒の中にあるが、実際は短期間で生徒の出来ることは限られている。生徒の思いを大切にしながらも、現実も伝えるようにしている。数日の活動の中で一喜一憂するのではなく、何が出来るか考える第一歩にするように指導している。一方で、活動先のニーズに応じながら、生徒が地域に貢献できる活動の機会も常に探している。</p> <p>○失敗こそチャンス視点転換</p> <p>生徒が張り切って活動しようとしても、失敗したり、思うようにいか</p>	



	<p>ないこともある。「うまくいかなかった時」に教員はすかさず「良かったね！」と声かけをして、生徒の視点の転換を図るようにしている。生徒が失敗をバネに大きく成長する姿を見ることも、教員の活動継続のモチベーションになる。また、「過去の先輩の失敗」を予め公にすることで、生徒に望ましい活動態度について考えてもらっている。</p> <p>○活動の意義の模索</p> <p>「なぜ、東京の女子中高生を被災地に連れて行くのか」、自問自答しながら企画を続ける中で、前述したような「達成目標」が見えた。以前、教員は「どのくらい生徒を被災地の役に立たせられるか」を意識しがちであった。発想を転換し、「いつか被災する可能性のある生徒が学ぶ機会」「生徒が自分がこれから何をすべきか、何ができるかを考える第一歩になる活動」と位置づけたところ、腑に落ちるものがあり、企画しやすくなった。単に「研修」として受け身にならないように「ボランティア研修」という名称にしているのも工夫の一つである。</p>
--	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター
関係者の説明	宮城県へのボランティアツアーの円滑な実施や震災の経験についての学習・研修を目的として宮城県を訪れる観光の支援を行っていくことを目的に、宮城県が設置しているセンター。学校の旅行目的に合わせて、様々な情報提供やご提案、サポートをさせていただきます。実践担当者が、年に2回の研修実施に難しさを感じていた一昨年、「東北教育旅行セミナー」で知り合い、サポートを受けて無事に研修が続けられています。
関係者の連絡先	https://www.pref.miyagi.jp/site/kankou/shien-center.html
関係者の名前・団体名	「東北教育旅行セミナー」主催：(一社)東北観光推進機構
関係者の説明	学校と旅行会社を対象としたセミナーで、東京では例年、7月下旬に開催されています。「“こころ”と“いのち”の教育旅行・東北まなび旅」をキャッチフレーズに、事例発表や学習メニューの情報などを豊富に仕入れることができ、非常に有益です。



記入日	2019年12月28日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	29(被災地等, 校外での防災学習)
タイトル	防災「支援」教育—東松島市に寄付を届けよう (東松島市長表敬訪問・寄付贈呈式)
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)
実践にかかった金額	ほぼ0円(寄付金は別)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年7月23日9時00分~10時00分
実践の所要時間	60分
実践の運営側で動いた人の人数	9人: 教員(5)・東松島市役所職員(4)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県東松島市
実践を行った具体的な場所	東松島市役所 会議室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>生徒が自らの活動(学園祭の収益や募金活動)で得た寄付金を, 繋がりのある自治体や団体に直接お届けすることで, 達成感を得ると共に, 被災した地域への意識や関心の持続を図る機会とする。また, お預かりした寄付金を届ける役割を担うことで, 責任感を持たせる。場合によっては, 目的を定めた寄付をすることで, 寄付の使い道にも関心を持つ。「支援教育」の一環として, 本プランを位置づける。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>日本では, 寄付文化がまだまだ根づいていないと言われるが, ミッション校である本校では, 募金や物の支援をする文化が根付いている。その一方で, 「良いこと」であるという認識があっても, どこに送るか, 実際にどのように役立てられているのかといったところまで生徒は意識していないこともある。</p>
------	--



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	<p>(1) 本プランの内容</p> <p>毎年、被災した地域への支援を学園祭の意向マンホールトイレの活動で繋がりができた東松島市に、本校の学園祭の収益（昨年度のもの）をお届けした。</p> <p>(2) 贈呈式のプログラム</p> <p>東松島市側で贈呈式を企画していただき、生徒にとっては貴重な社会勉強の機会となった。</p> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒代表による挨拶 2. 寄付金贈呈…2018 年度学園祭収益の一部を マンホールトイレの整備のために寄付 3. 東松島市 市長・教育長挨拶 4. 記念撮影 5. 閉会 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>・今年度の学園祭実行委員の生徒から寄付をお渡しした。</p> <p>・渥美市長からは、東松島市の復興の現状や取り組みについて、お話をお伺いした。</p>	



記入日	2019年1月16日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	30(校外・被災地での防災学習④)
タイトル	わくわくしながら, 防災研究の最先端に触れよう! (防災科学技術研究所での中1 防災社会科見学)
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)
実践にかかった金額	30万円未満(主に交通費(バス借り上げ・高速代))
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月16日10時00分~15時00分
実践の所要時間	5時間
実践の運営側で動いた人の人数	23人: 防災科学技術研究所(15)・教員(9)
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	防災科学技術研究所
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	生徒の発表を聞いてくださる専門家(防災科研), 授業・ワークショップ用教材(プリント・パワーポイント, 映像資料), 文具(模造紙・付箋・プロッキー・コピー用紙), ・見学地までの交通手段(大型バス2台借り上げ)

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>入学後, 初めて防災の授業を受ける中1が, 防災に関するアイデア・提案を自ら考え, 社会科見学で専門家の前で発表する。防災に対する生徒自身の抵抗感を無くすこと, 及びコミュニケーション能力の向上を目指す。限られた授業時間数で実践を行い, 効果を上げる。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>昨年度に続き, 防災教育チャレンジプランの実践校として, 防災科学技術研究所にご協力いただいた。元々実施していた社会科見学に「防災の視点」を入れるようになった。防災社会科見学は, 中1の生徒が受ける最初の防災授業であり, 以下のような目標を立てて, 防災教育の初期の段階で, 生徒の意識の転換を目指している。</p>
------	---



	<p>①防災は「大人から教えてもらうもの」「誰かにやってもらうもの」ではなく、「自分で考えるもの」「私自身が行動するもの」と捉える。</p> <p>②生徒が持つ防災に対するマイナスのイメージや抵抗感を取り払う。</p> <p>③様々な視点を取り上げることで、「1つの答えを覚える」ではなく、「多様な防災選択肢を持つことが大切」という認識を持つ。</p> <p>④自らの考えを発信する面白さを経験し、学びの意義を見出す。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>打ち合わせ</p> <p>第1回打ち合わせ（7月30日）@防災科研東京会議室</p> <p>第2回打ち合わせ（11月16日）@目黒星美学園中学高等学校</p>	
	<p>防災社会科見学当日 午前中は施設見学（2チームに分かれて見学）</p> <p>①防災科研紹介 DVD 視聴</p> <p>▼②地震ザブトン</p>  <p>代表者が体験した。見ている生徒も様々な揺れの恐ろしさを実感できた様子だった。</p> <p>▼③大型耐震実験施設・④大型降雨実験施設の見学</p>  <p>迫力ある施設に、圧倒されていた。</p>	



▼⑤Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室



楽しみながら多くのことを学んだ。自然災害と、理科への関心と理解が高まった。

昼食（自然災害情報室で「防災キャンプ」の実物展示を自由見学）

午後は、プレゼンテーションとワークショップ

⑥生徒からのプレゼンテーションと防災ワークショップ



前半の生徒からの防災プレゼンテーション【実践番号 05】は、代表の6チームの生徒が発表した。後半のワークショップは生徒全員が、グループに分かれ、防災科研の研究者・専門員の方がそれぞれのグループに入って下さった。40分と時間が短かったため、慌ただしくなったが、全員に発言のチャンスがあったので、良い経験となった。



防災ワークショップについて

今年度、本校のアドバイザーを担当して下さった三浦先生からいただいたアドバイスや情報を基に、教員が、生徒が話やすい（慣れている）ミッションの形にして、パワーポイントを作成した。特に、「避難」について生徒が考え、理解する機会とすることを目指した。

❶「まさ家！族」を動かそう ※災害への危機感が薄いことを、生徒に分かりやすく「まさ家^か！族」とネーミングした。

▼ワークショップ用のパワーポイント

<p>「まさ家！族」を動かそう！</p> <p>次のような3人の人がいます。 まずは、発言に注目してください。</p>	<p>てきとうおにいさん</p>  <p>え〜？ 大雨？ 大丈夫だって。今まで何とかなったじゃん。ニュースで騒いでるだけでしょ。うちの辺りは平気平気。まさか自分が被害にあうなんて、ありえないねー。</p>
<p>いらいらおねえさん</p>  <p>もしどこかに避難しても、何もなかったら大げさだし恥ずかしいじゃない。みんなが行ったら私も行くからそれでいいでしょ。わざわざ自分から行くなんて時間の無駄よ。</p>	<p>あきらめおじいさん</p>  <p>ワシはもう年寄りだし、体を動かすのも大変じゃ。避難所に行っても迷惑だし、家の周りには川もある。どうせ助からないから家におることにするよ。放っておいておくれ。</p>
<p>「まさ家！族」を動かそう！</p> <p>どうでしょうか？</p> <p>どうすればこのような人たちが、</p> <p>①あらかじめ住んでいる場所の危険性を自分で確認し、 ②災害時に安全を確保してくれるようになるでしょうか。</p>	<p>「まさ家！族」を動かそう！ 話し合いスタート！ (10分)</p> <p>① 今まで何とかなった。まさか自分が被害にあうなんて。</p> <p>② 大げさだし恥ずかしい。みんなが行ったら私も行く。</p> <p>③ 行っても迷惑。どうせ助からない。</p> <p>① あらかじめ住んでいる場所の危険性を自分で確認し、 ② 災害時に安全を確保してくれるようになるか。</p> <p>プラス「全員が避難所に行く」のも困ります。 以上を踏まえて、楽しいアイデア・素敵なアイデアを！</p>

▲付箋にどんどんアイデアを書いて、模造紙に貼っていった。

❷未来の防災を考えよう「当然、全員安全確保！」

▼模造紙にペンで一人ずつ宣言を書き込んでいった。



<p>未来の防災を考えよう！</p> <p>皆が次のように考えて行動する社会が理想です。 まずは、発言に注目してください。</p>	<p>誰でもしっかりぼうさい</p>  <p>防災？当然やっています！ 自分のために備えるのは当たり前だね！ 誰もが「未来の被災者」になる可能性があるからね！ 備えあればうれいなし！</p>						
<p>誰もが早めに安全確保</p>  <p>猛烈な台風が近づいているから、今回も私は早めに親戚の家に避難しよう。 前回は何事もなく良かったけど、こういう時は必ず避難だよ。</p>	<p>未来の防災を考えよう！</p> <p>こんな未来を実現するには？</p> <p>①こんな社会を実現するために、できることを考えよう。 ②「誰かがやること」でなく「私にできること」を考えよう！ ③小さなこと、身近なアイデアでOK。</p>						
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最先端の研究に触れると共に、生徒は自分で考えて発信する経験もあり、充実した社会科見学になった。防災科研の方が生徒たちの活動に温かくご協力くださったことで、生徒たちの防災に対する主体性と意識が高まった。知識と理解を深めることもできた。 昨年度、防災社会科見学を経験した生徒から、台風 19 号の後に「防災の活動に取り組みたい」と申し出があった。時間が経ってから経験や学びが生きてくることがあると改めて分かった。 						
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>大いに</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>かなり</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力・人間性</td> <td>大いに</td> </tr> </table>	知識・技能	大いに	思考力・判断力・表現力	かなり	学びに向かう力・人間性	大いに
知識・技能	大いに						
思考力・判断力・表現力	かなり						
学びに向かう力・人間性	大いに						
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「新たに水害学習を含む授業づくり」「今年度ならではのミッション」「プレゼンテーション指導」「当日ワークショップ案」と新規に考える企画が多く、教員の準備時間が足りなくなり、特に直前は慌ただしく準備することになってしまった。企画のノウハウの活用と、教員間の状況共有・協力体制を早めに確立することが大事。 学校外の協力者の方に、教育方針（=生徒自身の学びのために、大人が「教えよう」ではなく、「生徒のアイデアを聞きたい」という姿勢を持つこと）へのご理解とご協力をお願いします。「ご協力くださる大人」を探すことは、企画を継続する上での課題である。 						



記入日	2019年12月28日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	31(防災講演会①)
タイトル	新聞記者になって防災講演会を聴こう —生徒を主体的態度で講演会に参加させるヒント (災害対策課講演会「熊本地震支援と世田谷区の防災」)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月14日10時40分～11時30分
実践の所要時間	50分
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70名
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 4階多目的室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	被災地支援の経験を持つ行政職員・プリント・同じイベント(防災や被災地に関するもの)を取り上げた2本の新聞記事・新聞の書き方についての資料

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災地支援活動を経験した行政職員の講演を聞くことで、実際の被災直後の状況を知り、イメージを持つ。行政職員の仕事についても理解を深める。 防災講演会に参加する生徒が、より主体性を持って話を聴く態度を持てるように、工夫を行う。今年度は、「新聞記者となって記事を書く」というミッションを設定することで、講演会の学びをより良い形でアウトプットすることを目指した。 <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災講演会は、防災教育においてよく行われる手法であるが、「生徒が受け身で聞いてしまう」様子がしばしば見られることが課題であ
------	--



	<p>る。そこで、例年、行っている防災講演会の実施にあたり、今年度は新たにミッションを設定することで、課題解決を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プランは、今年度で3回目の実践。授業担当者が、2017年3月に地域の避難所運営本部の集まりに参加した際に、職員から熊本地震支援報告があった。その報告を聴き、ぜひ生徒にも聴かせたいと直接お願いしたことがきっかけで、授業にご協力いただいている。 	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>(1) 事前準備・打ち合わせ</p> <p>①(公財)東京都公園協会砧公園サービスセンター (4/23)</p> <p>②世田谷区役所危機管理室災害対策課 (4/25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、事前に、1時間程度の打ち合わせを行っている。 ・例年、生徒が受け身で聞くだけになることを防ぐために、生徒への問いかけを多めに入れることをお願いしている。 ・今年度は新たに、公民的分野の「地方自治」の学習およびキャリア教育の一環として、「行政の仕事のやりがいや魅力」についてのお話も加えることを依頼した。 <p>(2) +a 新聞記事を書こう</p> <p>①新聞の書き方講座…新聞の基本的な書き方について学習した。 ※授業づくりの参考として、以下の動画を参考にした。</p> <p>模擬授業ムービー「プロの記者が教える記事の書き方・見出しのつけ方 —NIE 入門講座 模擬出前授業」 https://nie.jp/movie/movie01.html</p> <p>②新聞の読み比べ</p> <p>同じ講演会について書かれた2本の記事を読み比べることで、講演会を取材した記事の書き方を学ぶ。</p> <p>③防災 de 一石二鳥♪</p> <p>「記事の読み比べ」には、東日本大震災の語り部をしている若者によるトークイベントについての記事を取り上げた。事例として使用する記事をできるだけ防災関連のものから選ぶようにしている。</p>	





新聞記事に対して、「事実を書き出したもの」「事務的な硬い内容」というイメージを持つ生徒もいる。このような作業を通じて、新聞記事が単に「事実を書き出したもの」ではなく、記者によって同じ話題でも違った記事になることを体感でき、メディアリテラシーの理解が深まった。

(3) 当日の流れ

30分 講演会

メモを取りながら熱心に聞く様子が見られた。



熊本地震の避難所の状況と世田谷区の災害対策について



令和元年5月14日(火)
世田谷区危機管理室災害対策課

- 1 熊本地震の被災状況、避難所の様子
- 2 熊本地震で浮かびあがった課題
- 3 世田谷区的主要災害対策
- 4 世田谷区の災害対策での課題
- 5 目黒星美学園の生徒の皆さんに

◀ 講演
スライド

育みたい
防災あたり前
感覚

育みたい「防災あたり前感覚」

☐「熊本地震の支援中に、一番嬉しかったのは、『ありがとう』と言われたことだった」という話題を入れることを毎年リクエストしている。災害対策について行政に対する期待が大きい分、実際の災害発生時は、住民からの不満が出やすい状況になることが予想される。だからこそ、平時からのこういった学びは重要であると考えます。災害に直面した時はなかなか難しさもあるかと思うが、「少しでも良い環境を作る配慮をしよう」という意識は、普段から育てておきたい。

工夫

5分 質疑応答

「質問がある人」と言っても、自主的にすぐ質問が出てくることは少ない。そこで、以下の2つの工夫をすることで、質問タイムの活性化を図っている。

- ①「ざわざわタイム」を取り、周囲の人と話し合っ、必ず3つ以上質問を考える。



	<p>② 講師の方にクラスと番号（出席番号）をランダムに挙げてもらい、該当する生徒に質問をしてもらう。</p> <p>↓</p> <p>当たった生徒からは「災害時のペット問題」についての質問が出た。多くの生徒も関心を持っている様子だった。</p> <p>⇒教員は、「質問したからこそ、分かったことですね！」と質問したことを褒めて、質問することへのポジティブな環境作りに努める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5分 砧公園職員からのコメント</p> <p>砧公園サービスセンター職員もご参加くださり、5分程度お話いただいた。防災公園である砧公園の役割についてのお話に加えて、「生徒のアイデアを楽しみにしている」ということも一言加えてくださったことで、生徒のモチベーションアップにも繋がった。</p> </div>
<p>得られた成果</p>	<p>事後課題として、講演会についての新聞記事を作成した。</p> <p>▼生徒の書いた新聞記事</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>大規模な被害をもたらした熊本地震を通じて、たくさん課題が浮かび上がった。災害が起きた場合、我々は、自助、共助、公助を心にとめて行動しなければならない。いざという時のために、日頃から準備し、意識することが重要になってくる。また、一人一人が周りの人の身の安全まで守れるように防災意識を高める必要がある。</p> <p>熊本地震で避難所に関して沢山の課題が浮かび上がった。</p> </div> <div style="width: 45%; border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p style="text-align: center;">日頃から備えるべき！ 災害に対する防災意識</p> <p>二〇一六年四月に起きた熊本地震の避難所を訪れた、世田谷区危機管理室災害対策課の職員によるお話が、五月十四日に行われた。熊本地震は、熊本地方で最大震度七を観測した、ここ最近で最も大規模な地震の一つであり、熊本地方をはじめとする様々な地域で被害をもたらした。災害対策課職員は、そんな熊本地震の、避難所での様子や、今後実施するべき災害対策の課題等を語った。</p> <p>また、避難所内で女性の視点での悩みとして着替えをする場所がないことや、トイレの少数や環境汚染による不衛生などが問題に挙げられている。これらの問題に対する解決案で、女性を優先にした部屋を作ったり、ボランティア活動として、トイレの衛生管理などが必要になってくる。</p> <p>世田谷区で、もし災害が起きた場合、誰かに助けしてもらった側ではなく、自ら行動できる主体性のある人に一人ひとりになることで、より多くの人々が救われるに違いない。我々は、常に防災に対する意識をもつて生活するべきであると、災害対策課職員は話した。</p> </div> </div>



世田谷区

未来の被災者を

私が救う

世田谷区危機管理室災害対策課に勤める職員が十四日、目黒星美学園中学校の生徒に向けて「熊本地震の避難所の状況と世田谷区の災害対策」について講演した。災害対策課職員は熊本地震で浮かび上がった課題を踏まえ、自身の感じた思いをあかした。

目黒星美学園中学校と世田谷区のコラボ授業が実現した。生徒たちが講演の内容をメモしながら真剣に聞くようすが見られ、積極的に質問をした生徒もいた。災害対策課職員は三年前に発生した熊本地震に職員として赴き、地域の住民のために熱心に活動した。避難所を訪れた際に、さまざまな課題が浮かび上がっていた。なかでも、被災した「女性」に對

しての配慮が足りなかったことについて考え、世田谷区では対策を進めている。

目黒星美学園中学校では、世田谷区と協定を交わし乳幼児や妊産婦及びその家族に対して避難所の受け入れを行うの事を平成二十六年に決定した。女子中学生ならではの視点を取り入れ、学校一体となつて過ごしやすい避難所とはなにかを考え、活動している。

三十年以内に首都直下地震が起こる確率が七十パーセントもある現在、それは今日起こるかもしれない。未来の被災者を救うための活動は、大きなことでなければいけないわけではない。災害について考えるだけでも、もしかすると自分自身を救うことになるかもしれない。一人一人が自助・共助・公助の意識をもって生活するだけでも、起こる変化は計り知れない。

・教員が期待する以上に、生徒は良い記事に仕上げていた。「感想文」の場合は、比較的似た内容の感想が集まることが多いが、「新聞記事」は、生徒がどのような話題に注目し、どのような学びを得たのかがはっきり分かるものになった。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫 工夫	・講演会は、生徒のプレゼンテーションを聞いてくださる方との「顔合わせ」の機会にもなる。プレゼンテーションの相手の顔が見えるとイメージが湧き、その後のワークショップへの生徒の参加姿勢がより良いものとなる。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	世田谷区危機管理室災害対策課 職員
関係者の説明	2016年4月に熊本地震が発生した際に、世田谷区から最初の応援として現地に派遣された経験を持つ職員の方。
関係者の連絡先	TEL 03-5432-1111（代表）



記入日	2019年1月2日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	32(防災講演会②)
タイトル	新聞記者と考える「私が伝える意味」 (第16回被災地ボランティア研修)
実践担当者のお名前	京(研修企画担当)
実践にかかった金額	非公開(個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年7月22日19時30分~20時30分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	6人:講師(新聞記者)(1)・引率教員(5)
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	38人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県東松島市
実践を行った具体的な場所	KIBOTCHA(キボツチャ)研修室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	被災地での取材経験を持つ新聞記者, その記者が書いた新聞記事



達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災発生直後から、現地での取材活動を重ねる新聞記者の方との対話を通じて、「伝える意味」を考え、生徒なりの答えを模索する機会とする。 ・「話を聴く」活動であっても、受け身ではなく、主体的に学びを深めるために、積極的に質問する姿勢を持つ。 ・新聞を読む習慣のない生徒も多い中で、新聞記者の方のお話を伺うことで、新聞そのものや記者の仕事、また新聞の果たす役割に関心を持つ機会とする。(キャリア教育) <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで16回、宮城県での被災地ボランティア研修に引率する中で、自分に何ができるのか悩む生徒の心の揺れ動きを見てきた。同
------	---



	<p>時に、教員にとっても、「東京の中高生を連れてくる意味」を考え続ける期間でもあった。</p> <p>・何度か研修を実施する中で、多くの生徒が共通で見出すキーワードが「伝える」であることに気づいた。</p> <p>◎生徒と「伝えること」</p> <p>①今の自分にできる一番のことは「伝えること」と気づく</p> <p>②自分が見聞きしたことを「伝えたい」という強い思いを持つ</p> <p>③実際には周囲になかなか「伝わらない」というもどかしさを感じる</p> <p>↓</p> <p>この点に気づいてから、被災地研修の企画にあたって、被災経験を持つ方の体験談だけではなく、日々「伝える」ことに取り組むマスコミの方からお話を聞くプログラムを積極的に取り入れるようになった。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>震災後から石巻市に取材に入り、宮城の若者を温かい視点で書いた記事や、ご遺族を丁寧に取材して寄り添った記事を書き続けている新聞記者の方をお招きし、お話を伺った。</p> <p>研修の流れ：研修内容については、事前にメールや直接の打ち合わせを通じて、相談した。</p> <p>①事前研修</p> <p>お話を聴く記者の方が出演している動画を視聴する。 →あらかじめ「質問」を考える。</p> <p>まいもく (72) 「東日本大震災8年 語り部の思い」 https://video.mainichi.jp/detail/video/6013829379001</p> <p>②研修当日</p> <p>「悲しみを伝える意味」と『私』が伝える意味の2つのテーマで、生徒と対話しながら、お話しくださった。また、ご自身が書かれた記事の紹介と共に、震災取材のきっかけや取材する時に大切にしていること、被災地取材の難しさといったことも、お話しくださった。</p>	





	<p>▶研修の様子</p> <p>参加した生徒たちは、真剣に話を聞いて、深く考えている様子だった。</p> <p>③生徒活動の取材</p> <p>荒浜中学校との交流会を取材して、記事にしてくださった。</p> <p>毎日新聞宮城版 2019/7/27 掲載</p> <p>巨理の中学生 東京の高校生と防災学習</p> <p>避難所運営で意見を交換『自分から動かないと』</p> 
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none">・研修 1 日目の夜に本研修を実施したことで、その後のプログラムにおいて、生徒たちに積極的に相手の話に耳を傾けて、質問しようとする姿勢が見られた。・「外から入って当事者の方からお話を聞いて発信する」という新聞記者という立場が、生徒が活動の中で自ら自覚していく「自分自身の役割」と合致する部分があり、生徒たちは共感しながら話を聴いていた。・講師の問いに対する参加者の答えが、人によって違っていただけから、多様な考えを知る機会となった。 <p>▼生徒の感想文より</p> <p>何度かこの研修に参加して感じたのは、私たちに話をしてくださる方達は、二度とこんな思いをしたくない、他の人がこんな思いをして欲しくない、ということ伝えたいと思っている、ということです。このことを広く伝えるためにも、話を聞いた人達はその人なりに、ご遺族や被災者の声を伝えることが重要だと思います。伝えることについて、百武さんや他の生徒の意見も聞くことができ、自分とは違う意見などもあって勉強になりました。</p> <p>そして、宮城県の魅力も研修を通してたくさん知ることができたのでまた宮城県に行きたいなと思いました。</p>



百武さんの問いかけの中で、「悲しみを伝える意味とは」というものがありました。お話を聞いた直後は、本当に悲しみを伝えていて、意味はあるのかと答えを出せずにいました。しかし翌日、お子さんを亡くされたご遺族の案内で、実際に自分の足で歩きながら、ご遺族の方のお話を聞きました。そして高台から何もかも消えてしまった街の姿を見て、本当に見ないと分からないものってあるんだ、と感じました。もし、自分があまりよく被災地の悲しみを知らずにこの景色を見ていたら、また違った、もっと薄い思いしかなかったのではと思いました。そして、悲しみを伝える意味は、伝えているからもっと知りたいと思えるし、伝え続けるから何回聞いてもその悲しみの深さを知り続けることができ、被災者の方が恐れている風化を防ぐことがあると、私は考えました。

私はあまり記者という仕事に関心がなく、どのような仕事か知りませんでした。百武さんのお話を聞いて少し分かりました。百武さんのお話の中に「悲しみを伝える意味」というテーマがありました。なぜ伝えるのか。その答えは教訓として残すためだと思います。その教訓を次につなげれば、更に新しい良い世界をつくることも可能になると思いました。また、もう一つのテーマとして「私が伝える意味」というものがありました。これについては、私が伝えることで、普段、新聞を目にしなない若者世代に伝えられたり、身近な人から聞く話の方が、相手に伝わりやすくなるかもしれません。

被災者ではない私ができること、それは身近な人に伝えることです。





	<p>今回、百武さんから聞いた話を、私は早速家族に話しました。そこで生まれた色々な話は、伝えなかったら生まれなかった会話であり、共有できなかったものなので、誰かに伝えることの大切さを改めて実感できました。そして前よりもメディアに興味を持つことができました。自分から話しかけにいくのに少し勇気がいりましたが、進路の話やメディアについて直接お話が聞けて、また一步、私の中でコミュニケーションするという目標もできたと思います。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none">・生徒が研修中に抱いた思いは、日常に戻ると薄れていくものである。それはある意味、仕方のないことなので、教員側は、生徒の伝えたいという思いを形にする機会を作ったり、何かの折に思い出す機会を作ったりする。・一方で、教員が期待していた以上に、生徒の中に学んだことや考えたことが残っているものなので、引き続き、生徒の考えを深める研修を企画していきたい。・確かに得たこと・感じたことが様々あっても、なかなかうまく表現できない様子も見られる。そういった生徒の表現力を高める工夫は、今後の課題である。	



★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	毎日新聞社 百武信幸記者
関係者の説明	東日本大震災発生直後から、石巻市に取材に入った。2015年から宮城県石巻通信部。宮城県の若者を温かい視点で捉えた毎日新聞の記事を見つけて、学校から新聞社に連絡したことがきっかけとなり、2015年から本研修に度々、ご協力いただいている。
関係者の連絡先	



記入日	2019年1月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	33(防災講演会③)
タイトル	防災の専門家をお招きして、防災について聴こう!知ろう!考えよう!(中1防災の専門家による講演会)
実践担当者のお名前	大柳(中1主任)・京(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月16日15時05分~15時45分
実践の所要時間	40分
実践の運営側で動いた人の人数	9人:学年及び社会科教員8人,防災科研研究員1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 マリアホール
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	防災科研のパンフレット,講演会資料

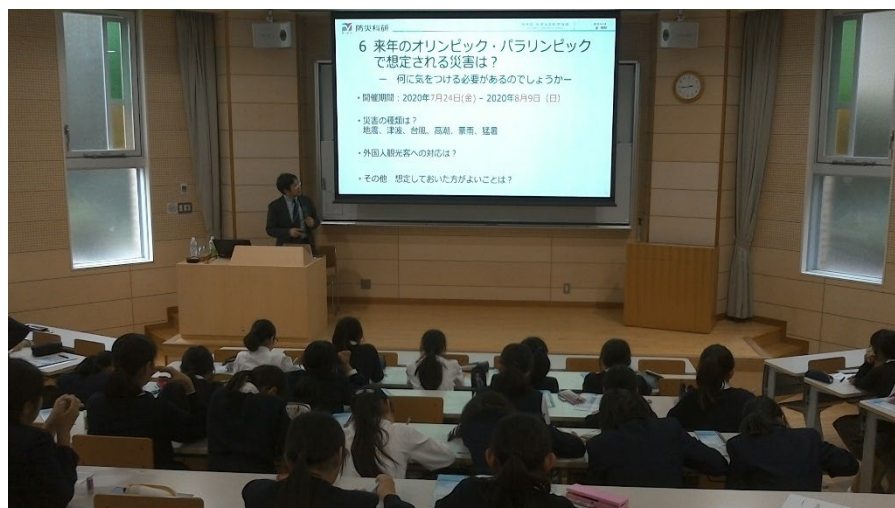
達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を始めたばかりの生徒が,1か月半後に研究者の前で防災について,自分たちのアイディア・提案をプレゼンテーションする防災社会科見学【実践番号30】の一環として,本プランを実施した。 ・講演会を取り組みの中間に挟むことで,前半の講義型の授業から,後半のワークショップ型の授業に移る中間点で,本プランを実施することで,前半は防災に対して受け身の生徒が,後半は,主体性を持って話し合う転換点とする。(次ページの図参照) <p>【背景・経緯】</p> <p>中1の生徒は,防災教育の初期段階(9月下旬)においては,防災そのものに対しても,防災学習に対してもネガティブな印象かつ受け身意識を持っている場合が多い。11月中旬に実施する防災社会科見学に</p>
------	--



	<p>向けて、短期間で視点の転換を図り、ポジティブかつ主体的な態度を持たせるために、インパクトある工夫を必要とする。</p> <p>→実践番号【00】参照</p> <p>▼本プランの取り組み全体における位置づけ</p> <table border="1"><tr><td data-bbox="488 533 639 674">授業</td><td data-bbox="639 533 1406 674"><ul style="list-style-type: none">• 中学に入って、最初の防災教育の授業を受ける• 防災に対して、受け身・ネガティブな姿勢を持つ</td></tr><tr><td data-bbox="488 703 639 844">講演会</td><td data-bbox="639 703 1406 844"><ul style="list-style-type: none">• 研究員と対面することで社会科見学に行く自覚を持つ• 社会の課題を知り、一人一人が考える必要性に気づく</td></tr><tr><td data-bbox="488 873 639 1014">ワークショップ</td><td data-bbox="639 873 1406 1014"><ul style="list-style-type: none">• 答えのない問いに、ミッションとして取り組む• 一人一人が主体性を持って、話し合う</td></tr></table>	授業	<ul style="list-style-type: none">• 中学に入って、最初の防災教育の授業を受ける• 防災に対して、受け身・ネガティブな姿勢を持つ	講演会	<ul style="list-style-type: none">• 研究員と対面することで社会科見学に行く自覚を持つ• 社会の課題を知り、一人一人が考える必要性に気づく	ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">• 答えのない問いに、ミッションとして取り組む• 一人一人が主体性を持って、話し合う
授業	<ul style="list-style-type: none">• 中学に入って、最初の防災教育の授業を受ける• 防災に対して、受け身・ネガティブな姿勢を持つ						
講演会	<ul style="list-style-type: none">• 研究員と対面することで社会科見学に行く自覚を持つ• 社会の課題を知り、一人一人が考える必要性に気づく						
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">• 答えのない問いに、ミッションとして取り組む• 一人一人が主体性を持って、話し合う						
どの力を身につけようとしたか？	<table border="1"><tr><td data-bbox="472 1099 834 1160">知識・技能</td><td data-bbox="834 1099 1444 1160">大いに</td></tr><tr><td data-bbox="472 1160 834 1220">思考力・判断力・表現力</td><td data-bbox="834 1160 1444 1220">少し</td></tr><tr><td data-bbox="472 1220 834 1279">学びに向かう力・人間性</td><td data-bbox="834 1220 1444 1279">かなり</td></tr></table>	知識・技能	大いに	思考力・判断力・表現力	少し	学びに向かう力・人間性	かなり
知識・技能	大いに						
思考力・判断力・表現力	少し						
学びに向かう力・人間性	かなり						
実践内容・方法	<p>準備・打ち合わせ</p> <p>①社会科見学を含めた打ち合わせ @防災科学技術研究所東京会議室(7/30)</p> <p>②メールでの打ち合わせ(随時)</p> <p>③当日打ち合わせ(授業前)</p> <p>↓</p> <p>特別授業当日</p> <p>「私たちの住む社会と防災を考える ～これまでの災害とこれからの防災～」</p> <p>【講演会の内容】</p> <table border="1"><tr><td data-bbox="488 1854 1422 2027"><ol style="list-style-type: none">1. 今年の災害から分かったこと2. 災害が起こる度に言われることは？3. 「さいがい」と「ぼうさい」の違いは？</td></tr></table>	<ol style="list-style-type: none">1. 今年の災害から分かったこと2. 災害が起こる度に言われることは？3. 「さいがい」と「ぼうさい」の違いは？					
<ol style="list-style-type: none">1. 今年の災害から分かったこと2. 災害が起こる度に言われることは？3. 「さいがい」と「ぼうさい」の違いは？							



- 4. 避難をしようとしなない人を説得するには？
- 5. この5年の災害の傾向は？
- 6. 来年のオリンピック・パラリンピックで想定される災害は？
- 7. 未来の防災を考えてみよう
- 8. 防災だけでない防災 備えて楽しむ



得られた成果

チャレンジ！生徒を活動の主役にするターニングポイントにする。

- ・講演会は40分と限られた時間ではあったが、内容が充実していて、学ぶことが多くあった。
- ・社会科見学で訪問する防災科研の연구원の方から、直接お話を伺いしたことで、その後の取り組みに対する生徒たちのモチベーションが飛躍的に上がった。
- ・台風15号・19号の被害状況の調査を踏まえた最新のお話を伺うことができた。被災地域の写真を見て、状況を知ることができた。
- ・三浦先生から、実際の防災の現場で課題となっている事例を生徒への問い(クイズ)の形で、提示していただいた。このことにより、生徒が、答えのない問いに対して、解決策を考えるきっかけを得ることができた。
- ・台風15号の被災地域の様子など最新の情報を知ることができた。
- ・日本だけではなく、地球温暖化を含め、地球レベルのお話があり、視野を広げることができた。
- ・「備えて楽しむ」をテーマに、防災キャンプやキャラクターを使った



	啓発活動等，防災科研のユニークな取り組みを知り，その後のワークショップのヒントになった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫としては，学校外の協力者に，本校の防災教育の方針（＝生徒自身の学びのために，「教えよう」ではなく，「生徒のアイデアを聞きたい」という姿勢を大人が持つこと）へのご理解とご協力をお願いしている。 ・今回，講演会の位置づけをワークショップに向けて，生徒が主体的参加者になるターニングポイントとし，三浦先生のご協力の下，十分に狙いが達成できた。 ・一方で，教育視点から見ると，大人の「子どもたちに教えてあげよう」という意識が強い故に，生徒の防災に対する姿勢を受け身にしてしまう防災講演会や研修会も，これまでしばしば目にしてきた。教員は防災については，詳しくないとしても，教育と受け持っている生徒の性質については詳しいはずである。防災講演会を実施する際に，教育面からのお願いや打ち合わせを，思い切ってすることは大事ではないかと考える。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	国立研究開発法人 防災科学技術研究所（NIED） 防災情報研究部門 主幹研究員 三浦 伸也先生
関係者の説明	防災情報研究部門主幹研究員であり，防災教育チャレンジプラン実行委員の先生。今年度，本校のアドバイザーとして，プラン実施のためのご助言やご協力，また防災教育に有用な様々な情報提供をしてくださった。



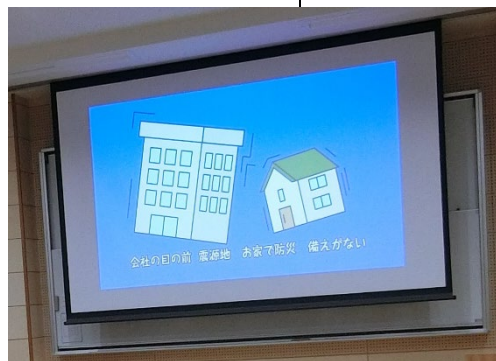
記入日	2019年1月7日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	34(防災講演会④)
タイトル	(中1 防災社会科見学 事前学習)
実践担当者のお名前	大柳(中1主任)・京(社会科)
実践にかかった金額	非公開(個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月9日11時00分~11時30分
実践の所要時間	30分
実践の運営側で動いた人の人数	10人:外部講師(2)・教員(8)
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人(中学1年生)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 マリアホール
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	防災に取り組む企業(特に生徒に身近な業務を担っていたり、ユニークな取り組みが見られる企業)

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>防災社会科見学【実践番号 30】の事前学習一環として、実施した。防災に工夫したり、楽しく取り組んだりすることで、社会に防災を浸透させる試みをしている企業の方のお話を伺うことで、生徒の視野を広げ、生徒の持つ防災のイメージをネガティブから、ポジティブへと転換を図る。防災に様々な形で関わっている人・企業の存在を知ること、生徒の社会的な視点を増やす。</p> <p>【背景・経緯】</p> <p>10月にぼうさいこくたい2019に参加したことがきっかけで、緊急地震速報のアプリ等の開発を行う「アールシーソリューション株式会社」の企業活動を知った。「ゆれくるコールのうた」をweb上で見つけ、ユニークな視点で防災に取り組む姿勢に共感した。丁度、中1の社会科見学の事前学習とキャリア教育を兼ねて、お招きする講師を検討していたこともあり、講演を依頼した。</p>
------	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	事前打ち合わせ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・メールで打ち合わせをして，講演内容を決めていった。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>講演会テーマ：「ゆれくるコール」と防災・減災ソリューションの取組</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆれくるコールのうた」の動画 ・「あめふるコール」普及に向けた工夫 ・緊急地震速報「ゆれくるコール」の普及の経緯 ・会社の技術が社会の中で役立っている事例 ・防災マンガを掲載する『ちゃぐりん』の紹介 ・生徒へのメッセージ </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・質問タイム ・生徒から『携帯トイレ』のプレゼント </div>	



◀ 「ゆれくるコールのうた」から講演会スタート

ユニークなラップ調の歌に，生徒たちは楽しそうに聞き入っていた。歌やマンガを使って，防災に楽しく取り組む思いや工夫についてお話しくださった。

⇒ 《**学びの効果**》 実際の社会の最前線で，思いを持って防災に取り組む方との出会いを通じて，「防災に取り組むことへの前向きな印象づけ」ができたと思う。



◀ 「あめふるコール」の技術と普及のための工夫

アプリの技術と仕組みに加えて，多くの人に使うための工夫やコツについてお話しくださった。

⇒ 《**学びの効果**》 役立つアプリ開発だけではなく，普及するための工夫も必要である点は，生徒たちが取り組んだ「防災イメージアップ大作戦」に共通するところがあり，興味深そうに聞いていた。



◀ 「ゆれくるコール」の説明と、普及の経緯

東日本大震災のあとに、役立つアプリとして、口コミで急速に広まった経緯をお話くださった。減災という言葉がまだまだ一般的ではなかったころから、開発に乗り出していたお話は、「社会の課題を見つけて解決策を考える力」が求められる現在の教育とも結びつくお話だった。

⇒ 《**学びの効果**》いち早く社会の必要性を見つけて行動することの大切さを学ぶと同時に、社会の変化の中で思わぬ形で発展・普及することがあることを学んだ。生徒は、防災社会科見学に向けて、「防災をどのように広めていくか」について考えるワークショップを経験していたので、その経験に繋がるお話だった。

◀ 生徒へのメッセージ

最後のまとめに、生徒たちが普段からできることのヒントをくださった。災害時に声かけできる関係をつくるために、普段のあいさつを大事にすることなど、身近で実行できることを挙げてくださったことで、生徒からは「やってみようと思った」といった感想が上がった。



◀ 生徒からのプレゼント

生徒が、その日作成した携帯トイレを記念にお渡した。「直接お渡しして喜んでいただく」という場面を作ることで、生徒たち自身の中で、携帯トイレの活動に対するイメージアップに繋がる効果がある。

得られた成果

明るく楽しい雰囲気でも、講演会が行われ、生徒も教員も学ぶことの多い講演会となった。

◎ 生徒が自らの取り組みを再評価するきっかけに

講演会は、生徒に自らの取り組み（ミッション）の意義を理解させる効果があった。つまり、生徒は自分たちが考えてきた「どうすれば防災のイメージアップを図れるか」という課題（ミッション）に対して、企業活動を通じて同じ課題に取り組んでいる方の講演を直接聴く、という貴重な経験を通じて、自らの取り組みにも社会的意義があると意識できた。



	<p>◎ 生徒の思考が深まる</p> <p>防災を広めるにあたって成功事例ばかりでなく、苦労していることや工夫して課題を克服したといったお話もしてくださり、生徒は考えたり、試行錯誤したりするプロセスの重要性についても、学ぶことができた。また、「企業活動を通じて、社会に貢献する」という公民的視点を得ることもできた。</p> <p>【実施報告】</p> <p>① 目黒星美学園中学高等学校 HP (2019/11/27) http://www.meguroseibi.ed.jp/tabid/72/Default.aspx?itemid=2111&dispmid=390</p> <p>② (株) アールシーソリューション facebook (2019/11/11) https://ja-jp.facebook.com/RCSolutionCo</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">工夫</div>	<p>◎ 講演時間を 30 分に設定</p> <p>他の行事の後であったこともあり、生徒の集中力を考慮して、「30分」という時間設定にした。講演会にしては短い印象かもしれないが、長い時間をとって、生徒の興味が薄れるよりも、30分で集中して濃いお話を聴くのも効果的であると感じた。ただし、講演者の理解と協力が必要になる。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	アールシーソリューション株式会社 代表取締役社長 栗山 章 氏
関係者の説明	「防災・減災ソリューションで人と社会の安心・安全に貢献する。」を経営理念とする会社。「減災」という言葉が一般的ではなかった頃から、開発のキーワードに取り上げて、IT を活用して様々なサービスをリリースしてきた。
関係者の連絡先	HP: https://www.rcsc.co.jp/



記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	35(災害時のトイレ問題①)
タイトル	子どもたちをあっという間に主役にする ツールとしての「魔法の携帯トイレ」活用術 (中1の学年活動における「携帯トイレ」作成事例)
実践担当者のお名前	大柳(中1主任)・京(防災係)
実践にかかった金額	30~50円(1個当たりの材料費)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年11月9日10時30分~10時50分
実践の所要時間	20分(携帯トイレ1個の作成時間は5分程度)
実践の運営側で動いた人の人数	13人:教員(7)・生徒(6)=クラス委員
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約70人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各クラス教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	携帯トイレの材料(説明書・吸水ポリマーシート・黒い20Lポリ袋・臭断袋・結束バンド・透明封筒(OPP袋))

達成目標	<p>※最初の防災教育で何を取り上げるか、第一印象は重要である。本校の生徒が主体的に行動するようになる上で、効果的であったことから、1つのアイデアとして「携帯トイレ」を挙げる。本項目では、「魔法の携帯トイレの普及活動」の概要について述べ、「実践報告・内容」では、の具体的事例として、中1の学年活動を報告する。</p> <p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が考案した「魔法の携帯トイレづくり」を通じて、生徒が「災害時のトイレ問題」に関心を持つと共に、防災活動に対しての主体的な態度を養う。 ・「魔法の携帯トイレ」の作り方をマスターし、次は校内外で作り方を教えられるスキルを身につける。
------	---

**【背景・経緯】****○防災教育の入り口としての効果**

2012年に交流している宮城県の中学校の被災した旧校舎で、3.11当日の体験談を聞いた。「避難者が多くいた校舎では、深刻なトイレ問題が発生し、卒業式のために飾ったペーパーフラワーをトイレトーパー代わりに使った」という体験談を聞いたことがきっかけとなり、本校で防災活動を始めの際に、最初に着目したのが「災害時のトイレ問題」であった。

○どうやって年頃の女子中高生（＝未来の災害弱者の可能性）に、災害時のトイレ問題に向き合わせるか

トイレを心配して水分や食事を控えてエコノミークラス症候群にかかるのは女性の割合が高いという点を、女子校である本校にとって、生徒が当事者になり得ることから重要視した。実際、備蓄品として携帯トイレを揃えたものの、「生徒は抵抗感を持って、使いたがらないのではないか」と心配になった。ハード面だけではなく、ソフト面（災害時に水分を控えることは危険であること、深刻なトイレ問題が発生することを知っていること）

○生徒の「防災減災想像力」を刺激する

防災教育において、災害について想像させることが重要であることが指摘されている。しかし、実際の現場では、災害が起きた時のことをイメージ





させようとしても、生徒自身が恐怖心を持ち、なかなか想像を広げようとしないうちに見られる。

そこで、最初は、生き残った後のことである「トイレ問題」を取り上げることで、災害について想像する心理的ハードルを下げる。「これまでの災害で、水分を控えて体調を崩す人が多くいた」という課題の解決策を考えることで、「防災は答えを教わって覚えるのではなく、想像して皆で考えるもの」という「防災あたり前感覚」を持たせる。

生き残った後のことを積極的に考えさせることで、「どうせ災害が起きたら助からない」という思考を持つ余地を無くし、長期的視野で考える土台をつくる効果もある。



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	準備 ほとんどの生徒が初めて作成するので、教員だけでは、混乱する可能性があった。前日に、クラス委員を集めて、作成方法を説明した。 教員 「皆さんは教える側に回って、指導してください。クラスをよろしくをお願いします！」 ⇒ 作成方法を簡単に覚えられて、すぐに生徒が「防災活動の指導側（即席リーダー）」になれるのが、本活動のメリット。	
	当日 教員から作成方法の説明・材料の配布 ↓ 近くの人とグループを作り、助け合いながら作成する 教員とクラス委員は、適宜、指導やサポートに回る。	
		
<p>黒いビニール袋は、しっかり空気を抜いてから、折りたたむことが、うまく作るコツだが、空気が残ることも多い。そこで、今回は、作業を丁寧にする「合言葉」を考えた。小さな工夫だが、生徒のアイデアを拾いながら、改善を重ねている。</p>		
<p>「誰かのために」「役立つように」（合言葉）と言いながら、空気を抜くのがコツです！</p> 		



<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人2個ずつ作成した。1個は自分のバックに入れて、1個はイベント等で配るために学校のストックとした。今回作成したものは、社会科見学でお世話になった方たちにもお渡しした。 ・ 生徒全員が作り方をマスターしたので、次から教える側に回ることができる体制ができた。 ・ 「携帯トイレ」というツールがあることで、中高生が教えたり、発表したりするチャンスを得ることができる。 <div data-bbox="970 450 1422 808" style="text-align: right;"> </div>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が一人で教えようとするとうろたうことになるので、即席のリーダーを育てることが ・ 中1から「防災はみんなでやること」という体験をすることで、それを「防災あたり前感覚」にしていく。 ・ 「優先すべきは、災害発生時に命を守る学習であり、災害時のトイレ問題は二の次」というご意見をしばしばいただくことがあるが、前述した通り、災害発生時のことに向き合わせるための前段階のステップとしても、非常に有用である。 	

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>防災教育をこれから始めようと思っている先生</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>もし「何から始めたらいいかわからない」というときに、「災害時のトイレ問題」はお薦めです！</p> <p>自分たちのアイデアが誰かの命を救うことにつながるかもしれない、と生徒が自覚した時、生徒の防災減災想像力が、動き始めます。また、見落とされがちな問題である分、地域でも活躍のチャンスが多くあります。</p>



記入日	2019年12月28日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	36(災害時のトイレ問題②)
タイトル	マンホールトイレ大作戦 in 宮城県東松島市 vol.3 (第16回被災地ボランティア研修)
実践担当者のお名前	京(研修企画担当)
実践にかかった金額	1000円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	(1) 2019年7月22日15時00分～16時00分 (2) 2019年7月22日16時30分～17時30分
実践の所要時間	(1) 1時間 (2) 1時間
実践の運営側で動いた人の人数	8人: 東松島市職員(4)・引率教員(4)
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	38人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	①野蒜市民センター前のマンホールトイレ設置場所 ②KIBOTCHA(キボッチャ)研修室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	人材: マンホールトイレの啓発活動を担当する市役所職員 物品: マンホールトイレおよび備品, ポンプ, 軍手

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>生徒が、自らのアイデアが具現化したマンホールトイレの組み立てを経験することを通して、以下のことを目指した。</p> <p>①生徒自身の災害時のトイレへの抵抗感を無くす。</p> <p>②マンホールトイレ組み立ての技能を身につける。</p> <p>③授業で出したアイデアが、実際に社会の中で役立つ経験をすることで、学びの意義を見出す。</p> <p>④マンホールトイレ活用の先進的事例を学び、地域のマンホールトイレと比較したり、普及方法について考えたりすることで、自らの住む地域への還元を目指す。</p>
------	--



【背景・経緯】

2015年に国土交通省からの依頼で、「マンホールトイレの理想的な環境」について女子校生視点で提案を行った。

※成果は、国土交通省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」に事例として掲載（2015年度版 p.49, 2018年度版 p.50）



※写真は、本校の廊下に設置した生徒のアイデアを具現化したマンホールトイレ（2015年撮影）

⇒宮城県東松島市は、東日本大震災発生時に実際にマンホールトイレを活用した。震災の経験を踏まえて、マンホールトイレ環境の改善を目指す中で、生徒が出したアイデアを参考にしてくださった。このご縁で、昨年からの被災地ボランティア研修の一環で、東松島市を訪れ、マンホールトイレの組み立て訓練や、より良い環境作りについて考えるワークショップなどを行っている。今回で3回目。

どの力を身につけようとしてきましたか？

知識・技能	大いに
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1) マンホールトイレ組み立て体験

(組み立て～片付けで約1時間)

- ・6基のマンホールトイレとポンプを組み立てた。
(4基が女性用・グリーン, 2基が男性用・ブルー)
- ・市役所職員の指示を受けながら、倉庫からの運搬, マンホールトイレの上屋の組み立てと備品の設置, ポンプの組み立て, 片付けまで, 一連の流れを経験した。

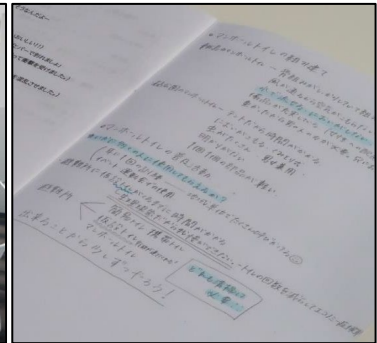




(2) マンホールトイレワークショップ (WS)

WS テーマ：マンホールトイレの普及のために必要なことを考えよう

マンホールトイレは、災害時に有効だと知られているが、まだまだ知られていなかったり、普及が進んでいない地域も多い。そこで、多様な視点から、普及するためのアイデアをグループごとに考えた。



得られた成果

- ・ 事前研修でもマンホールトイレの組み立てを経験していたこともあり、最初からテキパキ作業を行っていた。倉庫からの運び出しから片づけまで一連の流れを経験することで、技能が身についた。
- ・ 生徒は、自分たちのアイデアが具現化して役立っていることを目の当たりにし、達成感を感じていた。「冷たい印象のブルーではない色が良い」「流水音発生装置や防犯ブザーの設置が必要」「自動でつくライトがあると衛生的で安心」といった意見が実現されているのを、実際に見ることで、女性視点・女性に配慮した防災対策への関心がより高まった。
- ・ 自分たちで考えた防災のアイデアを、次のステップとして、どのように地域に広めるかをワークショップで考えたことで、より「自分に何ができるか」という視点を得ることができた。



▼生徒の感想文より

日頃から学校で災害時のトイレ問題について触れていますが、学校では携帯トイレについて考えることが多く、マンホールトイレの問題は少し新鮮でした。東松島市で組み立てたトイレは「行こう」と思えるトイレでした。しかし、実際に災害時に使用したらどうなるのか、誰が掃除するのか、掃除道具はどこにあるのかなど問題はまだまだあると思います。その問題を解決するためにも、まずはこの問題を多くの人に知ってもらい、どうすればよいのか一人一人考えることが大切だと思いました。

この研修のマンホールトイレの組み立てで、工夫をすればするほど、良いものになることを知ったので、少しでも多くの工夫を、まずは近くから広めて行ければと思います。

東松島市は、私たちが考えたマンホールトイレのアイデアを採用してくださった場所です。中学生の頃に皆が安全に安心して利用できるものと提案したので、今回訪問できて、とても嬉しかったです。私たちの提案した音姫やライト、防犯ブザーなどが準備されていて自分たちの考えたことが実現し、誰かの役に立つという喜びを感じました。

マンホールトイレなど、言葉自体を知っていても、それだけでは役に立たないと分かりました。知識を役立つものとするために、実際に行動してみることの大切さを痛感しました。今回の訪問がいつか来る地震に備えて、どのように被害を減らしていくか、災害が起こってしまったら、どのように行動するかを具体的に考えるきっかけとなりました。私たち目黒星美学園の生徒はとても防災意識が高く、災害時に何をすべきかを考えることができます。授業で避難所や災害時の問題について考え、触れる機会が多いです。これが他の学校でも当たり前になれば、災害に強い国につながると考えます。

だからこそ、私たちに今何ができて、災害時に何ができるかを考えていきたいと思っています。





どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練では、「大人の男性がトイレを組み立てるのを、子どもたちは見ている」というケースが多いように思うが、経験やサポート、指示があれば、女子生徒でも無理なく出来る。「自分で組み立てる経験」というのは、災害時のトイレへの抵抗感を下げ、主体的な防災意識を持つことに繋がるのが改めて分かった。 ・災害時のトイレ問題の解決には、「ハード＝トイレそのもの」の整備も重要であるが、特に女性の場合は「ソフト＝トイレに行くことの重要性の認識と行く勇気」を育てることも重要である。この点からも本プランの取り組みは、その両面をバランス良く学べるものだと思う。 ・昨年度から継続の課題であるが、本校で、マンホールトイレを組み立てたのは、過去1回だけなので、定期的な組み立て体験が必要。再度、学校での取り組みも深めていきたい。本校では、災害時のトイレの「実際の使用体験」まではできていないのが現状である。東松島市ではお祭りなどのイベントの際に、設置して住民に体験してもらう取り組みを進めているので、参考にしたい。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	東松島市役所 小田島 毅 氏
関係者の説明	東日本大震災でマンホールトイレの運用を担当した。現在は、東松島市の危機対策専門員を務め、マンホールトイレの啓発・普及活動のため、各地で講演や指導を行っている。
関係者の連絡先	東松島市役所：0225-82-1111（代表）



記入日	2019年1月16日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	37(訓練①)
タイトル	リニューアル防災訓練! vol.2 パターン分けでマンネリ化を打破&生徒を真面目に参加させるコツ (全校防災・避難訓練における工夫)
実践担当者のお名前	安達・浅見(生徒教育部防災係)
実践にかかった金額	1000円未満(プリント印刷・訓練用CD)
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年6月18日14時30分~16時30分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	15人:教員(6)・生徒(6)・消防署員(3)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員
防災教育の対象者の人数	約500人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各授業場所・調理室前・体育館・スクールバス(校庭に待機)
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	消防署署員, 緊急地震速報(訓練用), 病人・けが人カード, 校舎見回りカード, ダンボール(炎作り), マジック, スクールバス, スクールバス訓練用CD, 消火器(消防署からの貸し出し)

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <p>昨年リニューアルした訓練の第2弾。どう行動すべきか、なぜ避難するのかを生徒も教職員も「考える訓練」にすることが目標。従来の訓練は、「合図があったら机の下にもぐってから避難」のパターン通り動くだけで、「考える」のが少ないのが課題であった。「考える作業の無いパターン化」が、実際に地震が発生した際、揺れている最中に机を探してウロウロする、慌てて飛び出すといった行動に繋がるのではないかと考えた。また学校の防災訓練の在り方が、避難の必要性の有無を考えずに「地震が起きたら避難所へ行く」という刷り込みにも繋がると考えた。</p>
------	---



	【背景・経緯】 ・従来の「地震の発生→放送で生徒は机の下にもぐる→放送で避難指示→校庭へ」というよくあるパターンの訓練の有効性に疑問を感じたことから、昨年度より避難訓練ではなく、「防災訓練」という名称に変更して、内容も刷新した。従来の訓練では受け身の参加姿勢が目立ち、また単に指示されたとおり避難するだけなので「災害が起きたら避難所へ行けばよい」という安易な刷り込みにも繋がっていると考えた。 ・教員向けの防災研修会等で、「生徒が防災訓練に真面目に参加しない」という悩みを聞くことがしばしばある。多くの現場が抱えるこの悩みのヒントになる取り組みを目指した。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	(1) 事前準備 ①消防との打ち合わせ ：昨年は、直接消防署を訪れて打ち合わせを行ったが、今年度は時間が無く、電話のみでになった。 ②全校朝礼で心構えを話す (6/17) ▽生徒を真面目に参加させる話のポイント・工夫 ① 開口一番、「いよいよこの日がやって来ました！」と明るく宣言。真剣に取り組まない場合は、容赦なくやり直すことも笑顔で告げる。⇒「特別な日が来た」(少なくとも先生はとても張り切っている)という意識と「やり直しは本気だ」という危機感を持たせる。 ② 本来は、いつでもどこにいるときに災害に遭うか分からないので、その場で取るべき行動を一人一人が自分で「考える」ように話す。 ⇒教員と生徒間で、「先生は皆さんを助けま…」「せん！」のやり取りを行う。(=本校で生徒の自助意識を高めるために、敢えて行っている生徒―教員間のお馴染みのやり取り) ③ 今年度から、防災に対してポジティブ・希望を持たせるため、逆転の視点から、「災害で亡くなる人よりも助かる人の方が多い」「備えれば、助かる確率が高まる・被害が減らせる」ということを強調するようにした。	



(2) 訓練当日 (6/17)

- ・調理室前に段ボール炎を設置する (防災係以外には場所を伏せる)
- ・「けが人」「病人」と症状を書いた用紙を担当の生徒に渡しておく

① 消防職員による講話・おんぶ紐の使い方確認 (14:30~14:45)

② 地震発生時の訓練及び避難訓練 (14:55~15:50・・・②~⑧)


パターン1：軽度な地震が発生

緊急地震速報の 30 秒後に地震が来る設定→ (30 秒の間に飛んできそうな物があれば、無理のない範囲で床に降ろす) →各自で身を守る姿勢を取る (放送は無し) →授業再開の放送

パターン2：強い揺れが発生 ▽**揺れの音も入った CD を作成**

- (1)緊急地震速報が鳴る→各自で身を守る姿勢を取る (放送は無し)
- (2)教員による見回りと報告 (職員室にいる教員で「役割カード」を基に役割分担し、見落としがないようにする)
- (3)各教室では「けが人」「病人」などが発生→担当の生徒・教員は「けが人」「病人」の演技をする。周囲の生徒が教員に報告する。

!!! 一旦、地震発生時の訓練終了の放送を入れて切り替え!!!

 **放送**：これで地震発生時の訓練を終了します。

続いて、火災や不審者侵入による避難訓練に移ります。

晴天でも雨天でも「体育館に避難」とする。「どこにいても、一人一人が考えて、真剣に避難できるようにする訓練」と位置付けて、割り切った。また、校庭が地割れ等で避難できないケースも考えられる。生徒には「あくまでも『避難する』訓練。体育館は天井が落ちるかもしれないし、入り口も少ないので、実際は避難先としてふさわしくない可能性がある」ということも強く伝える。

パターン3：火災が発生 (今回は、化学室)

- ・教職員は、消火器を持ち、火災現場へ行き、消火活動を行う。
- ・火災発生と避難指示の放送を入れる。
- ・防災係の生徒が、避難する生徒の取り組みの様子をチェックする。

③ 避難状況報告 (防災係生徒・教員) →チェックポイントに立った防災係の生徒から、避難の様子を報告を受け、全校にフィードバックする。

④ 振り返り・講評 (防災係教員・消防署職員)



	<p>⑤消火器訓練／⑥スクールバス訓練（個別訓練） スクールバスに乗車しているときに災害が起きた場合の行動を確認した。（名簿チェック、バス備蓄品の確認、非常口の開け方の説明等）</p> <p>⑦体育館での地震発生時の行動確認→退場 退場時に、天井の一部や、落下物に見立てた段ボールを設置し、お互いに「気を付けて！」といった声掛けをしながら戻るようにした。</p> <p>⑧事後振り返り（クラウドサービスのアンケート機能を利用）</p>
得られた成果	<ul style="list-style-type: none">・防災科学技術研究所の「防災意識尺度」と、訓練に関するアンケートを実施。生徒から厳しい意見や真面目に取り組めなかった反省等が見られるが、それもまた生徒が主体性を持って参加している結果だと捉えている。今年度は生徒アンケートへのフィードバックも行った。・反省点としては、消防署員からの講評について、「教育」的な効果を狙って講評をお願いしたが、事前の打ち合わせが不十分であったこともあり、教員に対してのマイナスの講評が長く続くという事態が発生した。外部との防災教育の連携においては、相手に防災「教育」の方針を説明し、理解を得ておくことが重要と改めて学んだ。また、抜き打ちの訓練はまだ実施できていないが、生徒からの要望もあるので、今後検討していきたい。 <p>防災訓練の生徒感想・意見と防災減災について考えていること</p> <ul style="list-style-type: none">・去年より、真剣に取り組む事ができた。災害が起きたら、やはりみんなで協力しなければならないと改めて思った。防災訓練は真面目に取り組まないといけないし、いつ災害が起きてもおかしくないので、日頃から冷静な判断ができるようになりたい。・学校での防災減災が進んでも、それは学校にいる間しか適用されないもので、家の防災減災にも取り組むきっかけにしたい。・朝の先生のお話で、災害は必ず死ぬ人より生きてる人の数の方が多いと聞きました。しっかり自分の身は自分で守っていつ災害が起こってもいいようにしたいです。・この学校にいる間に大きな地震が起ころなかったとしても、私が生きている間には地震は必ず起こるので、この6年間防災訓練で学んだこ



	<p>とを忘れずにこれからも生活していこうと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京で災害が起こった時に被災地ボランティア等を通して学んだことを生かして率先して動けるような人になりたいです。今回の防災訓練を通して、生徒だけでなく先生も一丸となってさらに防災教育に励むべきだなと感じました。 <p>▼学年問わず、鋭い指摘や要望をする感想も多く見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防士の方が注意して下さったことは、生徒はもちろん先生方もメモを取るようにした方がいいと思います。訓練だから、決まった行動をすればいいと思ってしまおうと思いますが、生徒も先生も実際に地震や火事が起きていると想像し、自分で考えて行動出来るようにしていけたらいいと思います。 ・訓練で、意識の差が大きな違いを生むことが感じられました。学校にいる人全員が当事者意識を持たないと、これからもっと目黒星美を防災に強い学校にすることは出来ないのではないかと思います。 ・私たち高校3年生が卒業するまでに、予告なしの訓練をやってほしい。今日は予告ありの訓練だったため、地震がくる時間も、どのように行動するかなどもあらかじめ考えておくことができた。でも、いつか本当に地震や災害が起きた時、今日みたいに動けるかはわからない、むしろ、いくら訓練を真面目に受けていたとしても、本番、訓練通りに動ける可能性は少ないと思う。できれば、1学期に一回くらいのペースで訓練や講習のようなものをしてほしい。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、日程をずらして、もう少し時間に余裕を持って取り組めることになったので、過去2回の訓練を活かして、実施したい。全校炊き出し訓練も行いたい。 ・訓練では厳しい講評も受けたが、日常の中での改善や夏の教員研修での再度の訓練などを行い、その結果を生徒にもフィードバックした。 ・昨年、音響設備がうまく使えなかった反省を活かして、今年度は予め、音量を調節し、効果音（揺れの音）も入れたCDを作成した。 	



記入日	2019年11月5日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	38(訓練②)	
タイトル	知らないは無力!大切な人を,家族を,命を守るための技術と心を磨こう!(生徒対象救命講習)	
実践担当者のお名前	安達(養護教諭)	
実践にかかった金額	1000円未満	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年9月3日12時30分~15時30分	
実践の所要時間	3時間	
実践の運営側で動いた人の人数	2人	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生	
防災教育の対象者の人数	38人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校多目的室	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員(消防署に派遣を依頼) ・テキストブック&マウスピース(参加者が購入) ・レサシアン人形 ・AED 	

達成目標	<p>①心肺蘇生,人工呼吸,AEDの使用法,応急処置について理解し,技術を身につけることができる。</p> <p>②傷病者対応は,救急隊や医師が行うだけでなく,第一段階としてバイスタンダーが行う応急手当が重要だということを理解する。</p> <p>③自分と他者を大切にする,守る術を身につける。</p>	
どの力を身につけようと思いましたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法

実践内容：成城消防署員 1 名，東京防災救急協会 3 名，1 名の指導の下，普通救命講習テキスト（ガイドライン 2015 対応）に基づき，レサシアン人形・AED を使用した心肺蘇生，人工呼吸の演習実施。

実践方法：

① **4 月上旬：**成城消防署に普通救命講習を依頼。電話で実施希望日と実施可能かどうかを確認後，「救命講習依頼書」を FAX にて消防署へ送付。（日時を押さえる）



② **6 月下旬～7 月上旬：**中 1～高 3 の参加希望者を募り，人数が確定したところで消防署へ報告。



③ **8 月下旬：**参加者名簿（性別・名簿・生年月日・学校住所）を公益財団法人東京防災救急協会救急事業部救急指導科へメールで送信。
→当日，受講申請書の記入を省くことができ，救命技能認定証を生徒に配付できる。



④ **当日：**

- ・実施約 1～2 時間前に用務員に人形や AED などの必要物品を消防署へ車で取りに行ってもらおう。
- ・約 1 時間前に消防署員・東京防災救急協会・消防団の方が到着するため，会場に案内をする。
- ・終了後は，生徒たちも一緒に片付け。
- ・感想をクラウドサービスのアンケート機能を通じて提出させた。

⇒結果は，「得られた成果」





<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none">・生徒が防災意識を高めながら、実践的スキルを身に付けることができた。 <p>問 1. 今回、救命講習に参加しようと思った理由を書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">・保健の授業で習った心肺蘇生のやり方や AED の使い方を詳しく知りたかったから。・いざというときに勇気ある行動を取ることができるように学んでおきたかったからです。・私が救命講習に参加し、AED などを使って人を助けた場合 1 人の命が救えるということを思ったので参加しました。そして、このような機会がこれから無いかもしれないと思い、今回はチャンスだと思ったからです。</div> <p>問 2. 今回の救命講習で学んだこと、今後に生かしたいこと等を自由に書いてください。また、講習中には聞けなかった疑問点などもあれば書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・心肺蘇生で手を組んだ時に指先をつけないように押すということを初めて知りました。また、心肺蘇生は心臓の代わりだと聞いて、参考になりました。・AED を使うとき、周りに助けを求めるために大声を出すのを学びました。また、人が倒れていても助けに動かない人がいるので自分自身で指示をするのが大切であると思いました。・自分が救急手当をして万が一の場合があっても罪にとわれない。・今まではやはり AED を使ったり、緊急の手当てをしたりすることに対して自分でできるのだろうか、という気持ちがありましたが、今回実際に AED を使ってみると音声でどうしたら良いかを教えてくれたりしたので自分 1 人で全てをやろうとせず周りの人と協力しながら手当てをすることも大切だと学びました。・いざとなった時に、「AED を持ってきてください」と言われても、初めて来た場所だったり、よく知らない場所だとどこにあるかわからないと思います。「日本全国 AED マップ」の情報を、多くの人が利用する Google マップなどに重ねればより多くの人 AED の設置場所が分かって良いと思いました。
---------------	--



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫 課題	例年，生徒から出る質問などを予め消防署の方たちに伝えておくと，講習の中に入れてくれる為，より有意義な時間になると感じた。	



記入日	2019年12月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	39(教員研修①)
タイトル	教員の防災防犯1日研修
実践担当者のお名前	安達(防災係)
実践にかかった金額	3万円未満(炊き出し訓練, 文房具)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年8月30日9時00分~15時00分
実践の所要時間	6時間
実践の運営側で動いた人の人数	7人
防災教育の対象者の属性	教職員
防災教育の対象者の人数	約50人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 大会議室・調理室・ラウンジ
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	炊き出し訓練: アルファ米炊き出しセット・カレー (期限の近いものを消費) ヒヤリハットマップ: 近隣地図・丸いシール 救命講習: 救命講習指導員・AED・訓練用入形

達成目標	<p>【目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災が非常時に向けた危機意識の向上であるのに対し, 防犯は日常の危機意識の向上と言える。防災と防犯の両面から取り組みを強化することで, 全体の意識向上を目指す。 <p>【背景・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では, 4年前から教職員を対象とした「一日防災研修」を実施している。例年, 地震対応に重点を置いた研修をすることが多いが, 今年度は防犯・防災両面を強化する研修を行うことにした。
------	--



実践内容・方法	<p>(1) 事前準備</p> <ul style="list-style-type: none">・救命講習申し込み（4月）→管轄の消防署・炊き出し訓練の準備・備蓄食料の期限確認（7月）・防犯研修用パワーポイント・資料作成（7月）・近隣地図のコピー（8月）・シールの購入（8月）・火災報知器・防火扉の管理業者への連絡（8月） <p>(2) プログラム・当日の流れ</p> <p>9:00～9:30 地震発生時の初動訓練</p> <p>9:30～12:00 防犯研修</p> <p>12:00～13:30 昼食（炊き出し訓練）&ヒヤリハットマップ作り 校内防犯ツアー・発電機試運転</p> <p>13:30～15:00 救命講習（90分コース）</p> <p>15:00～15:30 火災報知器・防火扉訓練</p> <p>地震発生時の初動訓練</p> <p>6月の全校防災訓練の経験を踏まえて、「地震発生時に管理職がいない」という設定で、初動訓練を行った。</p> <p>防犯研修（詳細は省略）</p> <p>これまでは、地震発生を想定した研修を行ってきたが、今年度は、日常の危機意識を高めるために、午前中は防犯研修を行った。</p> <p>炊き出し訓練</p> <p>メニュー：アルファ米（白米）とカレー</p> <p>ヒヤリハットマップ作り（ワークショップ）</p> <p>昼食のテーブルごとに、マップ作りに取り組んだ。</p> <p>「防災」「防犯」「日常」の視点から、気づいたこと・気になることを出し合い、色別のシールを貼った。</p>
---------	---



救命講習 (90分コース)

年によっては、3時間コースを受講している。

火災報知器・防火扉訓練

6月の全校防災訓練の際に消防からの講評の中で、火災報知器が鳴ったときの教員の動作について、不十分だったと指摘を受けた。

→実際に、訓練として火災報知機を鳴らして、警報盤の表示を確認したり、防火扉が閉まる様子を観察した。(一連の作業は、管理業者に依頼)

得られた成果

・防災と防犯の両面から取り組みを強化することで、全体の意識向上が図れた。

課題・苦勞・工夫

苦勞

工夫

・毎年、教員でアイデアを出し合いながら、手作りで研修を企画している。企画や資料探しは、やりがいがあるが苦勞している。
・2学期のに生徒に、教員研修の報告をした。特に、6月の防災訓練で消防士の方から指摘された「先生の反省点」を改善すべく、初動訓練と防火設備の訓練を行ったことを報告した。



記入日	2019年12月27日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	40(日常の工夫①)
タイトル	1分間で生徒の意識を変える「いつかその時の5秒前」 (大地震発生への自分事意識を持たせる工夫)
実践担当者のお名前	京
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	(日々のちょっとした時間)
実践の所要時間	1分
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約450人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	教室など

達成目標	【目的・目標】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で生徒の意識を変える防災アクティビティを考案する。学校現場で、ちょっとした時間にできるものを目指す。 ・「まさか自分が災害に遭うことはないだろう」「いつかその時が来るかもしれないが、それは今日ではない」という意識を、ちょっとした工夫の積み重ねで変えていく。 	
	【背景・経緯】	
	<p>東日本大震災から時間が経つにつれて、「風化」という言葉を聞くようになったが、東日本大震災をきっかけとして、首都直下地震をはじめ、次に起こり得る災害に向けて、防災活動を進めている立場からは、「日々、次の災害に近づいていっている」という視点の転換を図りたいと考えた。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法

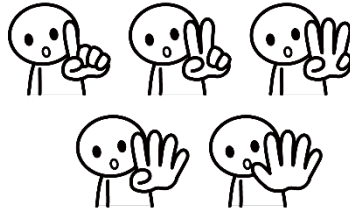
以下のやり取りを、生徒と行う。

教員 (突然、思いついたように時計を見て、)

「あ！皆さん、大変です！あと5秒で大きな地震が来ます！」

…教員は無言で5秒カウントする…

生徒 (半信半疑ながらも、空でカウントする様子)



●●
今は、来ませんでしたね。



教員 (心底、ホッとした様子で、)

「あー良かったー。今は、来ませんでしたね。」

生徒 (ニヤニヤ…)

教員 (ちょっと真面目な表情で、)

「でも、皆さん、2011年3月11日の地震が発生する、もしくは緊急地震速報が鳴る5秒前に、『あと5秒で地震が来る』と予想していた人？」

生徒 (ハッとした表情を浮かべる)

教員 「先生はあの日の5秒前は、週末は宮城に帰るつもりで、のん気にテストの採点を頑張っていました。」

生徒 「私も気づかなかったー」

教員 「今日は、たまたまそのときの5秒前ではありませんでした。」

でも、必ずいつか私たちは、『そのときの5秒前』を迎えます。だからその時まで一人一人がしっかりと備えましょう。」



- ・このやり取りを日常の中で何度か繰り返す中で、「いつか大きな災害に直面する時が来る」という意識が、生徒の中に根付いていく。
- ・勿論、生徒を怖がらせることが目的ではなく、話のオチとしては、防災に前向きに取り組む気持ちを持たせる。



得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、「防災意識を変えた印象に残るアクティビティ」として、しばしば挙げてくれる。生徒と教員間のコミュニケーションとして、「お気に入りのやり取り」になっていると、教員は思っている。 ・「いつか自分が大きな地震に遭うかもしれないと思う人？」という問いに対して、ほとんどの生徒が即、手を挙げるようになった。 ・揺れが発生した時に、生徒たちがすばやく身を守る行動を取るようになった。この行動は、「いつ、5秒前になるか分からない」という意識が心のどこかにあることも、影響していると考えられる。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<p>今後、東日本大震災の記憶が薄い・ない生徒たちが入ってくるので、「東日本大震災の5秒前」のことを思い浮かべてもらうことができなくなるため、表現を変えていく必要がある。</p>	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育をちょっとやってみたいと思っている先生方
伝えたい内容	防災教育を始めた初期の頃に考えたアクティビティです。思っていたよりも、生徒からの評判が良かったです。生徒の意識や認識を短時間でひっくり返すことができるので、お薦めです。


課題



記入日	2019年12月18日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	41(日常の工夫②)	
タイトル	はにわ DE LED	
実践担当者のお名前	市橋(社会科)	
実践にかかった金額	1000円未満/人(粘土・LEDライト・送料など含む) 全体では,	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年9月29日~10月18日	
実践の所要時間	5時間程度	
実践の運営側で動いた人の人数	6人:教員(2)・生徒(4)	
防災教育の対象者の属性	小学生(高学年)	
防災教育の対象者の人数	約10人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所 例:〇〇小学校体育館	目黒星美学園中学高等学校 美術室	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	粘土・LEDライト・オープンなど	

達成目標	粘土で埴輪を作ることを通じて、歴史に親しみ、さらに、LEDを埋め込むことまでを考えることで、震災時などにも卓上LEDとして利用できるものとして、防災意識を高めるものとする。 ★本プランは、小学生を対象とした本校の「体験授業・社会科」の一環で、実施した。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり



<p>実践内容・方法</p>	<p>オープン粘土を用い、作成。</p>  <p>埴輪のベースを作成するために、紙コップ（予めラップを巻いておき、粘土を剥がしやすくする）を使用して、粘土を貼り付ける（ひび割れなどしないよう、厚さは耳たぶ程度）。</p> <p>↓</p> <p>ベースが出来たら、思い思いの装飾を施し、LEDの光が洩れる穴を開けるなどの作業を実施。粘土は水をつけて乾燥を防ぎながらつけていった。</p> <p>↓</p> <p>▶ 高校生が作成した見本</p> <p>2週間程度乾燥させてオープンで焼く。 クッション材を入れて発送。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>これだと光が外に広がらなかったため、本番は、側面に穴を開けて作成した。</p> </div> 	
<p>得られた成果</p>	<p>古代の営みに触れつつ、防災意識を高めることができた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>苦勞</p> </div>	<p>10名程度の不慣れな児童を指導する場合は、教員1人では難しい（美術系教員であれば別だが）ので、高校生4名の助けも借りて、事前に練習も行い実施した。また、できあがったものを後日オープンで焼いたが、割れないよう事前にドベなどで加工する手間もかかる。</p>	

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>未来を担う小学生</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>身近な親しみやすい題材で防災を考えていきましょう！</p>



記入日	2019年12月27日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	42(日常の工夫③)
タイトル	備蓄食料でパン食い競争!? 選ばれたのは・・・ (台風19号に伴う臨時競技の実施)
実践担当者のお名前	太田(体育科)
実践にかかった金額	3000円未満(ようかんの費用) ※ただし、期限の近づいた備蓄食料を活用
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月15日
実践の所要時間	20分
実践の運営側で動いた人の人数	10人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約80人(高校3年生)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 グラウンド
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	備蓄食料のようかん・パン食い競争用の棒と洗濯ばさみ

達成目標	<p>【目的・目標】 パン食い競争のパンの代替品として、備蓄食料を使い、体育祭の種目とする。</p> <p>【背景・経緯】 台風19号の影響で、体育祭(10/15実施)のパン食い競争用のパンが必要数入手できない可能性が発生した。そのため、急遽、備蓄食料で使えるものがないか検討することになった。</p>	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し



<p>実践内容・方法</p>	<p>①パン食い競争のパンの代替品として、何が使えるかを検討した。</p> <p>②野菜ジュースは重く、アルファ米やビスケットはサイズが大きいため、クッキーは期限が近いものがなかったため、ようかんに決定した。</p> <p>③パン食い競争の棒に、ようかんを下げる工夫をした。</p> <p>④当日は、準備できたパンと並べて、ようかんを設置した。</p>	
<p>得られた成果</p>	<p>・生徒からは「ようかんは、パンよりも取りづらい」という感想もあったが、インパクトはあり、体育祭の思い出として、印象には残った様子だった。</p> <p>・期限の近づいた備蓄食料の有効な活用になった。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
<p></p>	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>少し</p>
<p></p>	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>少し</p>
<p>課題・苦労・工夫</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ccc; padding: 2px 5px;">工夫</div> </div>	<p>・私立学校では、自校生徒分の食料を学校で準備するため、防災担当者からしばしば課題の1つとして挙がるのが、「水・食料の処分方法」である。期限の迫った食料の有効な使い道にもなった。特に競技に参加したのは高校3年生であり、例年、卒業前に備蓄食料を配布しているので、ユニークな返還の仕方にもなった。</p>	





記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	43(日常の工夫④)
タイトル	誰でも防災係!日常の中で防災対策に生徒を巻き込む工夫 —大掃除で防災倉庫探検
実践担当者のお名前	京(防災係)・(環境美化委員)

実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	2019年 月 日 時 分～ 2019年12月21日 時 分～時分
実践の所要時間	30分
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約5～10人(1回あたり)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 防災倉庫
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	バインダー・紙・ペン

達成目標	本校では、「一人一人が防災係」を打ち出している。学校の備蓄品の管理は、「教員がすべき防災対策」の1つであるが、防災教育の一環として、生徒と管理点検を行っている。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	全く
	学びに向かう力・人間性	少し



<p>実践内容・方法</p>	<p>①大掃除の分担のときに、「防災担当」の班を作ってもらおう。</p> <p>②生徒が2人1チームになり、個数や期限などの備蓄品のチェックを行う。</p> <div data-bbox="587 450 1291 842"></div> <div data-bbox="580 855 1291 1254"></div>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none">・生徒からは「思ったよりも楽しかった」という感想が聞かれる。大掃除の一環で、備蓄倉庫の点検をすることは、特別感もあり、楽しく感じる様子。・チェックにあたっては、予め一覧表にしたものを渡しても良いが、時間に余裕があるときは、白い紙を渡して、品名や期限を書き出してもらおうと、生徒はどのようなものがあるか、しっかりチェックして、より把握できる。・「防災担当の先生がいないときに、地震が起こるかもしれないから、ここに備蓄品があることを覚えておいてね」と必ず一言加えることで、学校の防災対策に対しても、生徒に主体性を持たせる。	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>全く</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>



課題・苦勞・工夫 課題	備蓄食料を目にした生徒から、必ず「食べてみたい」という要望が上がるので、その声を拾って、試食会のようなイベントに繋がられると良い。
-----------------------	---

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	先生
伝えたい内容	日常のやり取りが、生徒の意識を変えるチャンスです。大きなことではなく、小さな積み重ねが一番、生徒の意識改革と成長に繋がりました。「防災に詳しくないから、担当ではないから防災教育ができない」という声をしばしば耳にしますが、毎日、生徒と共に過ごす教員が、やっぱり一番そのチャンスを握っているのです。「先生は誰でも防災教育担当者」だと思います。



記入日	2019年12月10日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	44(日常の工夫⑤)	
タイトル	世界に向けて発信しよう! 外国からのお客様に英語で活動紹介	
実践担当者のお名前	小西(教頭)	
実践にかかった金額	ほぼ0円	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年10月16日16時10分~16時20分 2019年10月18日15時20分~15時30分	
実践の所要時間	10分(1回あたり)	
実践の運営側で動いた人の人数	人	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・海外	
防災教育の対象者の人数	約500人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校ラウラメモリアルホール	
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パワーポイント, 英語	

達成目標	本校は、イタリア系の修道会が母体のミッション校であり、外国からの視察が来ることがある。今年は同時期にフランス人とアメリカ人のシスターの学校訪問があり、その歓迎会(学校行事)の中で、生徒の代表による英語と日本語で被災地支援や防災活動の紹介を行うことになった。	
どの力を身につけようと思いましたか?	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	少し





<p>実践内容・方法</p>	<p>①スライドの作成（10月上旬） ②原稿作成・英訳 ③リハーサル ④本番（10/16・18）</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災について ・被災地ボランティア研修がはじまったきっかけ (生徒が先生に活動を提案した) ・これまでの活動のダイジェスト版 ・被災地ボランティア研修から広がった活動の紹介（東京での復興支援イベント，地域での防災活動，地域でのボランティア活動） 	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒が参加する学校行事であったため、「他の生徒たちの関心を高めること」にも繋がった。 ・特に中1にとっては、震災当時を思い出したり、初めて活動の詳細を知る機会となった。 ・学校オリジナルの「携帯トイレ」をプレゼントして、生徒たちが作成に至った経緯を説明したところ、大変興味を持ってくださり、イタリアやバチカンでも紹介することを約束してくださった。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備時間が限られていたため、複数の教員・生徒で分担して、過去の資料やスライドを活用しながら、発表の準備を行った。 	

苦勞



記入日	2019年12月29日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	45(日常の工夫⑥)
タイトル	修学旅行で「I♡防災」「We♡減災」
実践担当者のお名前	京(中3担当)
実践にかかった金額	3000円未満
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	2019年11月16日19時00分~20時00分
実践の所要時間	60分(小箱の制作時間)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	—
防災教育の対象者の人数	—
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	宿泊先のホテル(小箱の制作→使用場所は学校内)

達成目標	防災に関することに楽しそうに取り組む教員の姿を見せることで、防災に対するポジティブな印象を生徒に与える。	<p>2018年</p>  <p>2019年</p> 
実践内容・方法	修学旅行の際に、伝統工芸体験(小箱の絵付け)で、教員が防災減災デザインを制作した。	
得られた成果	小箱の日常的な使い方を生徒に考えてもらい、「授業で生徒の指名に使っている番号札」を入れるケースにすることになった。「生徒からの提案で使っている」ことを紹介しながら、毎日持ち歩いている。	
課題・苦労・工夫	本当に小さな工夫であるが、こういったことが、 ① 生徒が防災・減災というワードを「日常のもの」として捉える積み重ねになり、また、 ② 「防災に関する提案を先生にしてみよう」という雰囲気づくりに繋がるので、大事にしている。	

